

科目名		スポーツと科学					
教員名		田原 麗衣					
科目No.	120630010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 オンライン (前期)
〔テーマ・概要〕 本科目では、運動・スポーツとくにそのパフォーマンスに着目し、自然科学的なアプローチをすることで、より理解を深めることを主たる目的とする。 スポーツパフォーマンスを構成する・支える要素は、「スキル・フィットネス・モチベーション」といわれ、日本でも古来から「心・技・体」といわれるように、世界共通である。また、近年注目されるようになってきた「戦術・戦略」などの要素がある。これらの要素をもとに、スポーツパフォーマンスを支える科学について授業を展開、検証する。 運動・スポーツを題材とし、それぞれの要素を科学的に検証し、要素還元論的な考察をする過程を通して、合目的に活動するための教養を高めてもらいたい。							
〔到達目標〕 ①スポーツ・運動に関する科学的根拠を理解でき、スポーツ関連諸科学の学問内容や方法が理解できる。 ②自己やスポーツ・運動を客観的に把握・分析し、論理的に説明できる。さらに、様々な知識、原理原則等を活用できるようになる。 上記を到達目標とし、DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）の実現を目指す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス： シラバスの内容、授業の進め方、評価基準等について把握する。			シラバスからあらかじめ授業内容を把握し、授業の全体像や進め方、評価基準について確認する。		60	
第 2 回	スポーツパフォーマンスを構成する要素： スポーツパフォーマンスを構成する要素や体力トレーニングの理論について把握する。			【予習】スポーツパフォーマンスに影響を及ぼしている要素を考えてみる。 【復習】自身の体力向上のためのトレーニング計画を立ててみる。		60	
第 3 回	スポーツと体力科学： ピリオダイゼーション（期分け）とトレーニングプログラミングについて把握する。			【予習】トレーニング計画を立てる上で注意すべき事項について考えておく。 【復習】スポーツにおけるピリオダイゼーション(期分け)について、各期の課題を説明できるようにする。		60	
第 4 回	スポーツと体力科学： 各機能を高めるためのトレーニング方法についての理論や方法を理解する。			【予習】現在（過去）行っている練習で高められる機能には、どのような要素があるか考えてみる。 【復習】目的に応じたトレーニングの方法を説明できるようにする。		60	
第 5 回	スポーツと体力科学： ウォーミングアップやクールダウンの意義や正しい方法を理解する。 熱中症や正しい水分補給についての理解を深める。			【予習】ウォーミングアップやクールダウンの意義を考えてみる。 【復習】自分が行うウォーミングアップやクールダウンの計画を立ててみる。		60	
第 6 回	スポーツと技術の科学： 運動やスポーツにおける技術の定義や技術における動作の局面構造と運動協調について把握する。			【予習】運動・スポーツにおける技術的な上手さ（巧さ）とはどのような状態を指すか考えておく。 【復習】技術における動作の局面構造を説明できるようにする。		60	
第 7 回	スポーツと技術の科学： スポーツの技術に関する能力段階と技術トレーニングについて理解する。			【予習】運動学習の段階について調べておく。 【復習】技術に関する能力段階に応じた、技術トレーニングについて計画を立ててみる。		60	
第 8 回	スポーツと心理学： メンタルトレーニングの基礎理論とアセスメントについて把握する。			【予習】スポーツにおいて用いられているメンタルトレーニングについて調べておく。 【復習】自身のメンタルアセスメントを元に、自身の状況を分析してみる。		60	
第 9 回	スポーツと心理学： スポーツにおけるリラクゼーションや様々なメンタルトレーニングプログラムについて把握する。			【予習】メンタルトレーニングプログラムについて調べておく。 【復習】授業で扱ったリラクゼーション法やメンタルトレーニングプログラムを実践してみる。		60	
第 1 0 回	コンディショニングの科学： スポーツにおけるコンディショニングについて把握する。リカバリーの方法として、栄養面からのアプローチや体のケアの方法などを理解する。			【予習】最大限のパフォーマンス発揮のために必要な要素について考えておく。 【復習】自身の重要な場面（スポーツに限らなくても良い）に向けたコンディショニングについて考えてみる。		60	
第 1 1 回	スポーツと戦術・戦略の科学： スポーツにおける戦術・戦略、作戦について基本的な理論を把握する。			【予習】スポーツにおいて、戦術・戦略がどのように活用されているか調べてみる。 【復習】戦術・戦略や作戦について具体的に説明できるようにする。		60	
第 1 2 回	スポーツと戦術・戦略の科学： スポーツにおけるゲーム分析やデータの活用について把握する。			【予習】スポーツにおけるゲーム分析やデータの活用について、具体例を調べておく。 【復習】より有効にデータを活用し、戦術・戦略を立てる方法を考えてみる。		60	
第 1 3 回	スポーツとデータの活用と展開：スポーツにおけるデータの活用と展開について考察する。			【予習】データを活用している身近な例を考えておく。 【復習】今後のスポーツにおけるデータの活用と展開について考察する。		60	
第 1 4 回	講義のまとめ： これまでに行った学修内容をまとめ、学修内容を確認する。 (理解度確認テストを実施予定)			【予習】これまでの回で学んだ内容を確認しておく。 【復習】理解度確認テストを通して自身の理解度を確認し、理解度が足りない点は復習する。		90	
〔授業の方法〕							

この授業はオンデマンドで実施する。

各回のテーマに則した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いて講義形式で授業を展開する。

授業内課題レポートを課すので、そのレポートを利用して受講生とのコミュニケーションを図り、出来る限り双方向の授業を展開する。

ただし、授業の進捗状況等によって、内容を一部変更する場合がある。

〔成績評価の方法〕

課題提出状況 60%、平常点（授業への参加状況を含む） 40% により総合的に評価する。

最終週に理解度確認テストを実施する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

上記、到達目標の達成度にもとづいて評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識や先修科目は特に必要としない。

関連科目として、健康・スポーツ科目の「健康と科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツ演習 A」、「健康・スポーツ演習 B」の実技科目がある。

〔テキスト〕

特になし。必要な資料は授業内に配布・掲示する。

〔参考書〕

参考書は授業中に適宜指示する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に **CoursePower** にて受け付ける。

その他の質問・相談方法はポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		スポーツと文化					
教員名		稲葉 佳奈子					
科目No.	120640010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本科目は、スポーツの文化的特質や固有の意義に着目する。スポーツ文化の成立と発展プロセス、スポーツの多様なあり方、スポーツが直面する課題を具体的事例から示し、歴史や社会的背景と関連させて概説する。 講義および各回のテーマに関する考察を通じて文化的側面から運動・スポーツへの理解を深め、視野を広げることを目指す。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 ① スポーツが固有にもつ意義について、具体的現象と社会的背景との関連から理解することができる。 ② スポーツの文化的特質について、学問的知識にもとづいて論理的に考察および表現することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス：授業の概要、成績評価の方法、必要な予備知識等についての説明			シラバスの内容を確認する。		60	
第 2 回	スポーツとは何か			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 3 回	近代スポーツの成立と発展			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 4 回	階級文化としてのルール			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 5 回	平和運動としてのオリンピック			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 6 回	スポーツとメディア			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 7 回	スポーツの商業化			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 8 回	東京オリンピックと都市開発			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 9 回	日本のスポーツ文化			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 1 0 回	スポーツとドーピング			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 1 1 回	スポーツと社会問題			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 1 2 回	これからのスポーツ文化			配付資料にもとづき講義内容をふりかえる。		60	
第 1 3 回	到達度の確認			到達度が足りないと自覚された箇所を重点的に復習する。		60	
第 1 4 回	フィードバックとまとめ			学修内容を総合的にふりかえる。		60	
〔授業の方法〕 ○ PowerPoint 等のスライド資料を提示して講義する。 ○ 授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。 ○ 各回の講義内容に即した授業内課題を指示する。							
〔成績評価の方法〕 授業時に取り組む課題（30%）、到達度確認課題（70%）をもとに総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ○ 学問的知識と具体的現象との関わりが適切に理解できているか。 ○ 授業内容の理解をふまえた論理的な考察・表現ができているか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目として講義科目「スポーツと科学」、「健康と科学」、「スポーツと社会」、演習科目「健康・スポーツ演習 A」、「健康・スポーツ演習 B」がある。
〔テキスト〕 特になし。必要な資料等は Course Power を通じて配布する。
〔参考書〕 特になし。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		スポーツと社会					
教員名		岡田 光弘					
科目No.	120650010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 本科目は、運動・スポーツと社会との関わりについて理解を深めることを主な目的とする。 運動・スポーツ、および、様々な社会構造について、概念的な理解を深めることで、運動・スポーツを実践し、享受し、支えることの社会的な意義を理解し、自らその環境を活用するための教養を高めることを目指す。							
〔到達目標〕 ①スポーツの社会的側面について理解でき、関連する諸科学分野の学問内容や方法を理解できる。 ②スポーツに関する政治・経済などの社会の仕組みと動きを理解し、その活用について考えることができる。 上記2点を到達目標とし、DP2（教養の修得）、DC3（課題の発見と解決）の実現を目指す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス			シラバスを読み、あらかじめ授業内容や全体像、進め方、評価基準等について確認する。		60	
第2回	スポーツについて概念的に把握する。			スポーツ・ゲーム・プレイについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例について、講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第3回	社会学について、概念的に把握する。			全体社会や社会構造について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例について、講義で学んだ概念や用語と結びつけて理解する。		60	
第4回	質的な社会学について、概念的に把握する。			社会の中のスポーツ実践について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第5回	近代スポーツの成立と発展について、概念的・歴史的に把握する。			近代スポーツの成立と発展について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第6回	メディア化するスポーツについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。			メディア化するスポーツについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第7回	消費文化としてのスポーツについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。			消費文化としてのスポーツについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第8回	スポーツと政治・権力について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツと政治・権力について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第9回	スポーツとジェンダーについて、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツとジェンダーについて、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第10回	スポーツする身体について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツする身体について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第11回	スポーツと教育について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツと教育について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第12回	スポーツと地域社会について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			スポーツと地域社会について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第13回	職業としてのスポーツや視聴者としての消費について、概念的に把握し、若干の例示を行う。			職業としてのスポーツや視聴者としての消費について、具体例を挙げられるようにしておく。 具体例を講義で学んだ概念や用語と結びつけ理解する。		60	
第14回	まとめの講義			これまでの学修を総合的にふり返る。		60	
〔授業の方法〕 ・各回のテーマに即した資料（スライド、動画資料、配布資料）を用いながら講義形式で授業を進める。 ・毎回授業内でレポートを課する。 ・授業の進捗によって、予習内容について報告（プレゼンテーション）を求めるなど、内容を一部変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕 「学期末試験」「期末レポート」は実施しない。 各回のレポート（受講状況を含む）60%、 最終回まとめのレポート40%をもとに、総合的に評価する。							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. また、次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。 ・キーワードを用いて学習した内容を論理的に説明できるか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目として、健康・スポーツ科目の「健康と科学」、「スポーツと科学」、「スポーツと文化」の講義科目、「健康・スポーツ演習 A」、「健康・スポーツ演習 B」の演習科目がある。
〔テキスト〕 改訂版『よくわかる スポーツ文化論』、井上俊・菊幸一編著、ミネルヴァ書房、2500 円
〔参考書〕 『現代メディアスポーツ論』、橋本純一編、世界思想社、2300 円
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 CoursePower でのやりとりに加えて、木曜日の出講時（2 時限語.3 時限後）には、体育館の講師室でも受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		健康と科学					
教員名		境 広志					
科目No.	120660010	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 オンライン (前期)
〔テーマ・概要〕 生涯を通じて健康に過ごすためには、大学生のときから健康について考え、正しい知識を身につけておく必要があります。健康づくりには運動、栄養、休養（睡眠）の 3 要素が欠かせません。本講義では、健康を維持・増進するための 3 要素と生活習慣病、感染症、喫煙、飲酒などの健康に関する科学的根拠に基づく知識について学びます。							
〔到達目標〕 ① 健康づくりの必要性を認識し、科学的根拠に基づいた健康の維持・増進に関する知識について理解し、それらを自己の健康実現と結びつけて考えることができる。 ② 健康の維持・増進を目的としたライフスタイルを安全かつ効果的に実践するための方法を科学的に説明できる。 上記 2 点を到達目標とし、DP2(教養の修得)、DP3(課題の発見と解決)の実現を目指す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション 1. 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、課題レポートについて、評価基準の説明 2. 講義内容に関するミニテストの実施			【予習・復習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第 2 回	運動による健康の維持・増進 1. 運動不足による体への影響 2. 過剰な運動による体への影響			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第 3 回	運動の効果と実践 1. 運動の種類と効果 2. 運動の環境づくりと実践			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第 4 回	生活リズムと食事 1. 規則正しい食生活 2. バランスの良い食事			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第 5 回	ダイエットと食事 1. 身体に与える影響 2. 健康的な体重の維持・管理			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第 6 回	スポーツと食事 1. スポーツ選手の食事 2. サプリメントの使用と効果			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第 7 回	睡眠と健康 1. 睡眠とは 2. 睡眠が身体に与える影響			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第 8 回	快適な睡眠のために 1. 睡眠への工夫 2. 休養のすすめ			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第 9 回	生活習慣病とその予防 1. 生活習慣病とは 2. 生活習慣病の予防			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第 1 0 回	感染症とその予防 1. 感染症の問題 2. 感染経路と予防・対策			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第 1 1 回	喫煙と健康 1. たばこの依存性 2. 身体に与える影響 3. 喫煙への対策			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第 1 2 回	飲酒と健康 1. 飲酒の健康影響(急性作用) 2. 飲酒の健康作用(長期的作用) 3. 正しいお酒の飲み方			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第 1 3 回	ストレスとその対処 1. ストレスとは何か 2. ストレスへの対処法			【予習】『事前学習しておくべき用語』に挙げているキーワードを調べる。 【復習】キーワードを用いて学習した内容を要約する。		60	
第 1 4 回	まとめ 1. 全体のふりかえり 2. 期末レポートの紹介			【予習】作成した期末レポートをふりかえる。 【復習】他の受講生の期末レポートについてふりかえる。		120	
〔授業の方法〕 基本的にはオンデマンド形式で行います。授業日の朝 8 時に授業を配信しますので、1 週間以内に受講(視聴)してコースパワーにふりかえりを提出してください。							
〔成績評価の方法〕 以下の基準で総合的に評価します。 ・授業への参加・取組状況など(ふりかえりの提出状況と内容を含む)： 40% ・期末レポート： 60%							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・ 毎回の授業のテーマと内容について基本的な理解ができているか。 ・ キーワードを用いて学習した内容を論理的に説明できるか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目として、健康・スポーツ科目の「スポーツと科学」、「スポーツと社会」、「スポーツと文化」がある。また、法学部生は、学部開講の「健康政策論」を併せて履修することが望ましい。
〔テキスト〕 テキストは特にありません。授業内で『わたしたちのからだと健康』（医学映像教育センター）の視聴覚資料(DVD)を使用します。
〔参考書〕 参考書は授業中に適宜指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。
〔特記事項〕

科目名		哲学の基礎<3>					
教員名		金成 祐人					
科目No.	120710130	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 「確実に存在するものはあるのか」、「人間と動物に違いはあるか」等、私たちの日常をあらためて問い直すような問いを哲学は提起しています。本科目では、哲学者の議論や映画等の映像資料を参考にして、自分で考える力を養います。他の学生や教員との対話を通じて、自らとは異なる考え方を知る機会が得られるでしょう。この科目はアクティブ・ラーニング型の授業形式をとって、議論する時間やグループワークの時間を設け、希望者によるプレゼンテーションを実施します。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）、4（表現力、発信力）、5（多様な人々との協働）、6（自発性、積極性）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ①講義で取り上げる問題を理解することができる。 ②自分で考え、他者に意見を伝えることができる。 ③論理的・批判的に思考できる。 ④他者との対話を通じて、より良い考え方を一緒に模索することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション（哲学とは何か）			【予習】シラバスをよく読んでくる。		30	
第2回	真理（確実に存在するものはあるのか）			【予習】第2回の問い「確実に存在するものはあるのか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第3回	心（ロボットに心はあるのか）			【予習】第3回の問い「ロボットに心はあるのか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第4回	感情・気分（感情や気分をコントロールすることはできるか）			【予習】第4回の問い「感情や気分をコントロールすることはできるか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第5回	差別（私たちの身近に差別はあるか）			【予習】第5回の問い「私たちの身近に差別はあるか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第6回	人生の意味（人生に意味はあるのか）			【予習】第6回の問い「人生に意味はあるのか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第7回	世界（私たちが生きる世界とはどのような世界か）			【予習】第7回の問い「私たちが生きる世界とはどのような世界か」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第8回	自然（人間は自然の一部か）			【予習】第8回の問い「人間は自然の一部か」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第9回	動物（人間と動物に違いはあるか）			【予習】第9回の問い「人間と動物に違いはあるか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第10回	身体（どこまでが私の身体か）			【予習】第10回の問い「どこまでが私の身体か」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第11回	技術（私たちは技術を制御することができるか）			【予習】第11回の問い「私たちは技術を制御することができるか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第12回	プレゼンテーション①			【予習】発表希望者は発表準備をする。		120	
第13回	プレゼンテーション②			【予習】発表希望者は発表準備をする。		120	
第14回	到達度確認テスト			【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		120	
〔授業の方法〕 授業は主に講義形式で行うが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業も取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。 履修上の注意点 ・第1回講義で講義の進め方や評価基準について説明するので、履修希望者は必ず出席してください。 ・個人を特定できないかたちで、学生の意見やアンケート等を研究・教育目的で使用する場合があります。							
〔成績評価の方法〕							

学期末試験（80%）、授業中の発言などの授業への積極的な参加（20%）による総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. ①講義で取り上げる問題を理解することができる。 ②自分で考え、他者に意見を伝えることができる。 ③論理的・批判的に思考できる。 ④他者との対話を通じて、より良い考え方を一緒に模索することができる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 必要な予備知識は特になし。
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 ・『よくわかる哲学・思想』、納富信留／檜垣立哉／柏端達也編、ミネルヴァ書房、2019 年、2,200 円（税抜）、ISBN-13：9784623084104（購入の必要なし） 上記以外の参考書は授業中に適宜指示します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング

科目名		倫理学の基礎<1>					
教員名		金成 祐人					
科目No.	120710210	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 「絶対に嘘をついてはいけないのか」、「肉を食べることはよいことか」等、倫理学は善悪をめぐる問いを考える学問です。本科目では、倫理学の基本的な学説である功利主義、義務論、徳倫理や、応用倫理学の様々なテーマを学びます。他の学生や教員との対話を通じて、自らとは異なる考え方を知る機会が得られるでしょう。この科目はアクティブ・ラーニング型の授業形式をとって、議論する時間やグループワークの時間を設け、希望者によるプレゼンテーションを実施します。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）、4（表現力、発信力）、5（多様な人々との協働）、6（自発性、積極性）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ①講義で取り上げる問題を理解することができる。 ②自分で考え、他者に意見を伝えることができる。 ③論理的・批判的に思考できる。 ④他者との対話を通じて、より良い考え方を一緒に模索することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	イントロダクション（倫理学とは何か）			【予習】シラバスをよく読んでくる。		30	
第2回	功利主義（より多くの人を助けるためなら少数者を犠牲にしてよいか）			【予習】第2回の問い「より多くの人を助けるためなら少数者を犠牲にしてよいか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第3回	義務論（絶対に嘘をついてはいけないのか）			【予習】第3回の問い「絶対に嘘をついてはいけないのか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第4回	徳倫理学（徳のある人とはどういう人か）			【予習】第4回の問い「徳のある人とはどういう人か」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第5回	動物倫理（肉を食べることはよいことか）			【予習】第5回の問い「肉を食べることはよいことか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第6回	ロボット倫理学（介護をロボットに任せてよいか）			【予習】第6回の問い「介護をロボットに任せてよいか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第7回	環境倫理・宇宙倫理（宇宙にゴミを捨ててもよいのか）			【予習】第7回の問い「宇宙にゴミを捨ててもよいのか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第8回	幸福論（幸福とは何か）			【予習】第8回の問い「幸福とは何か」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第9回	生命倫理（本人が望んでいるなら安楽死は許されるのか）			【予習】第9回の問い「本人が望んでいるなら安楽死は許されるのか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第10回	現象学のアプローチ（どうしたら死を意識した人の孤独を癒せるか）			【予習】第10回の問い「どうしたら死を意識した人の孤独を癒せるか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第11回	ハイデガーの倫理学（自分らしい生き方とは何か）			【予習】第11回の問い「自分らしい生き方とは何か」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第12回	プレゼンテーション①			【予習】発表希望者は発表準備をする。		120	
第13回	プレゼンテーション②			【予習】発表希望者は発表準備をする。		120	
第14回	到達度確認テスト			【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		120	
〔授業の方法〕 授業は主に講義形式で行うが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業も取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。 履修上の注意点 ・第1回講義で講義の進め方や評価基準について説明するので、履修希望者は必ず出席してください。 ・個人を特定できないかたちで、学生の意見やアンケート等を研究・教育目的で使用する場合があります。							
〔成績評価の方法〕							

学期末試験（80%）、授業中の発言などの授業への積極的な参加（20%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

- ①講義で取り上げる問題を理解することができる。
- ②自分で考え、他者に意見を伝えることができる。
- ③論理的・批判的に思考できる。
- ④他者との対話を通じて、より良い考え方を一緒に模索することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識は特になし。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

・『入門・倫理学の歴史——24 人の思想家——』、柘植尚則編、梓出版社、2016 年、2,200 円（税抜）、ISBN-13：9784872620382（購入は必須ではありません）
上記以外の参考書は授業中に適宜指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

科目名		倫理学の基礎<2>					
教員名		金成 祐人					
科目No.	120710220	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 「絶対に嘘をついてはいけないのか」、「肉を食べることはよいことか」等、倫理学は善悪をめぐる問いを考える学問です。本科目では、倫理学の基本的な学説である功利主義、義務論、徳倫理や、応用倫理学の様々なテーマを学びます。他の学生や教員との対話を通じて、自らとは異なる考え方を知る機会が得られるでしょう。この科目はアクティブ・ラーニング型の授業形式をとって、議論する時間やグループワークの時間を設け、希望者によるプレゼンテーションを実施します。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）、4（表現力、発信力）、5（多様な人々との協働）、6（自発性、積極性）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ①講義で取り上げる問題を理解することができる。 ②自分で考え、他者に意見を伝えることができる。 ③論理的・批判的に思考できる。 ④他者との対話を通じて、より良い考え方を一緒に模索することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション（倫理学とは何か）			【予習】シラバスをよく読んでくる。		30	
第2回	功利主義（より多くの人を助けるためなら少数者を犠牲にしてよいか）			【予習】第2回の問い「より多くの人を助けるためなら少数者を犠牲にしてよいか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第3回	義務論（絶対に嘘をついてはいけないのか）			【予習】第3回の問い「絶対に嘘をついてはいけないのか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第4回	徳倫理学（徳のある人とはどういう人か）			【予習】第4回の問い「徳のある人とはどういう人か」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第5回	動物倫理（肉を食べることはよいことか）			【予習】第5回の問い「肉を食べることはよいことか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第6回	ロボット倫理学（介護をロボットに任せてよいか）			【予習】第6回の問い「介護をロボットに任せてよいか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第7回	環境倫理・宇宙倫理（宇宙にゴミを捨ててもよいのか）			【予習】第7回の問い「宇宙にゴミを捨ててもよいのか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第8回	幸福論（幸福とは何か）			【予習】第8回の問い「幸福とは何か」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第9回	生命倫理（本人が望んでいるなら安楽死は許されるのか）			【予習】第9回の問い「本人が望んでいるなら安楽死は許されるのか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第10回	現象学のアプローチ（どうしたら死を意識した人の孤独を癒せるか）			【予習】第10回の問い「どうしたら死を意識した人の孤独を癒せるか」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第11回	ハイデガーの倫理学（自分らしい生き方とは何か）			【予習】第11回の問い「自分らしい生き方とは何か」について自分なりに考え、スライドを一通り読んでくる。 【復習】試験に向けて講義内容を要約する。		60	
第12回	プレゼンテーション①			【予習】発表希望者は発表準備をする。		120	
第13回	プレゼンテーション②			【予習】発表希望者は発表準備をする。		120	
第14回	到達度確認テスト			【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		120	
〔授業の方法〕 授業は主に講義形式で行うが、トピックに応じてグループワークや質疑応答を行う双方向授業も取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。 履修上の注意 ・第1回講義で講義の進め方や評価基準について説明するので、履修希望者は必ず出席してください。 ・個人を特定できないかたちで、学生の意見やアンケート等を研究・教育目的で使用する場合があります。							
〔成績評価の方法〕							

学期末試験（80%）、授業中の発言などの授業への積極的な参加（20%）による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

- ①講義で取り上げる問題を理解することができる。
- ②自分で考え、他者に意見を伝えることができる。
- ③論理的・批判的に思考できる。
- ④他者との対話を通じて、より良い考え方を一緒に模索することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

必要な予備知識は特になし。

〔テキスト〕

特になし

〔参考書〕

・『入門・倫理学の歴史——24 人の思想家——』、柘植尚則編、梓出版社、2016 年、2,200 円（税抜）、ISBN-13：9784872620382（購入は必須ではありません）
上記以外の参考書は授業中に適宜指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

アクティブ・ラーニング

科目名		現代社会と哲学					
教員名		関口 浩					
科目No.	120710310	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 近年、サステナビリティ、持続可能性ということが、日本において、また国際的にも大いに議論されている。2015 年に国連によって設けられた「持続可能な開発の諸目標」、SDGs は、今日、流行語のようになって、様々なメディアで取り上げられ、しばしば論じられている。この講義では、まずは気候変動の問題を例に、サステナビリティの問題を、専門にとらわれない、より広い視野で、つまり哲学的に考察していきたいと思う。							
〔到達目標〕 現代という時代のいちばん深いところを洞察しようとする根本的な思索について、それを単に知識として学習するのではなく、むしろ履修者各自が自分自身の精神のなかでそうした「事柄」を共に経験してもらいたい。さらに、履修者各々もまた、自分自身でそのような「事柄」を思索できるようになってもらいたいと思います。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	サステナビリティ議論の歴史。 ローマ・クラブ『成長の限界』から SDGs へ。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 2 回	サステナビリティの現状。 危機を技術的に克服する努力。サーキュラー・エコノミーについて。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。 またこれまでの 2 回の授業を通じて問題となっていたサステナビリティの問題を、より身近な事柄としてあらためて考えること。		6 0 分	
第 3 回	技術文明の本質について歴史的考察。 17 世紀の科学革命——ガリレイとデカルト。自然の支配。全面的合理化の過程（マックス・ヴェーバー）。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 4 回	技術文明への疑問。 科学への疑問——アインシュタインとオッペンハイマー。脱成長論者の批判——有限の地球環境と無限の成長との矛盾を指摘。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 5 回	理性の狡知（ヘーゲル）について。 科学者や脱成長論者の警告にもかかわらず、経済成長は止まらないし、技術の進歩も止まらない。全面的合理化の過程は、いかにしても、止まらない。なぜ止まらないのか。			復習として、すでに配布したアインシュタインとオッペンハイマーの資料を再度熟読すること。 復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 6 回	知性への疑問。 旧約聖書に記された「バベルの塔」の逸話のように、古代より人間の知性の行き過ぎを咎める教訓が数多くある。知性に関するそうした古代の英知について検討する。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 7 回	神による人間知性の限界付け。 キリスト教神学におけるヒューマニズムに対する批判。アウグスティヌスの自由意志論、ルターの原罪論。			習として、配布された資料をあらためて熟読すること。 キリスト教神学に関して不明な点は各々が資料を調べて理解すること。		6 0 分	
第 8 回	神なき時代に、新たな神の兆しを求めること。遠藤周作の晩年の思索を参照して。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 9 回	A・アインシュタインの宗教観について彼自身による『私の世界観』またウィリアム・ヘルマンズ『アインシュタイン、神を語る』などのテキストを参照する。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 1 0 回	自然による人間知性の限界付け。 ルソーの「自然へ帰れ」。ストア学派の「自然に従え」。老荘思想の自然観。東洋倫理としての〈知足〉。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 1 1 回	芸術について。合理化する思考とは別なる思考。 脱成長論者の芸術論。ハイデガーの技術論中の芸術論。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 1 2 回	自然の支配の次に来るもの、人間存在自体が合理化されること。 死への欲動（フロイト）は理性的な冷静さ。ストレス社会の現実。			復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 1 3 回	少子化の問題。少子化の現状と対策。 オルナ・ドーナト『母親になって後悔してる』。			予習として、前回配布のテキストをもう一度読んでくること。 復習として、配布された資料をあらためて熟読すること。		6 0 分	
第 1 4 回	今学期の講義全体について再確認。			予習として、今学期の講義全体を回想すること。		6 0 分	
〔授業の方法〕 絵画や写真、映画などヴィジュアルな資料も必要に応じて使っていきたいと思っています。							
〔成績評価の方法〕							

定期試験期間中に試験を行います。課題についてのレポートを書いてももらいます。80%
自主的に提出するレポートなど、平常点。20%

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
いかなる予備知識も求めません。
関連科目は「哲学の基礎」。

〔テキスト〕
とくに定めません。（毎回、資料を配布する）

〔参考書〕
授業時間中に指示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
質問等は授業前・授業後に受け付けます。
またメールでの質問にも応えます。

〔特記事項〕

科目名		現代社会と倫理学					
教員名		佐藤 雅男					
科目No.	120710410	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 〔テーマ〕 混迷状況からの出発 〔概要〕 近代日本を代表する文学者や思想家を取り上げ、私達が現代社会を生きる意味を考える。 福沢諭吉は、『文明論之概略』『緒言』で、日本人が、異常な過渡期を生き抜かざるを得ない理由で、自らの過去の経験によって、新たに学び知った文明を照合することが出来ると言った。そこには、眼前の否定的な混迷状況を、逆に、「今の一世を過ぐれば、決して再び得べからざる」ような「好機」と見なす精神構造がある。 こうした状況は、現代社会にも存続し、私達は混迷の渦中で、自己の生活経験を整序しなければならない。そこで問題になるのが、人生の意味や価値であり、倫理学の根本は、「如何に生きるべきか」である。 近代日本を先導した人達の思想表現の特質を検討しながら、現代社会における人間について考えてみたい。(DP2-DP5)							
〔到達目標〕 〔到達目標〕 ・近代日本を先導した文学者や思想家の文章を読みながら、その言葉の意味を考えることで、今を生きる私達の指針を形成する。 ・物事を多角的にとらえる発想を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	授業のガイダンス。 近代日本の特質。			授業のテーマと全体像を描く。		60	
第 2 回	明治維新と文明開化。			歴史的な時代背景と国際情勢を理解する。		60	
第 3 回	啓蒙思想－福沢諭吉。			「独立の気力」について考える。		60	
第 4 回	自由民権思想－中江兆民。			「東洋のルソー」と言われた人物像を把握する。		60	
第 5 回	キリスト教－内村鑑三。			「無教会主義」の意味を把握する。		60	
第 6 回	国民道徳－教育勅語。			中味の再検討をする。		60	
第 7 回	東洋の美－岡倉天心。			「自我の顕現」の意味を把握する。		60	
第 8 回	浪漫主義－北村透谷。			「内部生命」の意味を把握する。		60	
第 9 回	自然主義－田山花袋と島崎藤村。			日本特有の「私小説」の意味を把握する。		60	
第 1 0 回	夏目漱石の文明論。			「内発的開化」の意味を把握する。		60	
第 1 1 回	森鴎外の文明論。 下田歌子や与謝野晶子の思想。			「利他的個人主義」や「貞操論」の意味を把握する。		60	
第 1 2 回	西田幾多郎の哲学。			「純粹経験」の意味を理解する。		60	
第 1 3 回	和辻哲郎の倫理学。 レポートの書き方			「間柄的存在」の意味を理解する。		60	
第 1 4 回	小林秀雄の批評。 レポートの書き方。			「宿命の人間学」の意味を理解する。		60	
〔授業の方法〕 毎回の授業に、資料を配布する。それを基に授業を進める。							
〔成績評価の方法〕							

授業への積極的参加（10％）。最終回の到達度の確認レポート（90％）で評価する。授業中に配布した資料を引用して、1200 字程度のレポートを書いてもらう。書き方に関しては、一回目の授業で概略を言うが、年末年始の頃の授業で、より詳しく説明する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

資料を配布する。

〔参考書〕

『述語集Ⅰ』『述語集Ⅱ』（中村雄二郎、岩波新書）

『日本の思想』（丸山真男、岩波新書）

『墮落論』（坂口安吾、新潮文庫）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		芸術への招待＜1＞					
教員名		西釋 英里香					
科目No.	120710610	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 オンライン (前期)
〔テーマ・概要〕 本授業では、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756-91）が作曲した《フィガロの結婚》、《ドン・ジョヴァンニ》、《魔笛》という 3 つの代表的なオペラを取り上げる。原作とオペラの台本を比較し、オペラの音楽の特徴を考察する。							
〔到達目標〕 DP2-1（教養の修得）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。 ●西洋音楽史における代表的な作曲家とその作品についての知識を修得する。 ●音楽のみならず、文学にも興味を持ち、その関わりを説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	モーツァルトの生涯と作品 モーツァルトの生涯を概観し、代表的な作品を鑑賞する。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第 2 回	《フィガロの結婚》(1) モーツァルトのイタリア語オペラである《フィガロの結婚》の創作状況を概観し、オペラの一部を鑑賞する。			《フィガロの結婚》の DVD や CD を鑑賞する。		120	
第 3 回	《フィガロの結婚》(2) このオペラの原作の作者ボーマルシェ（1732-99）について学び、いわゆる「フィガロ 3 部作」『セヴィリアの理髪師』『フィガロの結婚』『罪ある母』の一部を読む			授業内容を整理してまとめる。		60	
第 4 回	《フィガロの結婚》(3) このオペラの台本と音楽の特徴について学ぶ。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第 5 回	《フィガロの結婚》(4) モーツァルトの《フィガロの結婚》と関わりのある他の作曲家による作品を鑑賞する。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第 6 回	《ドン・ジョヴァンニ》(1) モーツァルトのイタリア語オペラである《ドン・ジョヴァンニ》の創作状況を概観しながら、このオペラの一部を鑑賞する。			《ドン・ジョヴァンニ》の DVD や CD を鑑賞する。		120	
第 7 回	《ドン・ジョヴァンニ》(2) 歌劇《ドン・ジョヴァンニ》の源泉となっている「ドン・ファン伝説」およびそれに基づいて作られた作品について学ぶ。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第 8 回	《ドン・ジョヴァンニ》(3) 歌劇《ドン・ジョヴァンニ》の台本の特徴を学ぶ。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第 9 回	《ドン・ジョヴァンニ》(4) 主人公ドン・ジョヴァンニがこのオペラにおいてどのように存在しているかを音楽をふまえて考える。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第 1 0 回	《魔笛》(1) モーツァルトのドイツ語オペラである《魔笛》の創作状況を概観しながら、一部を鑑賞する。それとともに《魔笛》より前に作られた「ジングシュピール」について学ぶ。			《魔笛》の DVD や CD を鑑賞する。		120	
第 1 1 回	《魔笛》(2) 《魔笛》とフリーメイソンのかかわりについて学ぶ。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第 1 2 回	《魔笛》(3) 《魔笛》の源となっているおとぎ話などについて学ぶ。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第 1 3 回	《魔笛》(4) 《魔笛》の登場人物が、音楽によってどのように描かれているかを学ぶ。			授業内容を整理してまとめる。		60	
第 1 4 回	《魔笛》(5)&総括 モーツァルトの《魔笛》と関わりのある他の作曲家による作品を鑑賞する。あわせて、これまでの授業内容を総括する。			期末レポートに向けて復習する。		60	
〔授業の方法〕 ●「オンデマンド型（録画提供）」で授業を実施する。授業方法の詳細については、授業開始の 2 週間程前にポータル及び Course Power にて告知する。 ●授業内容を理解しているかどうかを確認するきわめて簡単なテストを毎回実施する。 ●学期末レポートでは、授業でとりあげた作曲家やその作品等について論じてもらう。 ●授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕							

平常点（課題の提出状況）70%、及び学期末レポート 30%により評価する。ただし、期末レポートを提出しない場合は平常点の点数に関わりなく、単位取得不可とする。また、レポート等の課題において、ChatGPT 等の生成 AI の出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは認めない。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。／Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。

- 授業でとりあげた作曲家とその作品について基礎的な知識を獲得し、明確に説明できる。
- 西洋クラシック音楽について自分なりの興味を深め、自由に論じることができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

楽譜を読むことが望ましいが、もちろん読めなくても履修可。
西洋クラシック音楽を中心に扱うことを了承されたい。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

授業中に適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

電子メールで受け付けます。メールアドレスは講義時に告知します。

〔特記事項〕

科目名		芸術への招待＜2＞					
教員名		人見 伸子					
科目No.	120710620	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 オンライン (前期)
〔テーマ・概要〕 古来、芸術家たちはパトロンや注文を求めて、あるいは修業や制作のために都市に集まった。中には都市に魅了され、その景観を描く画家も多数存在した。多くの芸術家が集まる場所では、雑多な人間関係の中で切磋琢磨が行われ、都市が彼らを育ててきたともいえるだろう。この授業では「都市の肖像」というテーマで、芸術家たちが生み出した主要都市のイメージを様々な角度から分析し、都市の歴史の明暗ともにイメージの変遷を考察していく。コロナ禍を経て従来の姿から変化しつつある現代の都市のあり方についても、思いを巡らせてほしい。							
〔到達目標〕 ① 各都市の歴史や文化の基礎知識を身につけるとともに、現代の都市がかかえる問題について考える。 ② 開催中の展覧会を訪れて、実際の作品に触れる機会をつくる。 ③ DP2（教養の修得）を実現するため、歴史的思考力を養うことを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	授業の概要と今後の授業計画 ローマ：都市の栄枯盛衰 ・古代ローマ帝国・盛期ルネサンスの中心地であったローマについて、その歴史や文化の変遷について知る。			シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。		60 分	
第2回	フィレンツェ：ルネサンスの都 ・ルネサンスの中心地となったフィレンツェについて、建物や美術作品を中心に学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第3回	ヴェネツィア：沈み行く水の都 ・古くから貿易港として繁栄した国際都市ヴェネツィア。その歴史と文化を学ぶとともに、現代の町がかかえる問題について考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第4回	ミラノ ・イタリア第2の都市ミラノについて、その歴史的背景や文化、現代の役割について考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第5回	ベルギーの各都市 ・中世以降、ヨーロッパの経済・文化の先進地域だったベルギーの各都市ブリュージュ、アントワープ、ブリュッセルについて、時代に即した多様性を学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第6回	オランダの各都市 ・17 世紀にスペインから独立し、黄金時代を築いたオランダについて、デルフトやアムステルダムを中心に、各都市の歴史や文化を知る。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第7回	ロンドン ・古代ローマ時代から現代に至るまで、ヨーロッパの中心都市のひとつであったロンドンの歴史と文化を多方面から考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第8回	パリ（1） ・19 世紀後半の第二帝政期に実施されたオスマンによる都市改造計画に注目し、美術作品に表現された変化を知る。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第9回	パリ（2） ・19 世紀後半、中産階級のパリ市民たちが余暇を過ごした場所に焦点をあて、印象派の作品を中心に学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第10回	ウィーン ・中世以降、東西をつなぐ国際都市として発展したウィーン。特に 19 世紀後半の都市改造に注目して、建築や美術作品の理解を深める。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第11回	ヘルシンキ ・長い間、大国の支配下にあったフィンランドが独立を目指した 19 世紀から 20 世紀、変貌する首都ヘルシンキの歴史や文化について学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第12回	ニューヨーク ・オランダ人の入植から始まったニューヨークは 20 世紀に大躍進を遂げ、世界の政治・経済・芸術の中心地となる。その当時建設された多くの建物や美術作品を取り上げる。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第13回	江戸から東京へ ・江戸時代に数多く描かれた名所絵をひもとき、江戸から東京へと変貌する巨大都市と文化について考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第14回	大阪 ・2 度目の万博を開催する大阪について、その歴史や特色ある文化について学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
〔授業の方法〕 Course Power を利用して、毎回の授業レジュメとビデオを配信する。ビデオ視聴後にアンケートに回答するオンライン授業を行う。最新の展覧会情報を提供するので、実際の作品を鑑賞する機会を作り、報告レポートを提出してもらう。期末には課題レポートの提出が必須である。							

〔成績評価の方法〕 毎回のアンケートに基づく平常点（20%）、中間の報告レポート（30%）、期末の課題レポート（50%）を総合して評価する。 単位認定には、3分の2以上の出席と2回のレポート提出が必須で条件である。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 『西洋近代の都市と芸術』 全8巻 竹林舎 ㊦ 購入の必要なし その他、毎回の授業ごとに随時紹介
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 特になし。

科目名		芸術への招待＜3＞					
教員名		人見 伸子					
科目No.	120710630	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 オンライン (後期)
〔テーマ・概要〕 古来、芸術家たちはパトロンや注文を求めて、あるいは修業や制作のために都市に集まった。中には都市に魅了され、その景観を描く画家も多数存在した。多くの芸術家が集まる場所では、雑多な人間関係の中で切磋琢磨が行われ、都市が彼らを育ててきたともいえるだろう。この授業では「都市の肖像」というテーマで、芸術家たちが生み出した主要都市のイメージを様々な角度から分析し、都市の歴史の明暗ともにイメージの変遷を考察していく。コロナ禍を経て従来の姿から変化しつつある現代の都市のあり方についても、思いを巡らせてほしい。							
〔到達目標〕 ① 各都市の歴史や文化の基礎知識を身につけるとともに、現代の都市がかかえる問題について考える。 ② 開催中の展覧会を訪れて、実際の作品に触れる機会をつくる。 ③ DP2（教養の修得）を実現するため、歴史的思考力を養うことを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	授業の概要と今後の授業計画 ローマ：都市の栄枯盛衰 ・古代ローマ帝国・盛期ルネサンスの中心地であったローマについて、その歴史や文化の変遷について知る。			シラバスをよく読み、授業計画や概要を理解しておく。		60 分	
第2回	フィレンツェ：ルネサンスの都 ・ルネサンスの中心地となったフィレンツェについて、建物や美術作品を中心に学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第3回	ヴェネツィア：沈み行く水の都 ・古くから貿易港として繁栄した国際都市ヴェネツィア。その歴史と文化を学ぶとともに、現代の町がかかえる問題について考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第4回	ミラノ ・イタリア第2の都市ミラノについて、その歴史的背景や文化、現代の役割について考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第5回	ベルギーの各都市 ・中世以降、ヨーロッパの経済・文化の先進地域だったベルギーの各都市ブリュージュ、アントワープ、ブリュッセルについて、時代に即した多様性を学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第6回	オランダの各都市 ・17世紀にスペインから独立し、黄金時代を築いたオランダについて、デルフトやアムステルダムを中心に、各都市の歴史や文化を知る。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第7回	ロンドン ・古代ローマ時代から現代に至るまで、ヨーロッパの中心都市のひとつであったロンドンの歴史と文化を多方面から考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第8回	パリ（1） ・19世紀後半の第二帝政期に実施されたオスマンによる都市改造計画に注目し、美術作品に表現された変化を知る。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第9回	パリ（2） ・19世紀後半、中産階級のパリ市民たちが余暇を過ごした場所に焦点をあて、印象派の作品を中心に学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第10回	ウィーン ・中世以降、東西をつなぐ国際都市として発展したウィーン。特に19世紀後半の都市改造に注目して、建築や美術作品の理解を深める。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第11回	ヘルシンキ ・長い間、大国の支配下にあったフィンランドが独立を目指した19世紀から20世紀、変貌する首都ヘルシンキの歴史や文化について学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第12回	ニューヨーク ・オランダ人の入植から始まったニューヨークは20世紀に大躍進を遂げ、世界の政治・経済・芸術の中心地となる。その当時建設された多くの建物や美術作品を取り上げる。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第13回	江戸から東京へ ・江戸時代に数多く描かれた名所絵をひもとく、江戸から東京へと変貌する巨大都市と文化について考察する。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
第14回	大阪 ・2度目の万博を開催する大阪について、その歴史や特色ある文化について学ぶ。			画集やインターネットを利用して、さまざまな事例を確認するとともに、参考図書を読んで知識や視野を広める。		60 分	
〔授業の方法〕 Course Power を利用して、毎回の授業レジュメとビデオを配信する。ビデオ視聴後にアンケートに回答するオンライン授業を行う。最新の展覧会情報を提供するので、実際の作品を鑑賞する機会を作り、報告レポートを提出してもらう。期末には課題レポートの提出が必須である。							

〔成績評価の方法〕 毎回のアンケートに基づく平常点（20%）、中間の報告レポート（30%）、期末の課題レポート（50%）を総合して評価する。 単位認定には、3分の2以上の出席と2回のレポート提出が必須で条件である。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 『西洋近代の都市と芸術』 全8巻 竹林舎 ㊦ 購入の必要なし その他、毎回の授業ごとに随時紹介
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕 特になし。

科目名	カルチュラル・スタディーズ<1>						
教員名	清水 均						
科目No.	120710710	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 「カルチュラル・スタディーズ＝文化研究」はその根底に「文化を特定の歴史や社会状況における構築物としてとらえる問題意識」を持つ（本橋哲也『カルチュラル・スタディーズへの招待』大修館書店 2002 年 2 月）。即ち、「文化」というものを静態的なもの（あるいは権威的なもの）として捉えるのではなく、時代や人間の営みのダイナミズムの中で生成する動態的なものとして捉えるということである。それゆえ、私たちは「文化」を特定の作品（名作）や高尚な趣味（エリートによる高級文化）に限定するのではなく、人々の「生活様式の総体＝私たちが日々暮らしている生活のあり方そのもの」として捉える考え方が必要とされる。 かつては「サブカルチャー」とみなされ、文字通り「サブ」扱いされていた（ポジティブにもネガティブにも）アニメやマンガといった文化領域が、メインカルチャーあるいはポップカルチャーとして「日本を代表する文化」という扱い方をされるようになって久しい。「文化」は私たちにとって何らかの価値や意味があるとされるが、特に、私たちの日々の営みと地続きに存在する「サブカルチャー/ポップカルチャー」は、意識的にも無意識的にも、あるいは好きでも嫌いでも、私たちの生活様式や生活感情そのものに価値や意味をもたらすものであり、私たちは嫌でもその強い影響下にあるといえる。その一方で、そうした文化環境にあって「文学」は「活字離れ」という一括りの元でその地盤沈下がたびたび指摘されるが、では、現代の「文学」は「サブカルチャー/ポップカルチャー」から疎外された存在（＝無関係）でいられるのであろうか？ 本講座では、「サブカルチャー/ポップカルチャー」を中心とする現代の文化状況を「カルチュラル・スタディーズ」の視点から俯瞰すると同時に、そうした文化状況における「文学」の立ち位置を、主に村上春樹において検証することとする。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）並びに DP3（課題の発見と解決）を実現するために以下の点を到達目標とする。 ①日本の現在の文化環境についての概要を知ることによって、現代人である私たちが、今どのような世界に存在しているのかを把握できる。 ②現代社会が戦後、特に高度経済成長期とバブル期を経てどのように形成されてきたかについて、主に「文化」の視点によってその歴史観を説明することができる。 ③私たちが生きる現代にあって、自らが他者や社会とどのように関わりながら生きていけるのかということのヒントを得るこ							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	序：授業ガイダンス及びイントロダクション (1) 授業ガイダンス 授業内容、授業の進め方、成績評価等、この授業の概要を説明する。 (2) イントロダクション（導入） ①カルチュラル・スタディーズ：「文化」を研究するとは ②戦後から現在に至る時代の分岐点を把握する			(予習) ・授業概要、授業計画について、事前にシラバスを確認しておく。 ※授業で使用する資料等を記載した詳細なコマシラバスを「第 1 回」の授業開始前に提示するので内容を確認しておく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	
第 2 回	序：授業ガイダンス及びイントロダクション (2) イントロダクション（導入） ③テレビ CM の表現 ④キャッチコピーの変遷 I、高度経済成長の終焉前後－「個人主義」の拡張 ＊基礎知識：高度経済成長とはどのような時代だったのか			(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	
第 3 回	I、高度経済成長の終焉前後－「個人主義」の拡張 (1) 大衆音楽（ポピュラー音楽）の歌詞と時代性 ・高度経済成長期前後におけるフォークソングの歌詞の変容			(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	
第 4 回	I、高度経済成長の終焉前後－「個人主義」の拡張 (2) 文化的ツールの変遷（ウォークマンの登場） (3) 村上春樹『風の歌を聴け』			(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	
第 5 回	I、高度経済成長の終焉前後－「個人主義」の拡張 (4) マンガ表現（『巨人の星』から『タッチ』へ） (5) 高度経済成長のダークサイド：「家族共同体」の崩壊			(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	
第 6 回	II、バブルの崩壊前後－「自己の存在性」への問い ＊基礎知識：バブルとその崩壊 (1) 「虚構」というキーワード (2) 映画『バブルへ GO!! ！』に見る「バブル期」の社会の様相			(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	
第 7 回	II、バブルの崩壊前後－「自己の存在性」への問い (2) バブル期の村上春樹と女性作家（吉本ばなな・山田詠美）の時代性			(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。		60 分～90 分	

第 8 回	Ⅱ、バブルの崩壊前後－「自己の存在性」への問い (3) 1990 年代の「言葉」 ①「応援ソング」と「詩的（人生訓的）フレーズ」の流行 ②J-POP の歌詞－浜崎あゆみ、Mr.Children	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
第 9 回	Ⅲ、2000 年代前後－「共生」「共同体」の形成 (1) 起点としての『新世紀エヴァンゲリオン』（引き籠もり系）から『デスノート』（決断主義系）へ	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
第 10 回	Ⅲ、2000 年代前後－「共生」「共同体」の形成 (2) 「家族共同体」の見直しと劇場版『クレヨンしんちゃん・モーレツオトナ帝国の逆襲』	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
第 11 回	Ⅳ、『3. 11』前後－「システム」の問題系 (1) 村上春樹「エルサレム賞受賞スピーチ」と伊坂幸太郎『モダンタイムス』の時代的共振	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
第 12 回	Ⅳ、『3. 11』前後－「システム」の問題系 (2) 村上春樹『1Q84』を読む	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
第 13 回	Ⅳ、『3. 11』前後－「システム」の問題系 (3) 『魔法少女まどか☆マギカ』と『PSYCHO-PASS』	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
第 14 回	Ⅴ、コロナ禍前後－コロナ禍は何をもたらしたのか (1) 村上春樹と短歌・推し活・Vtuber (2) 「レトロブーム」という現象	(予習) ・Course Power に掲示された授業資料を読んでおく。 ・「到達度確認レポート②」の準備。 (復習) ・「コメントシート」の提出。 ・今日の授業の重要ポイントをまとめておき、「到達度確認レポート①」の作成をする。	60 分～90 分
[授業の方法] ・授業は講義形式で実施する。ただし、可能な限り受講生の考えや感想を共有するために、Course Power のアンケート機能を利用して毎回その回の授業についてのコメントシートの記述、提出を求め、その結果を翌回の授業内でフィードバックする。 ・授業で使用する資料等は事前に Course Power に掲示しておくので、各自授業時までダウンロードしておいてほしい。また、授業で使用する「資料」とともに「授業計画の詳細」を授業スタート時に Course Power にアップロードしておくので、そちらも合わせて参照し			
[成績評価の方法] 平常点のみで評価する。 ○内容：「コメントシート」の提出状況に対して 50% ：「到達度確認レポート①」に対して 25% ：「到達度確認レポート②」に対して 25% ○「到達度確認レポート①②」それぞれの課題内容は以下の通りである。 ・「到達度確認レポート①」：各回の授業内容のまとめを記述する。（復習） ・「到達度確認レポート②」：課題内容は授業の中で提示する。（応用） 注記：「到達度確認レポート」は①②ともに必ず「Word」か「PDF」で提出すること。			
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 以下の点に着目して、その達成度に応じて評価する。 ①「コメントシート」：提出をもって実質的な授業出席とし、提出回数を点数化（50 点換算）する。当該授業の内容に対して、自らの見解や感想、疑問、質問等がよくまとめられていることが求められる。自らの見解に			
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] 特にないが、「文化（特にサブカルチャー）」「文学」に関する興味関心を持っておいてほしい。			
[テキスト] 特に指定するものはない。随時、資料を Course Power にアップロードする。			
[参考書] 適切であると思われるものについては授業時に紹介する。			
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）]			

CoursePower の「質問」機能を利用するとともに、コメントペーパーに書かれた質問に対しては上記「フィードバックの方法」に記したように Course Power によって答える。また、メールでも受け付ける。
※メールアドレス：s10393@cc.seikei.ac.jp

〔特記事項〕

特になし。

科目名		カルチュラル・スタディーズ<2>					
教員名		塩谷 昌之					
科目No.	120710720	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 この科目では、身近にあるさまざまな文化を理解し、分析・解釈するための知識と作法を学んでいく。 カルチュラル・スタディーズということばには、文化の研究という意味合いのみにとどまらない固有の歴史がある。そこには文化現象の背景にある支配的な権力関係への意識と、カウンターカルチャーとしてそれらに対抗するような姿勢が見える。この対抗性への注目は、一見すると従属的であるように思える、ごく普通の人々のもつ文化の価値を際立たせることになった。 正統的で伝統的な文化とは異なる、われわれ自身の文化に注目すること。それは身近な生活のなかに点在する文化に面白みを見出すことにつながり、現代ではメディア環境の整備を通じて、さらにその魅力が増している。授業では文化人類学的な議論にも少々触れながら、ストリートの文化、サブカルチャー、ファン文化、参加型文化、限界芸術などについて、具体的なトピックや先行研究の分析視角に触れながら学修していく。							
〔到達目標〕 DP2【教養の修得】および DP3【課題の発見と解決】を実現するため、以下のような到達目標を設定する。 ・文化をめぐる様々なことばと概念を理解し、身近な文化現象に向き合うための知識を身に付ける。 ・身近にある文化現象を適切に分析・解釈するための諸作法を身に付ける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 2 回	文化という概念			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 3 回	文化とブリコラージュ			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 4 回	文化と階級			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 5 回	文化と大衆			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 6 回	文化の送り手と受け手			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 7 回	文化の対抗性①			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 8 回	文化の対抗性②			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 9 回	文化とファン①			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 1 0 回	文化とファン②			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 1 1 回	文化と密猟			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 1 2 回	文化と限界芸術			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 1 3 回	文化と快楽			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
第 1 4 回	まとめ			【復習】配布した資料を参考に、興味関心をもったテーマを自ら深めていく。		120	
〔授業の方法〕 配布した資料および、スライドを用いて講義を行う。補足的に CoursePower を利用する。							
〔成績評価の方法〕							

授業への意欲 50% 授業後に回収するコメントシートをもって評価する。 期末レポート 50% レポートの評価基準については授業内で提示する。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 履修に際して、条件は設定しない。
〔テキスト〕 テキストや参考書は事前に指定せず、関連する資料等は授業ごとに適宜紹介する。
〔参考書〕 テキストや参考書は事前に指定せず、関連する資料等は授業ごとに適宜紹介する。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。
〔特記事項〕

科目名		カルチュラル・スタディーズ<3>					
教員名		宮入 恭平					
科目No.	120710730	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 カルチュラル・スタディーズは、わたしたちにとって身近な文化（ポピュラー文化）に注目しながら、学際的なアプローチをとまなう考察によって、日常生活の問題や課題を分析してきた。この授業では、ポピュラー文化の代表的な存在であるポピュラー音楽に焦点を当てながら、社会、経済、政治や文化との関係に着目しつつ、カルチュラル・スタディーズの視座から日常生活の問題や課題を読み解く作業を試みる。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）を実現するために、以下の3点を到達目標とする。 ・ポピュラー音楽と社会、経済、政治や文化との関連について、批判的な視座から読み解くことができる。 ・国内外のポピュラー音楽文化をとおして、カルチュラル・スタディーズの視座を理解することができる。 ・カルチュラル・スタディーズの視座から、日常生活の問題や課題について分析することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション			シラバス、資料を確認する		60 分	
第2回	カルチュラル・スタディーズとは何か			資料を確認する		60 分	
第3回	コード化／脱コード化（メディア）			教科書、資料を確認する		60 分	
第4回	文化産業（産業）			教科書、資料を確認する		60 分	
第5回	クラブカルチャー（法律）			教科書、資料を確認する		60 分	
第6回	カウンターカルチャー（政治）			教科書、資料を確認する		60 分	
第7回	周縁からのまなざし（アイデンティティ）			教科書、資料を確認する		60 分	
第8回	ポピュラー音楽（教育）			教科書、資料を確認する		60 分	
第9回	ゴシップと人権（アイドル）			教科書、資料を確認する		60 分	
第10回	クールジャパン（アニソン）			教科書、資料を確認する		60 分	
第11回	真正性（ツーリズム）			教科書、資料を確認する		60 分	
第12回	ストリートの思想（ストリート）			教科書、資料を確認する		60 分	
第13回	日本のカルチュラル・スタディーズ（レジャー）			教科書、資料を確認する		60 分	
第14回	まとめ			教科書、資料を確認する		60 分	
〔授業の方法〕 教科書と資料をもとに、パワーポイントによる映像や音楽を用いながら講義形式で進めます。							
〔成績評価の方法〕 リアクションペーパー（50%）、学期末レポート（50%）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

〔テキスト〕
『ライプカルチャーの教科書』、宮入恭平、青弓社、2,000 円、4787274228

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		カルチュラル・スタディーズ<4>					
教員名		北小路 隆志					
科目No.	120710740	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 テーマは、映画の「分析的な見方」を学ぶことです。そのうえで、映画についての「批評」を、対象となる作品の独自性のみならず、できれば、それを発見する論者（＝皆さん）自身の独自性も発揮しつつ執筆してもらうことを目指します。その狙いは以下の通りです。誰もが、多かれ少なかれ日常的に映画に接し、よほど難解で特殊な作品でもない限り、その内容を理解できるはずで。しかし、皆さんは本当に映画を《見ること》や《聴くこと》ができていないでしょうか。たとえば、単に物語の内容や主演俳優の容姿に一喜一憂したり、そこで提起される「主題」に共感、もしくは違和感を覚えたりしているだけではないでしょうか。映画は、長い時間をかけて「物語」を語るためのさまざまな技法（文法）を身につけ、洗練させていく一方で、それらの解体を目論むかのような実験もあわせて推進させてきています。そしてその「文法」は、「動画」が溢れかえる現在にあってもなおさまざまな視覚表現の規範となっているのです。この授業では、（物語の）「内容」の受容に傾きがちなわたしたちの映画鑑賞のあり方に疑問を呈し、（物語の）「形式」（語り方や映画技法、技術的側面、文法）に焦点を当てた（分析的な）鑑賞法について学びます。そして、そこでの「学び」を基盤に映画批評の執筆に挑戦してもらいます。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）を実現するため、 ①現在もおお視聴覚表現の規範となっている映画の基本的な技法を学び、より分析的な映画（映像）鑑賞法（理論）を身につけることができる。 ②上記の分析的な鑑賞法（理論）を、映画批評の執筆を通じて実践に移し、その作品独自の「演出」（＝魅了）を明らかにすることができるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の概要や狙い、進め方について説明する。 ・参加者各自に、これまで抱いてきた映画観について発表を求め、検討する。 ・授業概要を要約するイントロダクション的な講義。			・シラバスの内容を読み込み、あらかじめ授業内容を把握する。 ・各自の映画観（これまでどのような映画を見てきたか、どんな映画が好きか、それはなぜか、など）をまとめておくこと。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第2回	フレームと「平面性」について① ・映画の基本的性格をめぐる考察として、その平面性とフレームによる限定について学ぶ。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第3回	フレームと「平面性」について② ・前回の授業内容の続きと応用。具体的な作品分析を通し、関連するさまざまな演出法やフレームの形態について学ぶ。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第4回	映画の「現実感」について ・なぜ映画は独自の「現実感」を備え、それがどのようなかたちで作品で言及されてきたか。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第5回	画面と画面外空間について① ・画面とは何か、画面外空間とは何か。画面外空間はいかにして創出されるのか。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の鑑賞。		90	
第6回	画面と画面外空間について② ・絵画と映画のフレームの差異。 ・画面外空間を使った演出とその分析。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第7回	ショットの概念① ・空間から時間へ。 ・ショットの定義をめぐって。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第8回	ショットの概念② ・ショット・サイズによる分類法。クロースアップから遠景ショットまで。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第9回	ショットの概念③ ・ショットとカメラの動き、そして時間。 ・「問題」としてのショット・シークエンス。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第10回	聴覚的表象としての映画① ・映画におけるサウンドの分類法。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第11回	聴覚的表象としての映画② ・映画におけるサウンドの活用法、演出法の具体的な解説。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第12回	モンタージュ（編集）の概念① ・モンタージュとは何か。それが映画にとっていかに重要で、だからこそ、論争的となってきたか。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画の全編鑑賞。		90	
第13回	モンタージュ（編集）の概念② ・モンタージュをめぐる 2 つのイデオロギーを通して、映画理論を整理する。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・関連資料の読み込みと理解しにくい箇所の下調べ。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。		90	
第14回	「まとめ」 ・授業の振り返りと、期末レポート執筆に向けての説明や質疑。			・授業で習った内容の確認と理解。 ・授業で紹介した映画全編の鑑賞。 ・期末レポートに向けた準備		120	
〔授業の方法〕							

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

- ・講義や参考資料の読解を中心に進めつつ、適宜、関連する映画の（主として部分的な）上映も行う。もちろん、授業の一環としての上映であり、そもそも映画についての授業である以上、真剣な態度での鑑賞が必要で、受講者には積極的な態度での参加を求める。また、授業で使用したり言及された映画の全編を、可能な範囲で自主的に鑑賞してもらいたい。なお、授業の理解度や授業に臨むうえでの積極性などを確認するために、課題レポートを実施する場合もある。
- ・期末レポート：授業や参考資料での学習を通し、映画の基本的な技法について理解できて

〔成績評価の方法〕

期末レポート 60%、平常点（授業への参加状況や課題レポートの提出状況）40%による総合評価。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

- ①現在もお視聴覚表現の規範となっている映画の基本的な技法を学び、より分析的な映画（映像）鑑賞法（理論）を身につけることができるか。
- ②上記の分析的な鑑賞法（理論）を、映画批評の執筆を通じて実践に移し、その作品独自の「演出」（＝魅了）を明らかにすることができるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

「映画理論講義」（J・オーモン他著、武田潔訳、勁草書房）。その他の参考資料が発生した場合も含め、授業内で使用する分については、CoursePower に掲載、もしくは印刷して配布するなどします（「購入の必要なし」）。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名	現代のマスメディア						
教員名	小林 正幸						
科目No.	120720710	単位数	2	配当年次	1年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 テーマ:「よく生きる」ことからマスメディアについて考える わたしたちは好むと好まざるとにかかわらず、日々マスメディアによって発信される膨大な情報にさらされている。当たり前ですが、我々が「よく生きる」ためにマスメディアがあります。ですから「よく生きる」という地点から、現在のマスメディアの現実を理解する必要があります。 その現実、マスメディアに関する理論や概念からアプローチできます。当然急速に発展してきたソーシャルネットワークの現実についても同様です。 我々はマスメディアが「よく生きる」ことに反していれば、どのような姿勢をもって臨むべきなのか。いま現実生活をしている社会そのものに関心をもちながら、毎回の授業に臨んでください。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①マスメディアが果たしている役割を理解し、他人と知識交換をしながらきちんと説明できる。 ②マスメディアの功罪と展望を説明できる。 ③ソーシャルネットワークの展望について、的確に理解し、説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション ・授業の内容、その進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・メディアとは何なのか、その本質について解説します。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】授業の進め方などを確認する。		60	
第2回	マスメディアとは何か ・マスメディアの定義、特徴を解説する。 ・自明とされるマスメディアに対する理解に転を入れます。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第3回	・マスメディアの本質 この授業でのマスメディアの本質を位置付けます。マスメディアによって伝達される情報が事実ではないことを確認します。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第4回	・マスメディアはPR 機関 ここでは近代になってからのマスメディアが果たして来た役割がPRにあることを解説します。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第5回	・メディアリテラシー1 教科書的なメディアリテラシーの考え方を解説し、そこに留まてはいけなことを考えます。大切なのは自身のリテラシーを重ねることです。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第6回	・メディアリテラシー2 具体的な事例を取り上げて、メディアの記事や映像について、本講義のメディアリテラシーの考え方を適応して見ます。			【予習】これまでの授業で学修してきたことを、自分の言葉で解説することができるようにしておく。		90	
第7回	・メディアリテラシー3 具体的な事例を取り上げて、メディアの記事や映像について、本講義のメディアリテラシーの考え方を適応して見ます。これら事例の分析から、教養の重要性を確認します。			【予習】前々回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		120	
第8回	・中間テスト（小テスト） これまでの講義における考え方、理論や概念を確認するための試験を行います。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第9回	・産業としてのマスメディア 経済の三主体「政府・家計・企業」という図式から導かれるマスメディアの位置付け、その政治的立場がどうあるべきかを解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第10回	企業戦略とマスメディア ・マスメディアを利用して商品宣伝を行ってきた企業戦略がどのように変化してきているかを考察する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第11回	マスメディアと政治と民主主義 ・政治に及ぼすマスメディアの果たす役割を解説する。 ・民主主義に関する理論とその特徴を解説する。 ・マスメディアによって政治意識は変化するかどうかについての問題を考察する。 ・マスメディアと政治の良好な関係を探る。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第12回	・マスコミュニケーション研究を概説する1 マスメディアの機能や役割については学術的蓄積がある。ここでは、具体的な例をあげ強力効果説から限定効果説への流れを歴史的に押さえておく。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	
第13回	・マスコミュニケーション研究を概説する2 マスメディアの機能や役割については学術的蓄積がある。ここでは前回の講義を踏まえ、具体的な例をあげ新強力効果説について解説する。			【予習】前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。		60	

第14回	総括として ・メディアと呪術性について これまでの授業をふり返り、マスメディアやインターネットでの炎上や社会問題について問題を提起する。	【予習】 前回の講義の最後に提示された課題について、下調べをしておく。 【復習】 キーワード、キー概念について解説することができるようにしておく。	60
〔授業の方法〕 基本的に、配布プリントなどをもとに、内容を詳説していく講義形式で行う。 随時授業の中で、与えられた課題に対する解答／コメントを作成する。特にリアクションペーパーを提出してもらう。 授業は以下のような流れになる。 1 教員による講義 2 教員による次回講義のテーマや考えておくことを提示する。 → 3 講義の復習（ここが一番大切です。その理由は最初の講義で説明します） 4 次回のテーマについての自習 → 5 そのテーマに沿った教員による講義			
〔成績評価の方法〕 随時行う課題への解答／コメントやリアクションペーパー（15%）、中間テスト（15%）、最終試験（70%）による総合評価を基本とし、質問など授業への積極的な参加をプラスに評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度によって評価する。 ①基礎的なキーワード、鍵概念の的確な理解。 ②マスメディアの功罪を通して、現代社会を見通す深い理解力。 ③試験において、講義が活かされている解答をしていること。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。			
〔テキスト〕 小林正幸『メディアリテラシーの倫理学』風塵社			
〔参考書〕 授業で適宜指示をする。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名	社会心理学入門<1>						
教員名	後藤 伸彦						
科目No.	120720810	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 社会心理学とは、「社会」的状況における人の「心理」について学び、研究する学問です。ここでいう「社会」的状況とは他者がいる状況を指します。他者は 1 人の時もあれば、複数の時もあります。例えば、あなたは他人と一緒にいるときと友人といるときで、振る舞いや考え、物事の感じ方が変わりますか？また大学や日本人の一員だと感じるときに変わりますか？これらのことについて研究を行い、今も日々世界中で研究が行われているのが社会心理学です。本講義では、自己や他者の見方（認知、ステレオタイプ）、感じ方（感情）、また他者に対する振る舞い（偏見、差別）などについて扱います。またそのような心が「文化」というより大きな文脈によってどのように影響を受けているのかについて考えます。そしてこれらについての学びを通じて、社会心理学的視点から日々の生活を捉え直すことを目指します。							
〔到達目標〕 (1) 個人の認知（バイアス）、集団の中での個人の意思決定、対人的な相互作用などの社会心理学的な現象を検討するための科学的な手法について理解することができる（DP 2） (2) 我々がどのようなバイアスを持っているかや、我々が他者から暗黙のうちにどのような影響を受けているのかについて理解することができる（DP 2） (3) 社会心理学の考え方をもとに自分や他者の言動を分析・理解し、その言動がどのようなメカニズムで生じているのかについて理解したり仮説を立てたりすることができる（DP 2・DP 3）。 (4)							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	○イントロダクション ・本講義で扱う内容及び社会心理学で扱う現象について理解する			【予習】 ・シラバスを読んで、本講義の概要について掴む 【復習】 ・自分のアイデアを確かめるための社会心理学的な方法論について理解する		60 分	
第 2 回	○社会心理学の研究法 ・社会心理学の方法論について理解する ・社会心理学の研究を理解する上で必要となる基礎的な用語について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 3 回	○偏見・ステレオタイプ ・我々が持つ偏見やステレオタイプについて理解する。 ・偏見を測定するための手法について理解する ・どのような状況で偏見を強く持たれるのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 4 回	○他者に対する認知 ・我々が他者および自己の行動をどのように解釈するのかについて理解する。 ・他者の行動の認知におけるバイアスが、集団レベルでどのような現象をもたらすのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 5 回	○ステレオタイプの影響 ・我々はステレオタイプを持っているだけでなく、それいかに影響を受けているのかについて理解する ・またステレオタイプがいかに維持されていくのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 6 回	○感情・情動 ・感情と気分、情動の違いについて理解する。 ・情動と認知の関係について理解する ・情動の測定方法について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 7 回	○感情・気分 ・感情と気分の違いについて理解する。 ・気分が我々の認知に与える影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 8 回	○中間テスト ・第 2 回から第 7 回までに学んだ内容を振り返る ・概念の違いについてよく理解できているかを確認する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 9 回	○態度 ・態度の種類、機能について理解する ・我々が持つ態度が以下に行動と結びついたり結びつかなかったりするかを理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 10 回	○対人魅力 ・対人関係に影響する魅力の要因について理解する ・対人関係における様々な不安の違いについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 11 回	○集合現象 ・災害時の避難行動現象について理解する ・うわさの機能について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 12 回	○健康 ・ストレスの影響について理解する ・ストレスの対処（コーピング）や社会的サポートの影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	

第13回	○文化 ・思考や認知についてどのような文化差があるかを理解する ・個人主義および集団主義とは何か、およびその影響について理解できる	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60分
第14回	○まとめと振り返り ・学期を通じて学んだ概念や研究法について確認する ・それぞれの違いや影響について全体を俯瞰して振り返る	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60分
〔授業の方法〕 ・授業は対面で行う。 ・授業形式はPowerPointを用いた講義形式を基本とする。 ・社会心理学の手法および概念についての理解を深めるために、簡単な社会心理学実験への参加（体験）やアンケートへの回答を求めることがある。ただし、回答は強制せず、回答内容は評価に一切含まない。			
〔成績評価の方法〕 ・平常点（ミニテスト等の提出状況）：40% ・試験：60%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 試験、ミニテストについては、下記の観点から評価する予定である。 ・社会心理学の方法論について理解しているか。 ・社会心理学の諸概念を正しく理解しているか。 ・社会現象を社会心理学の観点から解釈できているか。 平常点については下記の観			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 授業で指示			
〔テキスト〕 購入の必要なし： 『社会心理学 補訂版』、池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子、有斐閣、3,520円 『社会心理学概論』、北村 英哉・内田 由紀子 編、ナカニシヤ、3,850円			
〔参考書〕 いずれも購入の必要なし： 『個人のなかの社会 〔展望 現代の社会心理学1〕』 浦光博・北村英哉編著、誠信書房、4840円 『コミュニケーションと対人関係 〔展望 現代の社会心理学2〕』、相川充・高井次郎編著、誠信書房、4400円 『社会と個人のダイナミクス 〔展望 現代の社会心理学3〕』、唐沢穰・村本由紀子編著、誠信書房、4620円			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名	社会心理学入門<2>						
教員名	後藤 伸彦						
科目No.	120720820	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 社会心理学とは、「社会」的状況における人の「心理」について学び、研究する学問です。ここでいう「社会」的状況とは他者がいる状況を指します。他者は 1 人の時もあれば、複数の時もあります。例えば、あなたは他人と一緒にいるときと友人といるときで、振る舞いや考え、物事の感じ方が変わりますか？また大学や日本人の一員だと感じるときに変わりますか？これらのことについて研究を行い、今も日々世界中で研究が行われているのが社会心理学です。本講義では、自己や他者の見方（認知、ステレオタイプ）、感じ方（感情）、また他者に対する振る舞い（偏見、差別）などについて扱います。またそのような心が「文化」というより大きな文脈によってどのように影響を受けているのかについて考えます。そしてこれらについての学びを通じて、社会心理学的視点から日々の生活を捉え直すことを目指します。							
〔到達目標〕 (1) 個人の認知（バイアス）、集団の中での個人の意思決定、対人的な相互作用などの社会心理学的な現象を検討するための科学的な手法について理解することができる（DP 2） (2) 我々がどのようなバイアスを持っているかや、我々が他者から暗黙のうちにどのような影響を受けているのかについて理解することができる（DP 2） (3) 社会心理学の考え方をもとに自分や他者の言動を分析・理解し、その言動がどのようなメカニズムで生じているのかについて理解したり仮説を立てたりすることができる（DP 2・DP 3）。 (4)							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	○イントロダクション ・本講義で扱う内容及び社会心理学で扱う現象について理解する			【予習】 ・シラバスを読んで、本講義の概要について掴む 【復習】 ・自分のアイデアを確かめるための社会心理学的な方法論について理解する		60 分	
第 2 回	○社会心理学の研究法 ・社会心理学の方法論について理解する ・社会心理学の研究を理解する上で必要となる基礎的な用語について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 3 回	○偏見・ステレオタイプ ・我々が持つ偏見やステレオタイプについて理解する。 ・偏見を測定するための手法について理解する ・どのような状況で偏見を強く持たれるのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 4 回	○他者に対する認知 ・我々が他者および自己の行動をどのように解釈するのかについて理解する。 ・他者の行動の認知におけるバイアスが、集団レベルでどのような現象をもたらすのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 5 回	○ステレオタイプの影響 ・我々はステレオタイプを持っているだけでなく、それいかに影響を受けているのかについて理解する ・またステレオタイプがいかに維持されていくのかについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 6 回	○感情・情動 ・感情と気分、情動の違いについて理解する。 ・情動と認知の関係について理解する ・情動の測定方法について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 7 回	○感情・気分 ・感情と気分の違いについて理解する。 ・気分が我々の認知に与える影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 8 回	○中間テスト ・第 2 回から第 7 回までに学んだ内容を振り返る ・概念の違いについてよく理解できているかを確認する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 9 回	○態度 ・態度の種類、機能について理解する ・我々が持つ態度が以下に行動と結びついたり結びつかなかったりするかを理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 10 回	○対人魅力 ・対人関係に影響する魅力の要因について理解する ・対人関係における様々な不安の違いについて理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 11 回	○集合現象 ・災害時の避難行動現象について理解する ・うわさの機能について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	
第 12 回	○健康 ・ストレスの影響について理解する ・ストレスの対処（コーピング）や社会的サポートの影響について理解する			【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する		60 分	

第13回	○文化 ・思考や認知についてどのような文化差があるかを理解する ・個人主義および集団主義とは何か、およびその影響について理解できる	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60分
第14回	○まとめと振り返り ・学期を通じて学んだ概念や研究法について確認する ・それぞれの違いや影響について全体を俯瞰して振り返る	【復習】 ・授業内容を復習する ・身近な出来事、他者の意見、社会現象などについて、授業で習った内容と関連させつつ解釈する	60分
〔授業の方法〕 ・授業は対面で行う。 ・授業形式はPowerPointを用いた講義形式を基本とする。 ・社会心理学の手法および概念についての理解を深めるために、簡単な社会心理学実験への参加（体験）やアンケートへの回答を求めることがある。ただし、回答は強制せず、回答内容は評価に一切含まない。			
〔成績評価の方法〕 ・平常点（ミニテスト等の提出状況）：40% ・試験：60%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 試験、ミニテストについては、下記の観点から評価する予定である。 ・社会心理学の方法論について理解しているか。 ・社会心理学の諸概念を正しく理解しているか。 ・社会現象を社会心理学の観点から解釈できているか。 平常点については下記の観			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 授業で指示			
〔テキスト〕 購入の必要なし： 『社会心理学 補訂版』、池田謙一・唐沢穰・工藤恵理子・村本由紀子、有斐閣、3,520円 『社会心理学概論』、北村 英哉・内田 由紀子 編、ナカニシヤ、3,850円			
〔参考書〕 いずれも購入の必要なし： 『個人のなかの社会 〔展望 現代の社会心理学1〕』 浦光博・北村英哉編著、誠信書房、4840円 『コミュニケーションと対人関係 〔展望 現代の社会心理学2〕』、相川充・高井次郎編著、誠信書房、4400円 『社会と個人のダイナミクス 〔展望 現代の社会心理学3〕』、唐沢穰・村本由紀子編著、誠信書房、4620円			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕			

科目名		企業と社会					
教員名		生方 裕一					
科目No.	120720920	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 経営学が主に研究対象とする企業は、社会全体そして私たち個々人の生活に多大なる影響を及ぼしています。また、皆さんの多くは、卒業後に営利組織（企業）ないし非営利組織（官公庁など）に就職し、組織の一員として生活を送ることになります。そのため、本講義は私たちの日常と深い関わりを持っている企業がどのような存在で、どのような仕組みを持ち、どのように運営されているか、基本的な理解を身につけることを目標とします。経営学に関する幅広い概念や基礎知識を理解し習得することを通じて、企業の実際の活動内容や企業経営の現場で起きている諸問題を理解し、考える力を養成します。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP4（表現力、発信力）を実現するため、次の点を目指とします。 ①経営学の基礎知識を身につける。 ②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	ガイダンス／現代企業の捉え方			【予習】 シラバスを読み、あらかじめその内容を把握する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第2回	「財・サービスの提供機関」としての企業			【予習】 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第3回	株式会社の機能と構造			【予習】 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第4回	株式会社制度と実態			【予習】 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第5回	大企業とは何か			【予習】 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第6回	大企業の特徴			【予習】 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第7回	大企業におけるコーポレート・ガバナンス			【予習】 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第8回	企業の組織体制			【予習】 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第9回	組織管理論の展開			【予習】 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第10回	日本的株式会社の特徴			【予習】 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第11回	日本的株式会社の今後			【予習】 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第12回	企業の社会的責任			【予習】 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第13回	日本企業の CSR 活動			【予習】 配布資料を読んで、疑問点を整理する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする。		60	
第14回	企業の存在理由			【予習】 これまでの配布資料を再読する。 【復習】 講義資料を読み、キーワードについて説明できるようにする		90	
〔授業の方法〕 ・ 具体的な授業の運営方法は、第1回の授業および配布資料において説明します。 ・ 履修を予定している方は、第1回の授業に出席し、配布資料にも目を通して下さい。 ・ 講義形式で授業を行います。 ・ 課題などを通じて、受講生の理解度を確認しながら授業を進めます。 ・ 上で示された準備学習の時間はあくまで目安ですので、各自の理解度に応じて取り組んでください。							
〔成績評価の方法〕							

原則として、期末試験にて評価します。ただし、加点対象として、レポート課題等の課題を提示する場合があります。また、成績評価の方法や評価割合が変更する可能性があり、その際は授業期間中に履修者へ周知致します。成績評価の方法はガイダンスで説明しますので、履修を予定している方は第1回の授業に必ず参加してください。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
上述した次の2点の目標が達成できていること。
①経営学の基礎知識を身につける。
②企業の実際の活動内容や職場の諸問題について考える力を身につける。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
必要な予備知識は特にありません。

〔テキスト〕
三戸浩・池内秀己・勝部伸夫（2018）『企業論 第4版（有斐閣アルマ Specialized）』、有斐閣、978-4641221192

〔参考書〕
稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝（2022）『キャリアで語る経営組織〔第2版〕』有斐閣アルマ
井上達彦・中川功一・川瀬真紀（2019）『経営戦略』中央経済社
小山巖也・出見世信之・谷口勇仁（2018）『問いからはじめる現代企業』有斐閣
※参考書を購入する必要はありません。その他の参考書に関しては、講義中に適宜紹介します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。

〔特記事項〕
特にありません。

科目名		物質の究極像					
教員名		丸吉 一暢					
科目No.	120730110	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 物理嫌いでも構いません。「自然界の基本的な成り立ち」について、好奇心をもっている人に、誰にでもわかるレベルで説明します。物質は原子からできているという話から始まり、原子は原子核と電子からできており、次に原子核は陽子と中性子からできており、さらにクォーク、ニュートリノとは何かと、話が進んでいきます。そして現段階での物質の究極像である標準理論にたどり着きます。人類は自然の基本構造をどこまで明らかにしたのか、感じ取ってもらうための授業です。							
〔到達目標〕 DP2【教養の修得】を目標とする。 自然界の根本法則に対して、科学者がどのように取り組んでいるかを知る。そしてその最先端の状況についてイメージをもち、ときにテレビや新聞・雑誌に登場する科学ニュースに、関心をもって接触できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	素粒子物理学への導入			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 2 回	近代科学はなぜ誕生したのか：ニュートンの力学			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 3 回	近代科学の発展：原子論・熱とエネルギー			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 4 回	光の歴史：光は波か？粒子か？			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 5 回	光の歴史：光は波か？粒子か？その 2			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 6 回	新しい物理学（量子力学）			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 7 回	粒子の生成・吸収：質量エネルギー			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 8 回	素粒子物理学の誕生：強い相互作用と弱い相互作用			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 9 回	核子からクォークへ、量子色力学			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 1 0 回	素粒子の標準模型			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 1 1 回	標準模型＋アルファ：CP の破れとニュートリノ振動			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 1 2 回	標準模型を超えて			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 1 3 回	重力について			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
第 1 4 回	物質の究極像へ 今後の展望			教科書の該当箇所を読み、必要ならば参考書やネットから情報を得る。		30～60	
〔授業の方法〕 講義形式の授業を行います。授業は多少余裕をもって終え、授業中に簡単な課題を課します。また、レポート（主として内容の要約）を数回程度提出してもらいます。							
〔成績評価の方法〕 平常点（毎回の課題や授業への参加状況）60%、レポート点 40%で評価します。 レポートは提出が第一で、内容の評価も加味します。試験はありません。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
『物質の究極像をめざして』、和田純夫著、ベレ出版

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイト、**Course Power** で周知する。

〔特記事項〕

科目名		人間と進化					
教員名		三吉 美加					
科目No.	120730210	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本授業は、まず人類学という学問についての概説をした後、おもに、米国におけるラティーン、カリブ系、アフリカ系アメリカ人のコミュニティの形成を理解し、各エスニック集団の文化表象について文化人類学的視点から考察するものである。 主に検討する集団は、アフリカ系アメリカ人、メキシコ系、プエルトリコ系、ドミニカ系、キューバ系である。米国主流社会との関係性を検討しながら、コミュニティ間や独自の文化を考察していく。							
〔到達目標〕 受講者は、文化人類学がどのような学問であるかをまず理解し、人種やエスニシティにまつわる社会的文化的事がらを文化人類学的に考察することを学ぶ。 また、米国社会のアフリカ系アメリカ人、カリブ系、ラティーンがどのようなコミュニティを形成し、文化的社会的活動を行っているのかについて説明できるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス			配布するプリントをよく読んでおくこと		60分	
第2回	人類学的とは？人類の進化とは？ 文化人類学の特徴、学問形成の背景について説明する			資料をよく読んでおくこと		60分	
第3回	アフリカ系アメリカ人の歴史とコミュニティの形成 米国のアフリカ系アメリカ人の歴史を概観した後、奴隷解放後、どのように全米で黒人コミュニティが形成されていったかを解説する			資料をよく読んでおくこと		60分	
第4回	アフリカ系アメリカ人のコミュニティ 南部とシカゴ、ワシントン D.C.、ニューヨーク、ロサンゼルスなどの米国大都市部のアフリカ系アメリカ人の生活経験の差について解説する			資料をよく読んでおくこと		60分	
第5回	ブラックカルチャー 米国の音楽ジャズにおけるアフリカ系アメリカ人やカリブ系の影響、 ソウル音楽、R&B などに共通してみられる「黒人らしい」特徴について解説する			資料をよく読んでおくこと		60分	
第6回	ラティーンとは？ ラティーンと呼ばれる人びとはどのような人びとなのだろうか。彼らの米国社会における影響は？なぜ多くのラティーンが米国に流入しつづけるのかについて解説する			教科書の該当章をよく読んでくること		60分	
第7回	メキシコ系アメリカ人 19世紀半ばの米墨の関係を説明した後、どのような経緯で「メキシコ系米国人」が誕生したかをみていく。また、現在の南西部およびロサンゼルス市のメキシコ系のコミュニティ発の文化を検討していく。とくに若い人びとの間で流行するファッション、音楽、ダンスを検討する。			教科書の該当章をよく読んでくること。メキシコ系文化にどのようなものがあるかを各自調べてくる。		60分	
第8回	ロサンゼルス市のメキシコ系とサルバドル系 ロサンゼルスにおいてどのようにメキシコ系とサルバドル系がコミュニティをそれぞれ形成しているのかを理解する			教科書の該当章をよく読んでくること。		60分	
第9回	プエルトリコ系アメリカ人 プエルトリコ系が「米国人」になった歴史的経緯を説明した後、彼らが集中するニューヨーク市のコミュニティについてみていく。			教科書の該当章をよく読んでくる。プエルトリコ系文化にどのようなものがあるかを各自調べてくる		60分	
第10回	プエルトリコ系の文化復興運動 ニューヨーク市で1950年代からみられたプエルトリコ系による社会運動に注目する。また、サルサ、ボンバ、レゲトンなどの文化表象を検討し、アイデンティティの表象とどのようにかわっているかを理解していく			教科書の該当章をよく読んでくる		60分	
第11回	キューバ系アメリカ人 キューバと米国の歴史的なかわり方を理解する。キューバ革命とマイアミのキューバ系コミュニティとの関連性を考えながら、キューバ系文化とされるものを具体的に理解していく。			教科書の該当章をよく読んでくる		60分	
第12回	ドミニカ系アメリカ人 ドミニカ人が大勢米国に押し寄せてくるようになった社会的背景を検討しながら、ニューヨーク市の彼らのコミュニティについて解説する。			教科書の該当章をよく読んでくる		60分	
第13回	ラティーン音楽(ヒップホップ、レゲトン)			教科書の該当章をよく読んでくる		60分	

第14回	講義のまとめ	配布したプリント、教科書を再読する	60分
〔授業の方法〕 授業までに、教科書の指定箇所をよく読んできてください。授業時に配るワークシートに書き込みをしながら、自分の理解度を確認していく。講義の後、映像資料を参考にしながら、理解をさらに深めていく。			
〔成績評価の方法〕 コメントペーパー 10%、 授業参加度（小テスト・発言など）10%、 試験（中間・期末）80%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 三吉美加 『米国のラティノー』 大学教育出版、1800円、ISBN 9784864292627			
〔参考書〕 初回授業時指示す			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 メールや掲示板にて			
〔特記事項〕			

科目名		脳科学と心<1>					
教員名		勝沼 るり					
科目No.	120730310	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 ヒトの思考や行動はすべて脳によって制御されている。その複雑な構造やメカニズムの理解を深めることが我々ヒトの本質を知る手がかりとなる。本講義では、脳神経科学の基礎となる知見を概説し、最新の脳科学研究の成果を踏まえながら、我々の行動について考える。また、それぞれのテーマにおいて関連する精神・心身疾患に関与する神経メカニズムについて理解する。							
〔到達目標〕 本講義を履修することによって、次の知識と能力を修得する 1) 脳神経科学の各研究領域についての概要を理解することができる 2) 脳神経科学的研究、知見について批判的に考察することができる 3) 脳神経科学の基本的な原理を理解し、心のプロセスや精神障害に対する脳科学のアプローチに関する洞察を得ることができる							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）			準備学修 の目安（分）
第 1 回	「脳科学の基礎と概要」 脳科学の基本的な概念や原理を理解し、脳科学を学ぶ意義について考える			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 2 回	「知覚の神経科学」 脳が外部からの情報を受け取り、解釈する過程である知覚（視覚・聴覚など）がどのように形成されるのかを知る			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 3 回	「記憶・学習」 我々を形成する、記憶の積み重ねがどのように処理・保存されているのかについて学ぶ			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 4 回	「運動と身体感覚」 脳が身体の動きや感覚をどのように処理し、制御しているのかを理解する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 5 回	「情動とストレス」 感情を司る脳のメカニズムとストレスとの関連について学ぶ			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 6 回	「注意・制御・マインドフルネス」 脳が注意をどのように管理し、行動を制御するかについて理解する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 7 回	「実行と抑制」 脳が行動を始める（実行）と抑制する（抑制）メカニズムを、脳内の神経回路の役割、そして日常生活での影響について考える			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 8 回	「意思決定」 脳内で情報を処理し、選択肢を評価し、最終的な決定を下す仕組みについて学ぶ			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 9 回	「睡眠」 脳が睡眠中に行う様々な機能や処理について探求する。また、睡眠不足が脳機能や健康に与える影響についても理解する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 1 0 回	「言語・ジェスチャー」 言語が脳内でどのように処理され、ジェスチャーがどう関連しているのかについて理解し、人間のコミュニケーションにおける重要性を考察する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 1 1 回	「社会神経科学」 他者との関わりが我々の生活にどのように影響しているのか、神経科学的研究のアプローチによる理解を深める			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 1 2 回	「報酬と依存」 薬物の摂取や食事行動にまつわる、快の脳内メカニズムを知る			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 1 3 回	「社会的報酬」 他者からの信頼や賞賛などの社会的報酬が行動や意思決定にどのような役割を果たすか、また人間の行動や社会的つながりに与える影響について議論する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。			60
第 1 4 回	「今後の脳科学研究が向かう先」とまとめ			授業の内容を確認し復習する。			60
〔授業の方法〕 授業の形式は基本的に講義を中心とし、デモを交えながら解説する。 毎授業後、講義内容の復習として小テストを行う。							
〔成績評価の方法〕							

学期末試験および期末レポートは実施しないため、平常点で成績評価する。

平常点(授業への参加状況や小テスト、まとめテスト<14回分>の提出と評価状況)内訳は以下の通り。

授業および小テストまとめテストへの参加状況および提出状況 14% 小テスト(1回6点満点)を12回行う 72%(第1回は小テストは行わない。第2回から第13回までの12回分) まとめ小テスト(最終回の第14回)14%

平常点14%+小テスト12回分計72%+まとめ小テスト14%=合計100%

60%以上が単位認定

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識などは特に必要としない。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

『カールソン神経科学テキスト 一脳と行動一 原書13版』、中村 克樹 監訳、丸善出版、¥19,800、ISBN: 978-4-621-30765-6
「購入の必要なし」

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付けます。随時メールでも受け付けます。いつでも質問をしてきてください。

〔特記事項〕

科目名		脳科学と心<2>					
教員名		勝沼　るり					
科目No.	120730320	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 ヒトの思考や行動はすべて脳によって制御されている。その複雑な構造やメカニズムの理解を深めることが我々ヒトの本質を知る手がかりとなる。本講義では、脳神経科学の基礎となる知見を概説し、最新の脳科学研究の成果を踏まえながら、我々の行動について考える。また、それぞれのテーマにおいて関連する精神・心身疾患に関与する神経メカニズムについて理解する。							
〔到達目標〕 本講義を履修することによって、次の知識と能力を修得する 1) 脳神経科学の各研究領域についての概要を理解することができる 2) 脳神経科学的研究、知見について批判的に考察することができる 3) 脳神経科学の基本的な原理を理解し、心のプロセスや精神障害に対する脳科学のアプローチに関する洞察を得ることができる							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	「脳科学の基礎と概要」 脳科学の基本的な概念や原理を理解し、脳科学を学ぶ意義について考える			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 2 回	「知覚の神経科学」 脳が外部からの情報を受け取り、解釈する過程である知覚（視覚・聴覚など）がどのように形成されるのかを知る			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 3 回	「記憶・学習」 我々を形成する、記憶の積み重ねがどのように処理・保存されているのかについて学ぶ			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 4 回	「運動と身体感覚」 脳が身体の動きや感覚をどのように処理し、制御しているのかを理解する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 5 回	「情動とストレス」 感情を司る脳のメカニズムとストレスとの関連について学ぶ			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 6 回	「注意・制御・マインドフルネス」 脳が注意をどのように管理し、行動を制御するかについて理解する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 7 回	「実行と抑制」 脳が行動を始める（実行）と抑制する（抑制）メカニズムを、脳内の神経回路の役割、そして日常生活での影響について考える			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 8 回	「意思決定」 脳内で情報を処理し、選択肢を評価し、最終的な決定を下す仕組みについて学ぶ			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 9 回	「睡眠」 脳が睡眠中に行う様々な機能や処理について探求する。また、睡眠不足が脳機能や健康に与える影響についても理解する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 1 0 回	「言語・ジェスチャー」 言語が脳内でどのように処理され、ジェスチャーがどう関連しているかについて理解し、人間のコミュニケーションにおける重要性を考察する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 1 1 回	「社会神経科学」 他者との関わりが我々の生活にどのように影響しているのか、神経科学的研究のアプローチによる理解を深める			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 1 2 回	「報酬と依存」 薬物の摂取や食事行動にまつわる、快の脳内メカニズムを知る			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 1 3 回	「社会的報酬」 他者からの信頼や賞賛などの社会的報酬が行動や意思決定にどのような役割を果たすか、また人間の行動や社会的つながりに与える影響について議論する			授業の内容を確認し復習する。予習に関しては必要に応じて授業内で予習課題を知らせる。		60	
第 1 4 回	「今後の脳科学研究が向かう先」とまとめ			授業の内容を確認し復習する。		60	
〔授業の方法〕 授業の形式は基本的に講義を中心とし、デモを交えながら解説する。 毎授業後、講義内容の復習として小テストを行う。							
〔成績評価の方法〕							

学期末試験および期末レポートは実施しないため、平常点で成績評価する。

平常点(授業への参加状況や小テスト、まとめテスト<14回分>の提出と評価状況)内訳は以下の通り。

授業および小テストまとめテストへの参加状況および提出状況 14% 小テスト(1回6点満点)を12回行う 72%(第1回は小テストは行わない。第2回から第13回までの12回分) まとめ小テスト(最終回の第14回)14%

平常点14%+小テスト12回分計72%+まとめ小テスト14%=合計100%

60%以上が単位認定

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準(学則第38条、39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

予備知識などは特に必要としない。

〔テキスト〕

特になし。

〔参考書〕

『カールソン神経科学テキスト 一脳と行動一 原書13版』、中村 克樹 監訳、丸善出版、¥19,800、ISBN: 978-4-621-30765-6
「購入の必要なし」

〔質問・相談方法等(オフィス・アワー)〕

授業終了後に教室で受け付けます。随時メールでも受け付けます。いつでも質問をしてきてください。

〔特記事項〕

科目名		天文学入門					
教員名		古 荘 玲子.渡部 潤一					
科目No.	120730410	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 天文学は、私たち人類が自分たちを取り巻く世界を理解したいという知的好奇心から生まれた、最古の学問のひとつである。私たちの住む地球からはじまり、太陽系、銀河系そして遠方銀河までが、どのように観測され、研究されてきたのか、宇宙の構造を空間スケールを変えながら概略を学ぶ。また、私たちの住む地球や太陽系を含めて、時間とともにどのように進化してきたのかを概説する。							
〔到達目標〕 1. 天文学が明らかにしてきた知見を、時間的・空間的なスケールと絡めて包括的に理解する。 2. 地球や私たちの文明のあり方を、宇宙における存在として捉えなおす。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス／宇宙観の変遷 ・本講義の進め方や、評価基準について説明する。 ・天文学のはじまりと研究の流れについて解説する。			【予習】 シラバスや参考書を読み、予め講義内容を把握する。 【復習】 講義の進め方や評価基準を確認し、配布プリントを復習する。		30 60	
第 2 回	基礎知識 1 ・時間と空間、暦の成立と変遷、天体のスケールについて解説し、学修する。			時間と空間の概念、暦の成立と変遷、天体のスケールについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 3 回	基礎知識 2 ・観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて解説し、学修する。			観測とはなにか、観測手法、波長、座標系などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 4 回	太陽系 1 ・太陽系の概念の変遷と惑星とは何かについて解説し、学修する。			太陽系の概念の変遷、特に惑星の定義について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 5 回	太陽系 2 ・個々の惑星の性質、特徴、種別などについて解説し、学修する。			個々の惑星の性質、特徴、種別などについて、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 6 回	太陽系 3 ・太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について解説し、学修する。			太陽系小天体、特に彗星、小惑星、および流星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 7 回	太陽 ・恒星としての太陽、太陽の物理について解説し、学修する。			太陽の物理について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 8 回	恒星 1 ・恒星とはなにか、および恒星分類について解説し、学修する。			恒星とはなにか、および恒星分類について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 9 回	恒星 2 ・恒星の進化と輪廻、物質循環にはたす恒星の役割について解説し、学修する。			恒星の進化と輪廻、物質循環にはたす恒星の役割について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 1 0 回	銀河系 ・天の川銀河の性質、構造、および進化について解説し、学修する。			天の川銀河の性質、構造、および進化について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 1 1 回	銀河 ・銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造について解説し、学修する。			銀河の種別と分類、銀河の進化、および構造について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 1 2 回	宇宙論 ・宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論について解説し、学修する。			宇宙の誕生、進化、構造、および多宇宙論について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 1 3 回	宇宙と生命 ・宇宙における生命の可能性や生命探査、さらに経学惑星について解説し、学修する。			宇宙における生命の可能性や生命探査、経学惑星について、プリントや参考書を元に復習し、理解を深める。		90	
第 1 4 回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを実施する。			【予習】 到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		120	
〔授業の方法〕 教室での講義を主体とする。授業時に、各回のトピックに関するプリントを配布する。普段から、ノートやプリントを復習に力を入れること。講義内容の理解度を確認するため、講義内容から簡単な問題を「出席クイズ」という形で出題し、結果を授業参加度に反映する（ただし、毎回ではない）。最終講義に「到達度確認テスト」を行い、講義全体の学習内容についての理解度を確認する。							
〔成績評価の方法〕 最終講義で実施する「到達度確認テスト」の成績を主とするが（70%）、「平常点（各回講義の参加状況や、「出席クイズ」を実施した場合はその結果）」（30%）を加味する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ① 天文学が明らかにしてきた基本的な知見を、論理的に正しく説明できる。
- ② ①について、さらに時間的・空間的なスケールと絡めて解説できる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
高校程度の数学的な基礎知識があることを前提とする。

〔テキスト〕
特になし（必要に応じてプリントを配布します）

〔参考書〕
「面白いほど宇宙がわかる15の言の葉」 渡部潤一著、小学館101新書
「宇宙科学入門 ー第2版ー」 尾崎洋二著、東京大学出版会
「シリーズ 現代の天文学」全17巻、日本評論社

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
講義終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

科目名	薬はなぜ効くか						
教員名	増田 典之・須藤 勝美						
科目No.	120730510	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 <概要> 薬は、動物あるいは植物等、いわゆる生体の生理学的機能や病態生理学のプロセスに対して作用して、健康維持、予防、治療、診断のために用いられる物質の総称である。現在、病院や薬局で手に入る薬（医薬品）の多くは、最新の科学を取り入れ、長い年月と高額な費用を投じて研究開発されてきており、様々な形態や種類が存在している。そして、「薬はなぜ効くか」を考えると、その回答は、「薬がどのように生体の生理学的機能や病態生理学のプロセスに作用するのか」の理解に通じるのである。本講義では、最新の薬の研究開発情報を取り入れながら、「薬はなぜ効くか」について、できるだけ理解しやすく講述していく。 <テーマ> 「薬はなぜ効くか」の理解は、新薬の研究開発、副作用の軽減、正しい薬の使い方などのために必要である。まずは、「薬とは何か」を理解した上で、薬の分類、作用機序（薬はなぜ効くか）、新薬の研究開発プロセス、個別化医療など、「薬」全般について講義する。近年、薬の形態・治療手段（モダリティ）は低分子化合物のみならず、抗体、核酸、遺伝子など多様性が増している。種々のモダリティについて具体的な薬に関する事例とともに紹介する。また、最近の新薬の事例として、COVID-19 のパンデミックで研究開発された mRNA ワクチンについて、激しい競合状況を含めて話題を提供する。さらに、社会問題となっている違法薬物、オーバードーズの危険性や、スポーツにおけるドーピング問題などについても講義する。 薬は、我々の健康維持や疾患治療に欠かせないものであり、科学の進歩によって日々進化している。薬にかかわる分野は、医学、薬学、生物学、化学を始め、物理学、工学、倫理学、経済学などから成る総合科学であることを認識し、多様な観点から考察することにより、「薬はなぜ効くか」を理解する。また、生体の機能メカニズムの理解が治療法の開発の基礎となり、新しい薬の研究開発へと繋がる。この講義で、常に進化する最新の薬について紹介する。							
〔到達目標〕 受講生が、①薬について正しい知識を取得し、薬の全体像を理解し説明できること、②その理解のもと、健康的、かつ保健衛生的な生活がおくれるようになることを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	講義全体の説明 「薬（医薬品）とは何か」 ・薬（医薬品）の定義 ・身の回りの薬 ・薬の治療効果、副作用 ・個人による効果の差 <補足>薬は、病気を治療・改善し、健康を保つために用いられる物質である。また、薬は病気の治療効果が期待される一方で、副作用やリスクが伴う。個々の体質や病態によって異なる反応が現れ、時には予測困難な副作用が生じることがある。			<予習> 身の回りの薬を調べる <復習> 薬（医薬品）の定義を理解する		30 60	
第2回	「薬の分類」 ・モダリティ ・剤形 ・その他 <補足> (1) モダリティ 薬は、形態・治療手段（創薬技術・手法）、いわゆるモダリティによって分類される。モダリティとしては、低分子、ペプチド、抗体、核酸医薬、遺伝子、ワクチン、細胞などがある (2) 剤形 薬は、その投与形態によって分類される。剤形には、経口剤、注射剤、塗布剤などがある。さらに、経口剤には錠剤、カプセル剤、液剤、シロップ剤など、注射剤には静注剤、筋注剤、皮下注剤などがある。 (3)			<予習> インターネットなどで、薬の分類について調べる <復習> 様々な薬の分類の仕方について理解する		30 60	
第3回	「生理学的な作用」 ・生体の生理機能（免疫など） ・薬の標的分子と作用機序 <補足>薬の生体内での作用、すなわち生体の生理学的機能や病態生理学のプロセスに対する作用を発揮する標的として、（1）受容体、（2）酵素、（3）イオンチャネル、（4）トランスポーター、（5）核酸などがある。			<予習> 高校の生物の教科書で受容体等について調べる <復習> 様々な薬の標的分子と作用機序について理解する		30 60	
第4回	「研究開発プロセス」（1） ・新薬研究開発の現状 ・疾患発掘、標的探索、モダリティ戦略 ・スクリーニング、最適化 <補足>新しい薬（新薬）の研究開発には 10 年以上の歳月と 2000～2500 億円程度の研究開発費が必要であり、成功確率は 3 万分の 1 と言われている。			<予習> 「新たな薬が必要な病気とは何か」を調べる <復習> 新薬の研究開発の現状について理解する		60 60	
第5回	「研究開発プロセス」（2） ・非臨床試験 ・臨床試験 ・承認申請、審査 ・承認、上市			<予習> 「臨床試験」を調べる <復習> 新薬の研究開発プロセス全体を理解する		30 60	

	＜補足＞新しい薬（新薬）の研究開発には 10 年以上の歳月と 2000～2500 億円程度の研究開発費が必要であり、成功確率は 3 万分の 1 と言われている。（前回と同じ）		
第 6 回	「疾患と薬（感染症治療薬）」 ・感染症とは ・治療薬の種類と用法 ・感染の予防法 ＜補足＞感染症とは、病原体（細菌、ウイルスなど）が生体に定着し、発熱、咳、嘔吐、下痢などの症状を生じることであり、治療法としては対症療法（解熱鎮痛薬）、根治療法（抗生物質、抗ウイルス薬）、免疫（ワクチン）などがある。	＜予習＞ 「感染症治療薬」の種類について調べる ＜復習＞ 感染症治療薬の用法を理解する	30 60
第 7 回	「疾患と薬（COVID-19 感染予防ワクチン）」 ・COVID-19 によるパンデミック ・作用機序 ・研究開発プロセスと倫理的課題 ・競合状況 ・その他（治療薬開発等） ＜補足＞COVID-19 は新型コロナウイルス感染症であり、近年世界中がパンデミックに直面したが、極めて短期間で治療薬と mRNA ワクチン等が開発されている。	＜予習＞ COVID-19 のワクチンについて調べる ＜復習＞ ワクチンの種類、作用機序について理解する	30 60
第 8 回	「疾患と薬（生活習慣病治療薬）」 ・高血圧治療薬、作用機序と種類 ・脂質異常症（高脂血症）治療薬、作用機序と種類 ・糖尿病治療薬、作用機序と種類 ＜補足＞生活習慣病とは、食事や運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が深く関与し、それらが発症の要因となる疾患の総称であり、上述したがんをはじめ、高血圧症、高脂血症、糖尿病などが含まれ、これまで疾患ごとにいろいろな薬が開発されてきた。	＜予習＞ 生活習慣病について調べる ＜復習＞ 生活習慣病の治療薬の種類、作用機序について理解する	30 60
第 9 回	「疾患と薬（抗悪性腫瘍治療薬）」 ・悪性腫瘍 ・作用機序と種類 ・研究開発プロセス ・コンパニオン診断薬 ＜補足＞抗悪性腫瘍治療薬は、細胞障害性抗がん薬（化学療法薬）、分子標的薬、ホルモン療法薬（内分泌療法薬）、免疫チェックポイント阻害薬等の種類があり、悪性腫瘍の種類、ステージ等によって使い分けられる。	＜予習＞ 高悪性腫瘍治療薬について調べる ＜復習＞ 腫瘍治療薬の種類、作用機序、コンパニオン診断薬について理解する	30 60
第 10 回	「疾患と薬（アルツハイマー型認知症治療薬）」 ・アルツハイマー型認知症 ・作用機序と種類 ・研究開発プロセス ＜補足＞アルツハイマー型認知症とは、脳の神経細胞が徐々に減っていく進行性疾患で、脳が萎縮することで認知障害が現れる疾患であり、薬による治療は難しいという状況であったが、近年になり期待できる治療薬が開発されてきている。	＜予習＞ アルツハイマー病について調べる ＜復習＞ アルツハイマー病の治療薬の種類、作用機序について理解する	30 60
第 11 回	「個別化医療」 ・個別化医療とは ・医療における適用状況 ＜補足＞薬には効果がある一方で、副作用や注意が必要な事項も存在するが、いずれも“個人差”がある。近年、特に抗腫瘍薬の適応の際には、個別化医療の考え方（「効果が発揮しやすく、副作用が少ない患者への投与」）が志向されている。	＜予習＞ 個別化医療について調べる、身の回りで薬に対する作用の違いを考える ＜復習＞ 個別化医療について理解する	30 60
第 12 回	「新規モダリティ」 ・遺伝子治療 ・再生医療・細胞医療 ＜補足＞最近では、遺伝子工学や生体細胞を利用して研究開発された薬が上市され、がんや免疫疾患の治療などに適応されてきている。	＜予習＞ 未来の薬とはどのようなものかを想像する ＜復習＞ 未来の薬について理解する	30 60
第 13 回	「違法薬物、オーバードーズの危険性や、スポーツにおけるドーピング」 ・違法薬物 ・オーバードーズ ・ドーピング ＜補足＞違法薬物、薬の過剰摂取、スポーツ競技において禁止されている薬等について学修する	＜予習＞ 課題にあるキーワードについて調べる ＜復習＞ 違法薬物、オーバードーズ、ドーピングの危険性について理解する	30 60
第 14 回	まとめ ・「薬はなぜ効くか」	＜予習＞ これまでの講義内容から、「薬はなぜ効くか」のキーワードを 3～5 個ピックアップする ＜復習＞ ピックアップしたキーワードを使用して「薬はなぜ効くか」に関するレポートを作成する	60 60
〔授業の方法〕 ・この授業は、「資料、もしくは録画の提供（e ラーニング）」で実施する。 ・毎回の講義内容の資料はパワーポイントで作成し、講義前に配布する。 ・毎回小テストを行いテクニカルターム、講義内容について出題する（全 14 回）。 ・講義資料、及び小テストの公開期間は、各回の講義当日から次回講義前日までの 7 日間とする（その間でオンデマンド受講が可能）。			
〔成績評価の方法〕 期末レポート（50%）、小テスト（50%）の成績を加味して評価する。			
〔成績評価の基準〕			

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
日常的に新聞、テレビ、インターネット、雑誌・図書などから薬・医療に関する情報を摂取するように努めると、講義内容が理解しやすい。

〔テキスト〕
「特になし」

〔参考書〕
特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
コースパワーを通じて受け付けます。

〔特記事項〕

科目名	身の回りの科学						
教員名	加藤 光裕						
科目No.	120730610	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 身近な自然現象や地球環境、生活に欠かせない種々の機器の動作など、様々なものの背後にある科学的原理や法則を理解することは、変化の速い高度技術社会と、環境との関わりを意識することが不可欠な時代に生きる現代人にとって、今や必須の素養です。また、科学的なものの見方・考え方を身につけることで、巷に溢れる根拠のない情報や風評に惑わされずに正しく判断したり適切な行動をとるためのベースを作ることが、情報過多の現代社会において必要とされています。 この授業では、身近な自然現象や身のまわりの機器などをいくつか取り上げて、その科学的原理や法則を具体的に理解するとともに、物事をブラックボックス化せず科学的根拠に基づいて合理的に理解していく考え方や心構えなどを涵養していくことを目指します。なお、各回の授業内容や順序は、変更する場合があります。							
〔到達目標〕 DP2、DP3 を実現するため、以下を主な到達目標とする。 身のまわりの様々な自然現象や機器の仕組みなどを背後にある科学的原理や法則に基づいて理解する。 身のまわりの事象や物事を科学的に分析し合理的に理解する方法や心構えを身につける。 身のまわりのものに興味を持ち、なぜ？どうして？という発想を自然に持てるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	・月はなぜいつも同じ面を地球に向けている？ （万有引力、遠心力、力の釣り合い、力のモーメント、剛体）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第2回	・台風の渦巻きはどうして反時計回り？ （気圧と風、コリオリ力、慣性系と加速度系）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第3回	・AI とは （ニューラルネットワーク、ディープラーニング、ChatGPT）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第4回	・電磁調理器と IC カード （電場と磁場、電磁誘導、ジュール熱、IC カード、非接触充電）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第5回	・電子レンジはなぜ温められる？ （電磁波、波長と振動数、光、紫外線、X 線、温室効果ガス）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第6回	・スマホと通信 （電波、共振、変調、アナログとデジタル、公開鍵暗号、電子署名）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第7回	・放射温度計はかざすだけでなぜ温度が測れるのか （放射温度計、黒体輻射、色温度、宇宙背景放射、星の表面温度）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第8回	・お湯は自然に冷めるけど、水は自然にお湯にならないのはなぜ？ （熱力学の法則、熱機関、ヒートポンプ、マイクロとマクロ、エントロピー）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第9回	・地震波と音波 （地震、P 波・S 波、音、ドップラー効果、ノイズキャンセル、マイク、スピーカーの原理）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第10回	・放射線と放射能 （原子と原子核、 α 線、 β 線、 γ 線、ベクレルとシーベルト、外部被曝、内部被曝）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第11回	・GPS と相対性理論 （GPS、GNSS、位置情報、光の速さ、同時刻の相対性、時計の遅れ）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第12回	・身の回りの量子 （粒子と波、量子の世界、半導体、LED と太陽電池、フラッシュメモリとトンネル効果）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	
第13回	・すべての始まり、すべての素 （素粒子、鏡の中の世界、物質と反物質）			予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。		60 分程度以上	

第 1 4 回	・科学とは？ (科学と技術、科学法則、理論と実験、偽科学、研究不正、法科学)	予習・復習をしっかりと行うこと。特にその日のテーマについて、自分のとったノートを見返し、自分の理解を整理すること。疑問に思った点や深掘りしたい点があれば、積極的に調べてみる。	60 分程度以上
〔授業の方法〕 スライドや板書による講義を中心に、毎回 Slido を用いたクイズや、MS Forms を用いた「おさらいテスト」を行う。そのため、スマートフォンあるいはパソコンを持参し、Seikei-WiFi に接続できるようにしておくこと。予告なしの小テストなどを行う可能性もある。話を聴いて終わりではなく、主体的・積極的に自ら考えたり調べたりすることが重要である。必ず自らの手でノートもしくはメモを取ること。これは、学習内容の定着や頭の整理にとって重要な作業であり、スライドや板書を許可なく安易にスマホやカメラ等で撮影してはな			
〔成績評価の方法〕 基本的には学期末試験で 50%以上評価するが、毎回のおさらいテストの結果を加味する。その他に小テストや課題提出を行なった場合はその評価を適宜加味する可能性がある。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 授業で取り上げたテーマに関してその原理や法則が理解できたか。 科学的な考え方に則って物事を分析することができるか。 ★理工学部生の場合は、上記に加えて数学表現を用いて定量的に説明できるか。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 特になし			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業時間中にわからない点があればその場で質問することが、質問者本人にとっても、やりとりを聴いているまわりの学生にとっても、最も理解を深められるため、推奨される（教員にとっても学生の躰いた点に即応し臨機応変に説明に反映できる）。 時間があれば授業終了後にも質問を受け付ける。			
〔特記事項〕			

科目名		科学技術の発展と歴史					
教員名		渋谷 一夫					
科目No.	120730810	単位数	2	配当年次	1 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 科学技術は長い歴史の中で多くの人びとの努力の積み重ねによって発展させられてきた。この授業では、18 世紀後半にはじまる産業革命以降のヨーロッパの科学技術に関するいくつかのエピソードを取り上げながら、科学と技術とが相互に影響を及ぼしあいながらそれぞれどのように発展してきたのかを明らかにする。なお、授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 ①それぞれの科学技術がどのような経過をたどって内的に発展してきたかを説明できる。 ②それぞれの科学技術が当時の社会・経済・政治などどのような関係にあったかを説明できる。 ③それぞれの科学技術が後の社会・経済・思想などにどのような影響を与えたかを説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習のしかたなどを文書で説明する。 科学技術と産業革命 ・科学技術から見た産業革命について概観する。			【予習】産業革命とは何だったかを確認する。		60	
第2回	繊維産業における科学技術の発達 ・繊維産業が産業革命の起源になった要因について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第3回	動力技術の歴史（1）—蒸気機関の発明 ・蒸気機関を利用した時代の特徴を水車の利用との対比で学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第4回	動力技術の歴史（2）—蒸気機関の改良と発展 ・工場で広範に利用された蒸気機関の特徴を、近代的な蒸気機関の発明者であるワットの研究に沿って学修する			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第5回	動力技術の歴史（3）—輸送技術の発達 ・蒸気機関の輸送技術への応用の意味について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第6回	製鉄技術の歴史 ・製鉄技術における新しい発明とその意義について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第7回	工作機械技術の歴史 ・工作機械技術の形成と発達過程を社会的要因とのかかわりで学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。また、課題レポートの作成に努める。		120	
第8回	化学技術の歴史（1）—漂白技術の新展開 ・繊維産業における漂白工程の新しいやりかたについて学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第9回	化学技術の歴史（2）—環境問題の発生 ・漂白工程の近代化がもたらした環境悪化とそれに対する各種の取り組みについて学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第10回	化学技術の歴史（3）—染料技術の新展開 ・新しい染料技術が生まれる科学的・技術的背景について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第11回	化学技術の歴史（4）—合成染料発明の意義 ・合成染料技術の開発に関する科学技術的特徴について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第12回	電気技術の歴史（1）—通信技術の新展開 ・通信技術の変化について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第13回	電気技術の歴史（2）—照明技術の新展開 ・電気照明にとって必要な関連技術とともに、電気照明の優位性について学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	
第14回	電気技術の歴史（3）—電力生産と産業電化 ・電気技術が産業界に与えた影響とともに、その開発の意味を学修する。			【予習】講義レジュメを一読し、関心のある人物や項目について調べる。 【復習】キーワードとなる事象について説明できるようにする。		60	

		する。	
〔授業の方法〕 授業は講義形式でおこなうが、教科書を使うわけではないので、ポータル上にあげるレジュメ（講義の要旨）と参考資料をプリントアウトして授業に望んでほしい。ある程度まで進んだ段階で「確認テスト」ないし「課題」を課すので、特に復習に力をいれてほしい。			
〔成績評価の方法〕 期末試験と数回課す予定の「課題」ないし「確認テスト」の提出とでつけます。比率ですが、前者が 70%，後者が 30% です。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 『科学技術史概論』山崎正勝ほか編著、ミイシリ出版、1985 年（購入の必要はありません）			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 質問等は授業終了後に教室で受けつけます。			
〔特記事項〕			

科目名		気象と地球環境					
教員名		野津 雅人					
科目No.	120810210	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 私たちが生活する上で無視することのできない自然現象である天気を扱う気象・気候学を学び、論じることが本講義のテーマです。(1) 地学的・物理学的背景を直観的に理解し、より専門的な書籍に取り組む上での基盤を作ること、(2) 気象・気候学に関するフェイク情報に惑わされないしっかりと知識を身につけること、が本講義の目標です。 － 講義の最初(第 1 回)と中程(第 8 回前半)に、私たちの住む日本における気象の四季ごとの移り変わりを概観し、気象・気候現象の背景を学ぶための「復習」となるような講義を行います。 － 第 9 回までは、上記の季節ごとの気象現象の理論・観測的な背景を解説していきます。 － 第 10～12 回では、目下最大の環境問題となっている気候変動を中心に、取り組むべき難しい課題や、気候「予測」・気象「予報」について解説していきます。 － 第 12 回および第 13 回前半に、気象学の舞台である大気の周辺環境をなす固体地球の特徴(地形・火山・土壌・地震)についての説明を加えます。 － 第 13 回後半および第 14 回前半で講義内容のまとめを行い、第 14 回後半に期末到達度テストを行います。							
〔到達目標〕 気象・気候学分野において、DP2【教養の修得】(広い視野での思考・判断)・DP3【課題の発見と解決】(情報の調査収集+分析・解釈+論理的思考)を実現するために、以下を到達目標とします： － 気象・気候学に関わる現象を図・イメージ・理論式から直観的に理解できるようになる。 － 個々の気象・気候学に関わる現象や問題に関する情報収集を行い、自分の知識を元に批判的な立場からの考察と議論ができるようになる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)	
第 1 回	ガイダンス (1) 日本の四季と気象・その 1 ～冬から初夏 (2) 気象と気候 ～現象の「スケール」の話 1			シラバスの確認		60	
第 2 回	(2) 気象と気候 2 (3) 大気の運動・その 1 ～日本の冬を寒くする寒気と風の起源			前回の復習、および、事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 3 回	(4) 大気・海洋の観測 ～観察し測るという基本			事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 4 回	(5) 水・雲・降水 ～Grasp clouds with your head up in the clouds			事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 5 回	(6) 大気の熱力学 ～「上空に寒気が入るため不安定な天気」1			事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 6 回	(6) 大気の熱力学 2			前回の講義内容の復習		60	
第 7 回	(7) 大気の運動・その 2 ～天気はやがて東へ向かうだろう			第 1, 2 回講義内容を中心とした復習、および、事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 8 回	(8) 日本の四季と気象・その 2 ～夏から秋 (9) 温帯低気圧・台風・梅雨前線			これまでの講義内容の復習、および、事前配布資料や参考書などを用いた予習		75	
第 9 回	(10) 大気と海洋の相互作用 (11) 世界中をめぐる風			事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 1 0 回	(12) 温室効果と放射平衡・大気の上下構造 ～気温は理解するのは難しい			第 5, 6 回講義内容を中心とした復習、および、事前配布資料や参考		60	
第 1 1 回	(13) 気候変動 ～科学的にも社会的にも「不確定性」へのチャレンジ (14) 天気予報と気候変動予測 ～リチャードソンの夢 1			ここまでの全ての講義内容の復習		75	
第 1 2 回	(14) 天気予報と気候変動予測 2 (15) 惑星としての固体地球の特徴 1 ～気候成立の背景			前回の復習、および、事前配布資料や参考書などを用いた予習		60	
第 1 3 回	(15) 惑星としての固体地球の特徴 2 (16) 講義全体のまとめ 1			ここまでの全ての講義内容の復習		75	
第 1 4 回	(16) 講義全体のまとめ 2 学期末到達度テスト			ここまでの全ての講義内容の復習		120	
〔授業の方法〕 ・ Course Power で配布する講義資料ファイルをプロジェクタ投影しながら解説して行きます。 ・ 気象測器を見てもらうなどの実践的な学習を含む予定です。 ・ レポート(宿題レポート、1 回予定)では講義で得た知識や自分で学んで得た知識を元に、自分なりの考察を行えることを評価します。レポートを課す時期は							

講義中盤です。 - 4 回程度，講義内ミニレポートを課します。ミニレポートには簡単な演習を含むものもあります。
〔成績評価の方法〕 - 学期末到達度テスト（60%） - 宿題レポート（20%） - 平常点（20%）：講義および講義内ミニレポートへの参加状況（発言や質問なども含む）
〔成績評価の基準〕 - 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 - Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. - 講義の到達目標に対応する以下の 2 項目への到達度に基づき評価します： 1. 気象・気候学に関わる現象に対する地学的・物理学的背景を直観的に理解できるようになる 2. 前項で身につけた知識を元に，個々の気象・気候学に関
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 高校での数学・物理・化学の知識があるとより深く講義が理解できると思います。しかし，講義を受けたあとに改めて自分に必要な知識を補った上で講義内容を復習することも可能です。
〔テキスト〕 特になし（本講義では指定しません）。
〔参考書〕 - 『トコトン図解 気象学入門』，釜堀弘隆氏・川村隆一氏，講談社，2860 円，ISBN 978-4-06-155239-5，購入の必要なし（読み物的な参考書） - 『雲を愛する技術』，荒木健太郎氏，光文社，1320 円，ISBN 978-4-334-04329-2，購入の必要なし（ざっと予習したい人向け参考書） - 『文系のためのめっちゃやさしい天気』，渡部雅浩氏，ニュートンプレス，1650 円，ISBN 978-4-315-52447-5，購入の必要なし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 - 講義時間の前後に教室で受け付けます。 - 講義時間後もメールでの質問・相談を受け付けます。 - 質問等のメールアドレスは講義内でお知らせします。
〔特記事項〕

科目名		自然環境と文明					
教員名		松山 洋					
科目No.	120810310	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 地球の自然環境は複雑なシステムがバランスをとりながら、うまく循環してきました。しかし人間が文明的な活動を始めた時から、人間は環境に様々な影響を与え、近年はそのバランスが崩れ、様々な環境問題が生じています。この講義では、過去の自然環境と文明に起こった変化がどのように関連していたのかを考え、さらに現代文明とこれからの地球環境のあり方を考えていきます。							
〔到達目標〕 D P 2（教養の修得、および広い視野での思考・判断）を実現するため、以下を到達目標とする。 過去の気候変動などが引き起こした文明や技術革新について理解を深め、自分の言葉で説明できる。 人間が環境変化に与えてきた影響について理解し、自分の言葉で説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	1) ガイダンス ・ この授業で学修することを説明する。 ・ 担当教員のプロモーションビデオを見て、どのような視点から授業が展開されるかを理解する。			【予習】この授業のシラバスを読む。 【復習】サイエンスチャンネル 未来を創る科学者達（72）水から見える地球の姿を見る。 http://sciencechannel.jst.go.jp/I026904/detail/I056904072.html		【予習・復習】 60分	
第2回	2) 現代文明がもたらした最近の環境変化（その1） ・ 「20世紀最大の環境破壊」と言われた中央アジアのアラル海で起こってきた環境破壊について学修する。			【予習】『地球水環境と国際紛争の光と影-カスピ海・アラル海・死海と 21世紀の中央アジア/ユーラシア』水文・水資源学会編集出版委員会編、信山社サイテック、2,752 円、ISBN-13: 978-4882615477 を読む。		【予習】90分	
第3回	3) 現代文明がもたらした最近の環境変化（その2） ・ 乾燥地域で人々が暮らすための自然環境について学修する。 ・ 中央アジアのバルハシ湖では、隣接するアラル海と違って、なぜ大規模な環境破壊につながらなかったのかを学修する。			【予習】『図説・世界の地域問題』漆原和子・藤塚吉浩・松山 洋・大西宏治編、ナカニシヤ出版、2,625 円、ISBN-13: 978-4779502040 を読む。		【予習】90分	
第4回	4) 現代文明がもたらした最近の環境変化（その3） ・ アマゾン川流域の熱帯林破壊について学修する。 ・ アマゾン川流域の熱帯林が流域内外の水循環に及ぼす影響について学修する。			【予習】『アマゾン-生態と開発-』 西沢利栄・小池 洋一、岩波新書、609 円、ISBN-13: 978-4004302292 を読む。		【予習】90分	
第5回	5) 4 大文明の話 ・ 「なぜ、5,000 年前に 4 大文明はあそこに成立したのか？」を学修する。 ・ 過去の気候について学ぶ前に、現代の気候はどのように形成されているのかを学修する。			【予習】『やさしい気候学-第4版-』仁科淳司、古今書院、2,600 円、ISBN-13: 978-4772285117 の 第2～4 章を読む。		【予習】60分	
第6回	6) 過去の気候 その1 ・ 気候システム、およびその源となる太陽活動について学修する。 ・ 観測機器と古文書を用いた過去の気候の復元方法について学修する。			【予習】『講座 文明と環境〈第1巻〉地球と文明の周期』小泉 格・安田喜憲編、朝倉書店、3,800 円、ISBN-13: 978-4254106510。および『やさしい気候学-第4版-』仁科淳司、古今書院、2,600 円、ISBN-13: 978-4772285117 の 第7 章を読む。		【予習】120分	
第7回	7) 過去の気候 その2 ・ 花粉、氷床コア、年輪、地形、プランクトンを用いた過去の気候の復元方法について学修する。			【予習】『やさしい気候学-第4版-』仁科淳司、古今書院、2,600 円、ISBN-13: 978-4772285117 の 第7 章をもう一度読む。		【予習】60分	
第8回	8) 農耕と文明 その1 ・ 農耕、および麦作の起源について学修する。 ・ 貧富の格差を生み出さない農耕のあり方（ブッシュマン）があることについても学修する。			【予習】『講座 文明と環境（第3巻）農耕と文明』梅原猛・安田喜憲編、朝倉書店、3,800 円、ISBN-13: 978-4254105537 を読む。		【予習】90分	
第9回	9) 農耕と文明 その2 ・ 稲作の起源、および縄文時代から弥生時代への環境変化について学修する。			【予習】『講座 文明と環境（第3巻）農耕と文明』梅原猛・安田喜憲編、朝倉書店、3,800 円、ISBN-13: 978-4254105537 および『魏志倭人伝、卑弥呼、日本書紀をつなぐ糸』野上道男、古今書院、2,625 円、ISBN-13: 978-4772231459 を読む。		【予習】120分	
第10回	10) 農耕と文明 その3 ・ マヤ文明を支えたトウモロコシ栽培、およびインカ文明を支えたジャガイモ栽培について学修する。			【予習】『マヤ文明-密林に栄えた石器文化』青山和夫、岩波新書、840 円 ISBN-13: 978-4004313649 および『ジャガイモのきた道-文明・飢饉・戦争』山本紀夫、岩波新書、777 円 ISBN-13: 978-4004311348 を読む。		【予習】120分	
第11回	11) 火山噴火と文明 ・ 火山噴火のメカニズムについて学修する。 ・ 火山噴火が自然環境と文明に与えた影響について概観し、天明の飢饉を例にその実態について学修する。			【予習】『火山噴火と環境・文明』町田 洋・森脇広編、思文閣出版、2,460 円、ISBN-13: 978-4784208449 を読む。		【予習】90分	
第12回	12) 森林と文明 ・ メソポタミア文明とミノア文明が森林を利用して繁栄し、森林が枯渇するとともに滅んでいったことについて学修する。			【予習】『講座 文明と環境〈第9巻〉森と文明』菅原聰・安田喜憲編、朝倉書店、3,800 円、ISBN-13: 978-4254106596 および『気候が文明を変える』安田喜憲、岩波書店、1,000 円、ISBN-10: 4000065076 を読む。		【予習】120分	
第13回	13) 歴史時代の気候と文明 ・ 古墳寒冷期、中世の温暖期と小氷期に起こったできごとと自然環境との関係について学修する。			【予習】『尾瀬ヶ原の自然史』阪口 豊、中公新書、632 円、ISBN-13: 978-4121009289 および『講座 文明と環境〈第6巻〉歴史と気候』吉野正敏・安田喜憲編、朝倉書店、3,800		【予習】120分	

		円, ISBN-13: 978-4254106565 を読む。	
第 1 4 回	14) 将来の環境予測 ・地球温暖化にともなって、どのような環境変化が予測されているかについて学修する。 ・地球温暖化の話をする前に、「地球の気温はどう決まるか？」について説明する。	【予習】『IPCC AR6/WG1 報告書 政策決定者向け要約 (SPM) 暫定訳』を読む。 (https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ipcc/ar6/index.html からダウンロード可能です)	【予習】 90 分
〔授業の方法〕 配布資料は、授業のある週の月曜日には CoursePower に置きます (ただし、配布資料は一部がブランクになっています)。必要ならば、各自ダウンロードして紙に出力してから授業に臨んで下さい。授業では紙の資料を配布しません (小テストやコメントシートを除く)。 授業は Power Point を用いて進めます。授業で見せるスライドでは、配布資料中のブランクを外してあります。 予告なく、授業中に何回か小テストを行ったり、レポートを課したりします。これが成績評価の 50 % になり			
〔成績評価の方法〕 授業中に何回か行なう小テスト・レポート (50%) と学期末試験 (50%) で成績をつけます。レポートを全て提出し、学期末試験を受けた方だけを成績評価の対象とします。小テスト・レポートは遅れてもよいので提出しましょう (ただし、遅れて提出した場合、得点は最高でも合格最低点になります)。 学期末試験は 50 点満点で採点し、小テスト・レポート (50 点) と合わせて 60 点以上を合格とします。 S: 90 点以上 A: 80～89 点 B: 70～79 点 C: 60～69			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠します。 /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 次の点に着目し、その達成度によって評価します。 ・小テスト・レポート、学期末試験について、授業で学んだことを述べることができる。 ・さらに自分の考えを述べることができる。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目: 「環境と科学 (地球と環境)」「自然地理学」「地球環境問題」			
〔テキスト〕 購入する必要はありません。			
〔参考書〕 準備学修の箇所に具体的に記しましたが、それ以外の参考書を以下に挙げます。 『気候変化と人間～1 万年の歴史～』鈴木秀夫, 原書房, 6,090 円, ISBN-13: 978-4562090532. 『気候の変化が言葉をかえた』鈴木秀夫, 日本放送協会, 780 円, ISBN-13: 978-4140016077 『ジャガイモとインカ帝国-文明を生んだ植物』山本紀夫, 4,410 円 ISBN-13: 978-4130633208 『高地文明-「もう一つの四大文明」の発見』山本紀夫,			
〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 質問や相談は、授業終了後の教室で受け付けます。または、電子メールを活用して下さい (メールアドレスは、授業の配布資料に掲載します)。			
〔特記事項〕			

科目名		日本列島の歴史と災害					
教員名		矢野 萌生					
科目No.	120810410	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 日本列島は日本人にとって文字通り生活の基盤となる大地である。日本列島の歴史については、明治時代以来の長い研究伝統があるが、これまで統一的な説明は出来なかった。近年の地球年代学の進歩により、これまで形成年代が不明だった地質体の位置付けがわかり、約 6 億年にわたる日本列島形成史が明らかになりつつある。本授業科目では、まず前半でそれらを理解するために必要な地球科学の基本的な知識の習得を目指す。後半では、日本列島に焦点を当てその特徴を理解するとともに、もたらされる恩恵と表裏一体で発生する災害について SDGs の観点も踏まえて考えることを目標とする。							
〔到達目標〕 地球科学の基礎的な知識を持つ。 日本列島の基本的な地球科学的性質が説明できる。 日本列島の形成史が説明できる。 日本列島で発生する災害やもたらされる恵みについて説明が出来る。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			シラバスを確認し、必要な学修内容を理解する。		60 分	
第 2 回	地球の形成と構造			大学入学までに地球について学んだことを振り返る。		60 分	
第 3 回	地球を作る物質			大学入学までに岩石や鉱物について学修したことを振り返る。		60 分	
第 4 回	プレートテクトニクス			大学入学までにプレートテクトニクスについて学修したことを振り返る。		60 分	
第 5 回	大気・海洋の大循環			大学入学までに気象や海洋について学修したことを振り返る。		60 分	
第 6 回	地球史			大学入学までに地球の歴史について学修したことを振り返る。		60 分	
第 7 回	鉱床と海底鉱物資源			大学入学までに資源について学修したことを振り返る。		60 分	
第 8 回	日本列島の地球科学			日本列島の地理・地形について予習する。		60 分	
第 9 回	日本列島の地震と災害			日本列島で発生する地震とそれによって起こる災害について予習する。		60 分	
第 1 0 回	日本列島の火山と災害			日本列島にある火山と噴火によって起こる災害について予習する。		60 分	
第 1 1 回	日本列島の気象災害			日本列島で発生する気象災害について予習する。		60 分	
第 1 2 回	日本列島と鉱山			かつて「黄金の国」と呼ばれた日本の歴史について学修したことを振り返る。		60 分	
第 1 3 回	日本の海底鉱物資源			近年の資源を巡るニュースや報道を検索し予習する。		60 分	
第 1 4 回	まとめと期末レポート提出			これまでの講義をまとめ、課題に取り組む。		60 分	
〔授業の方法〕 基礎知識についての講義と、適宜簡単な演習で構成し、画像や映像を多用する。 講義内容の概要を示したハンドアウトを配布する。 各回の最後に、学修内容の確認のための小テストを実施する。							
〔成績評価の方法〕 毎回の小テスト（約 30％）、演習課題提出物（約 30％）、および期末レポート（約 40％）により総合的に評価する。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
中学校・高等学校での理科および社会科（特に地理分野）の学習内容を前提とする。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
購入の必要はなし。
講義の中で適宜紹介する。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕
ICT 利用

科目名		外国の自然と社会A					
教員名		加賀美 雅弘					
科目No.	120810610	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
【テーマ・概要】 「食からみたヨーロッパの自然と社会」 本講義ではヨーロッパの自然と社会の特性を、ヨーロッパ特有の食に着目して考察します。そのために、ヨーロッパの食の変化を、①自然環境に規定されたローカルな食文化、②近代化に伴う社会格差の拡大と食の多様化、③工業化による食の大衆化、の 3 点に着目した説明を行い、地域の変化と関連づけた理解を深めます。なお、必要に応じて、日本との違いにも言及します。							
【到達目標】 DP2（教養の修得）、DP5（多様な人々との協働）を実現し、現代社会を地理的にとらえるために、以下の 3 点を到達目標とします。 ① 自然環境とともに社会の変化が多様な要因によって規定されることを学び、社会を多角的にとらえる視野を養う。 ② 今日のヨーロッパの社会が、ヨーロッパと世界との結びつきのなかで形成されてきたことを理解する。 ③ 日本の社会と対比することにより、世界各地の社会を相対的に見る視点を養う。							
【授業の計画と準備学修】							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	「オリエンテーション」 ・授業の全体像、進め方などを説明する。 ・ヨーロッパの概略を説明する。			【予習】ヨーロッパの地図を見て、国の位置を理解しておく。 【復習】ヨーロッパの国名など地図を使った理解を深める。		60	
第 2 回	「食の地域差と文化・社会」 ・世界の自然環境と人の暮らしの関係を、食の地域差に着目して説明する。			【予習・復習】世界の自然環境と農業・食の関係に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 3 回	「ヨーロッパの自然環境と食（1）」 ・自然環境と農業の関係を、コムギと油脂に着目した食文化に着目して説明する。			【予習・復習】ヨーロッパの自然環境に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 4 回	「ヨーロッパの自然環境と食（2）」 ・北西ヨーロッパの自然環境と農業の関係を、酪農と牛乳に着目して説明する。			【予習・復習】ヨーロッパの自然環境に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 5 回	「社会的弱者のための食（1）」 ・貧困層の社会的地位を、トウモロコシに着目して解説する。 ・社会的弱者の特性を病気（ペラグラ）に着目して検討する。			【予習・復習】トウモロコシの歴史についての参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 6 回	「社会的弱者のための食（2）」 ・貧困層の社会的地位を、ジャガイモについて解説する。 ・アイルランド飢饉から社会的弱者の特性を考察する。			【予習・復習】ジャガイモの歴史についての参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 7 回	「中間まとめ」 ・自然環境と食との関係について考察する。 ・社会的弱者と食との関係について考察する。			【予習・復習】これまでの講義の内容を、資料と参考文献を踏まえて整理する。		150	
第 8 回	「都市の富裕社会」 ・富裕層の社会の特徴を、都市の街並みや構造を踏まえて説明する。 ・富裕層の暮らしと現代のヨーロッパの生活文化との関係について考察する。			【予習・復習】近代化と富裕層に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 9 回	「富裕社会と食（1）」 ・富裕層の社会の特徴を、砂糖の歴史に着目して説明する。 ・砂糖の栽培と消費から世界の格差について考察する。			【予習・復習】砂糖の歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 10 回	「富裕社会と食（2）」 ・富裕層の社会の特徴を、コーヒーの歴史に着目して説明する。 ・ヨーロッパの市民社会形成とコーヒーとの関係を論じる。			【予習・復習】コーヒーの歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 11 回	「富裕社会と食（3）」 ・富裕層の社会の特徴を、ミネラルウォーターの歴史に着目して説明する。 ・ステータスシンボルとしての飲料水について解説する。			【予習・復習】ミネラルウォーターの歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 12 回	「グローバル社会と食（1）」 ・富裕層の社会の特徴を、チョコレートの歴史に着目して解説する。 ・工業化によるチョコレートの多様化を説明する。			【予習・復習】チョコレートの歴史に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 13 回	「グローバル社会と食（2）」 ・自然環境に規定された農産加工品の特徴を、ビールに着目して説明する。 ・工業化によるビールのグローバル化を解説する。			【予習・復習】ビールの歴史と食の工業化に関する参考文献を読み、知識を蓄える。		100	
第 14 回	「最終まとめ」 ・社会的強者と食との関係について考察する。 ・グローバル化と食との関係について考察する。			【予習・復習】授業内容を整理し、ヨーロッパ社会に関する理解を進める。		150	
【授業の方法】							

授業は、内容を整理したパワーポイントを使用して行い、講義内容の理解をはかります。また、毎時間に課題を課し、リアクションペーパーの執筆を求めます。これによって学習内容の理解度を確認します。

〔成績評価の方法〕

学期末試験および期末レポートは実施しない。「平常点（中間まとめと最終まとめ 67%、毎回の授業で課すリアクションペーパー34%）：100%」で成績評価します。ただし、中間まとめと最終まとめは必ず提出するものとします。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 以下の点について、その達成度により評価します。

- ①ヨーロッパにおける自然環境と人の暮らしの関係を理解している。
- ②食との関わりから、ヨーロッパの社会の変化を理解している。
- ③食との関わりから、世界におけるヨーロッパ社会の特徴を理解している。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

ヨーロッパの国名と地名について、地図帳を利用して把握しておいてください。

〔テキスト〕

『食で読み解くヨーロッパ—地理研究の現場から—』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000円+税、ISBN978-4-254-16360-5

〔参考書〕

特になし

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

リアクションペーパーやメールで受け付けます。初回授業でも周知します。

〔特記事項〕

科目名		外国の自然と社会B					
教員名		木戸口 智明					
科目No.	120810710	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 オンライン (前期)
〔テーマ・概要〕 本講義は、地誌学の観点からアジアの空間構造を学習します。アジアは世界最大の人口を抱えるとともに、工業化の進展によって急速に経済成長が進む地域です。本講義は、アジアにおける経済社会の変化を辿りながら、世界経済におけるアジアの役割、アジア内部の空間構造や地域間関係、アジア各国のもつ地域的な特徴について理解することを目的とします。前半部は第二次世界大戦前後までのアジア経済社会の変化を概観し、後半部はアジアをいくつかの国や地域に分けて地域的な特徴を紐解いていきます。							
〔到達目標〕 DP 2 【教養の修得】(広い視野での思考・判断)、および DP 5 【多様な人々との協働】(コミュニケーション+協調性+チームワーク) を実現するため、以下の2 点を到達目標とします。 ①アジアにおける経済社会の変化を理解できる。 ②アジア諸国の自然環境の違いや産業構造の特徴について説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修 (予習・復習等)		準備学修 の目安 (分)	
第 1 回	イントロダクション			シラバスの確認		60	
第 2 回	アジアの自然環境と宗教			前回の復習、疑問点の整理		60	
第 3 回	西欧列強によるアジア支配			前回の復習、疑問点の整理		60	
第 4 回	近代日本のアジア進出			前回の復習、疑問点の整理		60	
第 5 回	アジア諸国の独立			前回の復習、疑問点の整理		60	
第 6 回	中国 (1)：計画経済から市場経済への転換			前回の復習、疑問点の整理		60	
第 7 回	中国 (2)：国家資本主義とその矛盾			前回の復習、疑問点の整理		60	
第 8 回	台湾：受託製造の高度化			前回の復習、疑問点の整理		60	
第 9 回	韓国：経済発展の軌跡			前回の復習、疑問点の整理		60	
第 1 0 回	東南アジア：工業化と都市化			前回の復習、疑問点の整理		60	
第 1 1 回	オセアニア：資源開発と大規模農業			前回の復習、疑問点の整理		60	
第 1 2 回	アジアのなかの日本 (1)：フルセット型産業構造の再編			前回の復習、疑問点の整理		60	
第 1 3 回	アジアのなかの日本 (2)：日本企業のアジア進出			前回の復習、疑問点の整理		60	
第 1 4 回	まとめ：世界経済におけるアジアの役割			前回の復習、疑問点の整理		60	
〔授業の方法〕 講義形式で進めます。講義は担当教員が配布するスライド資料をもとに進めます。毎回の講義でリアクションペーパーを配布するので、講義の感想や疑問点などを記載して講義終了後に提出してください。							
〔成績評価の方法〕 平常点 (30%)、期末試験 (70%) にもとづいて評価します。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39.

以下の 2 点が評価基準となります。

- ①アジアにおける経済社会の変化を理解できているか。
- ②アジア諸国の自然環境の違いや産業構造の特徴について説明できているか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし

〔テキスト〕
特になし

〔参考書〕
いずれの参考書も「購入の必要なし」ですが、新書については比較的安価で手に取りやすいため手元においておくことを推奨します。
上野和彦編（2011 年）：『世界地誌シリーズ 2 中国』朝倉書店。ISBN-13：9784254168563
菊地俊夫・小田宏信編（2014 年）：『世界地誌シリーズ 7 東南アジア・オセアニア』朝倉書店。ISBN-13：9784254169270
岩崎育夫（2019 年）：『アジア近現代史』中公新書。ISBN-13：9784121025388
後藤健太（201

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		地域づくり論					
教員名		小室 謙					
科目No.	120810810	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 観光産業は、人口減少や産業の空洞化が進行して久しい現代の日本において、外貨を獲得し、地域の交流人口を増やす有望な産業として位置づけられています。その一方で、昨今の国内外の観光地をめぐる観光振興（オーバーツーリズムなど）や観光危機（疫病や経済危機など）の発生、環境保全と地域振興の両立など、持続可能でレジリエントな観光地づくりに向けて多くの課題を抱えています。こうした中、本授業では観光地政策の沿革を頭に入れたうえで、主に地方圏観光地におけるケーススタディを通じて、実際の観光地が持続可能な地域経済社会の実現に向けてどのような地域づくりを実践しているのかを学習します。あわせて、受講者のみなさんには事例地域を決めていただき、各地域における観光地づくりの実践例を調査して報告していただく予定です。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）および DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下を到達目標とします。 (1) 日本の観光に関連した地域政策の沿革や昨今の状況について、概要を理解できる。 (2) 各地域に固有の課題と固有の資源に着目して持続可能な地域づくりを構想する視点を獲得できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			シラバスを確認する		60	
第 2 回	観光政策の変遷			前回の復習		60	
第 3 回	観光地課題を受講者間で議論する（グループワーク）			前回の復習		60	
第 4 回	山岳観光地における地域づくり（国内外のケーススタディ）			前回の復習		60	
第 5 回	離島観光地における地域づくり 1（国内外のケーススタディ）			前回の復習		60	
第 6 回	離島観光地における地域づくり 2（豊島事件による教訓から考える）			前回の復習		60	
第 7 回	中間まとめ（世界の国や地域を俯瞰して考える）			前回の復習		60	
第 8 回	最終発表に向けたテーマ設定と評価指標の策定			前回の復習		60	
第 9 回	現地調査によるデータ収集			収集データの整理		90	
第 1 0 回	収集データの整理と指標にもとづく評価			収集データの整理		90	
第 1 1 回	次回発表に関する中間報告			前回の復習/事例紹介の準備		90	
第 1 2 回	最終発表会(1)			前回の復習/事例紹介の準備		60	
第 1 3 回	最終発表会(2)			前回の復習/事例紹介の準備		60	
第 1 4 回	まとめ（発表会のふりかえり）			自身/他者の発表に対するふりかえり		60	
〔授業の方法〕 講義および演習の形式を併用します。小課題を課す場合もあります。							
〔成績評価の方法〕 平常点評価 100%（授業内の発言や課題、グループワークの参加、発表演習）							

〔成績評価の基準〕 上記の評価法で、成績評価の基準は、成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 先修科目：「日本の国土と社会」を履修済み、もしくは同時履修することが望ましい。
〔テキスト〕 必要に応じて、授業内で紹介します。
〔参考書〕 必要に応じて、授業内で紹介します。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		近現代のアジア A<1>					
教員名		小武海 櫻子					
科目No.	120820210	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 19 世紀から 20 世紀にわたって、日本・中国・朝鮮・琉球・ベトナムといった東アジア諸国は既存の伝統統治システムから近代国際秩序への転換を迫られ、欧米諸国の影響のもと近代国家を目指した。東アジアの「近代化」の歴史は、現代社会の諸問題とどのように接続されているだろうか。本講義では、その基層的な歴史背景を理解するため、下記のテキストを用いて、伝統中国の王朝体制から近代の国家統一までを概観しつつ、日本と中国を中心とする帝国主義による国家像の再編や東南アジアの国家統合といった東アジアの近代ナショナリズムの形成について学ぶ。							
〔到達目標〕 DP 2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。 ① 東アジアの伝統から近代へ転換する歴史を概観し、基礎的な知識を身につける。 ② 日本と中国の関わりを近世・近代の国際情勢の変化から理解する。 ③ 東アジア社会を歴史の視点から多角的に捉えられるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	・授業ガイダンス： 授業の進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 近現代のアジアを学ぶ意義について			予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第 2 回	・中国の歴史地理的な把握（1）： 中国や東アジアの世界の伝統的な特質を自然地理・文化的視点から概観する。			予習：テキスト①1, 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 3 回	・中国の歴史地理的な把握（2）： 長江と黄河という二大河川を中心とする陸の世界について学ぶ。			予習：テキスト①第 1 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 4 回	・中国南北の環境とモノの流通： 南北で異なる中国の世界をモノの流通から学ぶ。			予習：テキスト①第 1 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 5 回	・朝貢と外交： 歴史的な中国の朝貢体制と東アジアの海域世界について学ぶ。			予習：テキスト①第 23 章・56 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 6 回	・東南アジアと革命運動： 英領マラヤの成立と華人の繋がりを学ぶ。			予習：テキスト①39 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 7 回	・中国社会の公共秩序の特質： 中国の農村や都市の歴史的な特質について学ぶ。			予習：テキスト①第 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 8 回	・近代の出会い： 太平天国の乱を通じた中国伝統社会と近代との相克を学ぶ。			予習：テキスト①第 32 章、33 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 9 回	・中国社会と女性： 現代中国と伝統中国における女性のあり方を歴史的に概観する。			予習：テキスト①第 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 0 回	・近代中国の救国と国家建設： 清末の国内改革から民国初期に至る国家建設の流れを学ぶ。			予習：テキスト①第 34、38、39 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 1 回	・日中戦争と日本の侵略全面化： 1930 年代の日本の華北侵出と中国や諸外国の政治動向を学ぶ。			予習：テキスト①第 44、59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 2 回	・ことばと近代： 近代東アジアの国家建設と国語の成立について学ぶ			予習：テキスト①59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 3 回	・近代日本と台湾統治： 20 世紀前半の台湾と日本の歴史について学ぶ			予習：テキスト①第 59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 4 回	・授業の内容確認とまとめ			予習：講義で学んだテキストの内容を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
〔授業の方法〕 ・授業は講義形式で行う。 ・毎回出される課題を提出してもらう。 ・授業の進度によって内容が変更する場合もある。							
〔成績評価の方法〕 2 回の課題レポートの提出（60％）、各回の授業後に提出するコメント（理解度の確認）の提出と授業態度（40％）による総合評価とする。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

①東アジア史における基本的な理解ができているか。

②近世・近代における東アジアの国際情勢を把握し、近現代日中関係との繋がりや現代的意味を論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

授業内容をより深く理解するため、中国史について大まかに知っておくことが望ましい。

〔テキスト〕

購入の必要なし

〔参考書〕

①並木頼寿、杉山文彦等編著『中国の歴史を知るための 60 章』（明石書店、2011 年）

② 並木頼寿著『東アジアに「近代」を問う』（研文出版、2010 年）

③ 吉澤誠一郎『清朝と近代世界 19 世紀（シリーズ中国近現代史①）』（岩波書店、2010 年）

④ 川島真『近代国家への模索 1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010 年）

⑤ 石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		近現代のアジア A<2>					
教員名		小武海　　櫻子					
科目No.	120820220	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 19 世紀から 20 世紀にわたって、日本・中国・朝鮮・琉球・ベトナムといった東アジア諸国は既存の伝統統治システムから近代国際秩序への転換を迫られ、欧米諸国の影響のもと近代国家を目指した。東アジアの「近代化」の歴史は、現代社会の諸問題とどのように接続されているだろうか。本講義では、その基層的な歴史背景を理解するため、下記のテキストを用いて、伝統中国の王朝体制から近代の国家統一までを概観しつつ、日本と中国を中心とする帝国主義による国家像の再編や東南アジアの国家統合といった東アジアの近代ナショナリズムの形成について学ぶ。							
〔到達目標〕 DP 2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。 ①　　東アジアの伝統から近代へ転換する歴史を概観し、基礎的な知識を身につける。 ②　　日本と中国の関わりを近世・近代の国際情勢の変化から理解する。 ③　　東アジア社会を歴史の視点から多角的に捉えられるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	・授業ガイダンス： 授業の進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 近現代のアジアを学ぶ意義について			予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第 2 回	・中国の歴史地理的な把握（1）： 中国や東アジアの世界の伝統的な特質を自然地理・文化的視点から概観する。			予習：テキスト①1, 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 3 回	・中国の歴史地理的な把握（2）： 長江と黄河という二大河川を中心とする陸の世界について学ぶ。			予習：テキスト①第 1 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 4 回	・中国南北の環境とモノの流通： 南北で異なる中国の世界をモノの流通から学ぶ。			予習：テキスト①第 1 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 5 回	・朝貢と外交： 歴史的な中国の朝貢体制と東アジアの海域世界について学ぶ。			予習：テキスト①第 23 章・56 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 6 回	・東南アジアと革命運動： 英領マラヤの成立と華人の繋がりを学ぶ。			予習：テキスト①39 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 7 回	・中国社会の公共秩序の特質： 中国の農村や都市の歴史的な特質について学ぶ。			予習：テキスト①第 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 8 回	・近代の出会い： 太平天国の乱を通じた中国伝統社会と近代との相克を学ぶ。			予習：テキスト①第 32 章、33 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 9 回	・中国社会と女性： 現代中国と伝統中国における女性のあり方を歴史的に概観する。			予習：テキスト①第 2 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 0 回	・近代中国の救国と国家建設： 清末の国内改革から民国初期に至る国家建設の流れを学ぶ。			予習：テキスト①第 34、38、39 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 1 回	・日中戦争と日本の侵略全面化： 1930 年代の日本の華北侵出と中国や諸外国の政治動向を学ぶ。			予習：テキスト①第 44、59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 2 回	・ことばと近代： 近代東アジアの国家建設と国語の成立について学ぶ			予習：テキスト①59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 3 回	・近代日本と台湾統治： 20 世紀前半の台湾と日本の歴史について学ぶ			予習：テキスト①第 59 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 4 回	・授業の内容確認とまとめ			予習：講義で学んだテキストの内容を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
〔授業の方法〕 ・授業は講義形式で行う。 ・毎回出される課題を提出してもらう。 ・授業の進度によって内容が変更する場合もある。							
〔成績評価の方法〕 2 回の課題レポートの提出（60%）、各回の授業後に提出するコメント（理解度の確認）の提出と授業態度（40%）による総合評価とする。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

①東アジア史における基本的な理解ができているか。

②近世・近代における東アジアの国際情勢を把握し、近現代日中関係との繋がりや現代的意味を論理的に説明できるか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

授業内容をより深く理解するため、中国史について大まかに知っておくことが望ましい。

〔テキスト〕

購入の必要なし

〔参考書〕

①並木頼寿、杉山文彦等編著『中国の歴史を知るための 60 章』（明石書店、2011 年）

② 並木頼寿著『東アジアに「近代」を問う』（研文出版、2010 年）

③ 吉澤誠一郎『清朝と近代世界 19 世紀（シリーズ中国近現代史①）』（岩波書店、2010 年）

④ 川島真『近代国家への模索 1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010 年）

⑤ 石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010 年）

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

ポータルサイトで周知する。

〔特記事項〕

科目名		近現代のアジア B <1>					
教員名		小武海　櫻子					
科目No.	120820310	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、日本と関係の深い国の一つである中国の政治・社会・文化的特質を近現代的な歴史文脈から理解する。前期に引き続き下記のテキストを用いて、20 世紀初頭から 21 世紀現在に至る中国の接続と変容を概観しながら、近現代東アジア地域の歴史的な国際関係を学ぶ。							
〔到達目標〕 DP 2（教養の修得）を実現するため、次の 3 点を到達目標とする。 ①近現代東アジアの歴史を中国を中心に把握し、基礎的な知識を身につける。 ②近代日本と中国の関わりを 20 世紀東アジアの国際情勢の変化から理解する。 ③東アジア社会を歴史の視点から多角的に捉えられるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	・授業ガイダンス： 前期の復習			予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第 2 回	・近現代中国の「民主」と革命： 中国の国家建設と「民主」理解について学ぶ。			予習：テキスト①第 39、42 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 3 回	・20 世紀初頭の革命と議会政治： 民国初期中国の歴史を学ぶ。			予習：テキスト①第 49 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 4 回	・ヨーロッパの社会主義： 19 世紀西欧の社会主義形成の歴史的背景を学ぶ。			予習：テキスト①第 43 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 5 回	・近代の社会主義と東アジア： 社会主義の歴史的形成と東アジアでの発展の歴史を学ぶ。			予習：テキスト①第 43 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 6 回	・日中戦争までの道のり（1）： 1930 年代ナショナリズムの勃興と初期中国共産党の発展について学ぶ。			予習：テキスト①第 43、44 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 7 回	・日中戦争までの道のり（2） 1940 年代の中国社会と歴史的な政治動向を学ぶ。			予習：テキスト①第 44、45 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 8 回	・日中戦争と太平洋戦争： 1940 年代の中国を中心とする戦時下の社会を学ぶ。			予習：テキスト①44、45 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 9 回	・終戦後の新中国成立： 終戦後の中国国内外の政治の流れを学ぶ。			予習：テキスト①第 46 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 0 回	・社会主義への挑戦： 毛沢東の目指した実践と 1960 年代までの中国を取り巻く国際環境について学ぶ。			予習：テキスト①第 47、48 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 1 回	・冷戦下の東アジアと国民国家の国籍（1）： 終戦後東アジアにおける国家再編と国籍の問題について学ぶ。			予習：テキスト①第 50 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 2 回	・冷戦下の東アジアと国民国家の国籍（2）： 中華民国を中心とした華人社会と東アジア諸地域との関係を学ぶ。			予習：テキスト①第 50 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 3 回	・東アジアの政治運動と国家： 東アジアに広まる民衆による政治運動とその背景を学ぶ。			予習：テキスト①第 51 章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第 1 4 回	・授業の内容確認とまとめ			予習：講義で学んだテキストの内容を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
〔授業の方法〕 ・授業は講義形式で行う。 ・毎回出される課題を提出してもらう。 ・授業の進度によって内容が変更する場合もある。							
〔成績評価の方法〕 2 回の課題レポートの提出（60%）、各回の授業後に提出するコメント（理解度の確認）の提出と授業態度（40%）による総合評価とする。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①近現代アジア史における基本的な理解ができているか。 ②20 世紀東アジアの国際情勢を把握し、近現代中国の国家建設と現代的意味を論理的に説明できるか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 授業内容をより深く理解するため、20 世紀の世界史について大まかに知っておくことが望ましい。
〔テキスト〕 購入の必要なし
〔参考書〕 ①並木頼寿、杉山文彦等編著『中国の歴史を知るための 60 章』（明石書店、2011 年） ②高原明生等『開発主義の時代へ 1972-2014（シリーズ中国近現代史⑤）』（岩波書店、2014 年） ③川島真『近代国家への模索 1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010 年） ④石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010 年）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		近現代のアジアB<2>					
教員名		小武海　櫻子					
科目No.	120820320	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、日本と関係の深い国の一つである中国の政治・社会・文化的特質を近現代的な歴史文脈から理解する。前期に引き続き下記のテキストを用いて、20世紀初頭から21世紀現在に至る中国の接続と変容を概観しながら、近現代東アジア地域の歴史的な国際関係を学ぶ。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①近現代東アジアの歴史を中国を中心に把握し、基礎的な知識を身につける。 ②近代日本と中国の関わりを20世紀東アジアの国際情勢の変化から理解する。 ③東アジア社会を歴史の視点から多角的に捉えられるようにする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	・授業ガイダンス： 前期の復習			予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 復習：授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する。		60	
第2回	・近現代中国の「民主」と革命： 中国の国家建設と「民主」理解について学ぶ。			予習：テキスト①第39、42章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第3回	・20世紀初頭の革命と議会政治： 民国初期中国の歴史を学ぶ。			予習：テキスト①第49章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第4回	・ヨーロッパの社会主義： 19世紀西欧の社会主義形成の歴史的背景を学ぶ。			予習：テキスト①第43章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第5回	・近代の社会主義と東アジア： 社会主義の歴史的形成と東アジアでの発展の歴史を学ぶ。			予習：テキスト①第43章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第6回	・日中戦争までの道のり（1）： 1930年代ナショナリズムの勃興と初期中国共産党の発展について学ぶ。			予習：テキスト①第43、44章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第7回	・日中戦争までの道のり（2） 1940年代の中国社会と歴史的な政治動向を学ぶ。			予習：テキスト①第44、45章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第8回	・日中戦争と太平洋戦争： 1940年代の中国を中心とする戦時下の社会を学ぶ。			予習：テキスト①44、45章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第9回	・終戦後の新中国成立： 終戦後の中国国内外の政治の流れを学ぶ。			予習：テキスト①第46章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第10回	・社会主義への挑戦： 毛沢東の目指した実践と1960年代までの中国を取り巻く国際環境について学ぶ。			予習：テキスト①第47、48章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第11回	・冷戦下の東アジアと国民国家の国籍（1）： 終戦後東アジアにおける国家再編と国籍の問題について学ぶ。			予習：テキスト①第50章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第12回	・冷戦下の東アジアと国民国家の国籍（2）： 中華民国を中心とした華人社会と東アジア諸地域との関係を学ぶ。			予習：テキスト①第50章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第13回	・東アジアの政治運動と国家： 東アジアに広まる民衆による政治運動とその背景を学ぶ。			予習：テキスト①第51章を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
第14回	・授業の内容確認とまとめ			予習：講義で学んだテキストの内容を熟読する。 復習：学んだ内容を理解しキーワードを整理しておく。		60	
〔授業の方法〕 ・授業は講義形式で行う。 ・毎回出される課題を提出してもらう。 ・授業の進度によって内容が変更する場合もある。							
〔成績評価の方法〕 2回の課題レポートの提出（60%）、各回の授業後に提出するコメント（理解度の確認）の提出と授業態度（40%）による総合評価とする。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①近現代アジア史における基本的な理解ができているか。 ②20 世紀東アジアの国際情勢を把握し、近現代中国の国家建設と現代的意味を論理的に説明できるか。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 授業内容をより深く理解するため、20 世紀の世界史について大まかに知っておくことが望ましい。
〔テキスト〕 購入の必要なし
〔参考書〕 ①並木頼寿、杉山文彦等編著『中国の歴史を知るための 60 章』（明石書店、2011 年） ②高原明生等『開発主義の時代へ 1972-2014（シリーズ中国近現代史⑤）』（岩波書店、2014 年） ③川島真『近代国家への模索 1894-1925（シリーズ中国近現代史②）』（岩波書店、2010 年） ④石川禎浩『革命とナショナリズム 1925-1945（シリーズ中国近現代史③）』（岩波書店、2010 年）
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。
〔特記事項〕

科目名		近現代の欧米A<1>					
教員名		佐伯 哲朗					
科目No.	120820410	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。前期の授業では、18世紀末のアメリカとフランスの革命から19世紀後半の帝国主義時代までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどる。このなかで、現代世界の諸問題について歴史的背景を含めて理解することを目指す。							
〔到達目標〕 欧米近代史についての基礎的な知識を習得する。ある出来事について、歴史的な展開と世界史的な関連の両面を知ることによって、歴史的なものの見方を養う。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第1回	授業の概要、歴史とは何か			配布プリントを読む。第1回については授業後の復習となる。		60	
第2回	イギリス領北米13植民地			野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、3-34頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第3回	アメリカ合衆国の独立			野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、35-45頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第4回	フランス史の基礎知識、1789年の革命			遅塚忠躬『フランス革命』（岩波書店）、40-86頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第5回	フランス革命の歴史過程、山岳派の台頭と没落			遅塚忠躬『フランス革命』（岩波書店）、87-128頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第6回	フランス革命の意義			遅塚忠躬『フランス革命』（岩波書店）、128-190頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第7回	1848年革命、ドイツ統一			小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』（ミネルヴァ書房）、112-120頁、145-147頁、谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、76-160頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第8回	ジェントルマンの支配体制			谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、368-377頁、384-390頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第9回	産業資本主義の発展			谷川稔・北原敦・鈴木健夫・村岡健次『世界の歴史 22巻 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』（中央公論新社）、360-383頁、川北稔編『イギリス史』（山川出版社）、245-255頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第10回	ドイツ第二帝政の政治支配			大内宏一『ビスマルク』（山川出版社）、1-58頁、木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、204-232頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第11回	ビスマルクの国内政策			大内宏一『ビスマルク』（山川出版社）、58-87頁、木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、232-242頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第12回	ヴィルヘルム時代の政策と軍国主義			木村靖二編『ドイツ史』（山川出版社）、243-278頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第13回	フランス第三共和制の危機			谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史』（ミネルヴァ書房）、153-163頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第14回	ヨーロッパ諸国の植民地支配			小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』（ミネルヴァ書房）、191-199頁、木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店）、13-47頁、を熟読する。配布プリントを読む。		90	
〔授業の方法〕 プリントを配布するか、板書するか、どちらかの方法によって授業を進める。これまでの受講者の希望としては、圧倒的にプリント配布の希望が多いが、この点については、第1回目の授業の最初に受講者の希望を聞いて決定する。授業の最初と最後に、若干の時間をとって質問や要望を受け付ける。授業終了時に当日の授業内容について、考えたこと、感じたことなどを紙に書いて提出してもらう。							
〔成績評価の方法〕							

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

各回の授業終了時に、その回の授業内容について考えたこと、感じたことをまとめて課題として提出する。各回を10点満点とし、14回で140点満点とする。これを平常点とする。また、学期末に授業全体についてのレポートを提出してもらい、このレポートを60点満点とする。その2つの内容によって成績を評価する。評価の割合としては、学期末課題レポートが60点満点で30%、各回のリアクションペーパーの合計が140点満点で70%とする。ただし、受講者が100人を超えるような多数の場合、学期末のレポートに代えて筆記試験を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点を踏まえて評価する。課題レポート、リアクションペーパーの記述内容から、授業内容を理解したかどうかを判断する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

大航海時代以降の欧米の歴史について、高校世界史程度の基礎知識を備えていることを前提としている。

〔テキスト〕

使用しない。

〔参考書〕

次のような文献があるが、購入することを想定していない。有賀貞・大下尚一・志邨晃佑・平野孝編『アメリカ史』（1、2巻）山川出版社、1993～94年。村岡健次・木畑洋一編『イギリス史』（3巻）山川出版社、1991年。柴田三千雄・樺山紘一・福井憲彦編『フランス史』（2、3巻）山川出版社、1995～96年。成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『ドイツ史』（2、3巻）山川出版社、1996～97年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。また、質問用紙に質問を書いた場合には、次回の授業で回答する。

〔特記事項〕

科目名		近現代の欧米A<2>					
教員名		中島 幹人					
科目No.	120820420	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解するうえで重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらふことをめざす。本講義ではとくに、17 世紀以降の主権国家の成立から 18 世紀末のアメリカとフランスの革命、そして近代社会の基礎を形作ることとなったイギリス産業革命までの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。							
〔到達目標〕 本講義では、DP2-1（教養の習得）を実現するために、以下の目標を設定する。 ①現代市民社会を生み出した歴史的事件の推移の基本的な知識を獲得する ②その知識を元に自ら現代社会に問いかける姿勢を身につける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方・評価方法についての説明、および導入			あらかじめ、シラバスの内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと		60 分	
第 2 回	近世ヨーロッパの成立(1)：諸国家間体系の成立			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 3 回	近世ヨーロッパの成立(2)：「絶対主義」国家の内実			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 4 回	アメリカの独立革命(1)：「新大陸」への入植			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 5 回	アメリカの独立革命(2)：イギリス北米植民地の形成と発展			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 6 回	アメリカの独立革命(3)：独立運動の展開①（イギリス第一帝国の再編と反対運動）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 7 回	アメリカの独立革命(4)：独立革命の展開②（共和国の樹立に向けて）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 8 回	フランス革命(1)：18 世紀における旧体制の変質（経済的発展とブルジョワジーの伸展）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 9 回	フランス革命(2)：革命的状況の醸成（「世論」の興隆）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 0 回	フランス革命(3)：革命の展開①（名士会から 1789 年まで）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 1 回	フランス革命(4)：革命の展開②（1791 年憲法体制から統領政府まで）			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 2 回	フランス革命(5)：「文化革命」としてのフランス革命			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 3 回	産業資本主義の発展(1)：イギリスにおける産業革命の基礎と展開			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 4 回	産業資本主義の発展(2)：産業革命による社会の変化			「参考書」欄で示した書籍において該当する箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
〔授業の方法〕 「授業の計画」において掲げた各テーマごとにレジュメを配布・参照して講義を進める。授業に関連する画像（絵画・写真）・データ（グラフ・表）などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。その上で、授業最後に選択式のプチテストを行う。							
〔成績評価の方法〕 成績評価については、以下の通りである ①学期末の試験期間中に実施する「学期末試験」を 70％ ②平常点（授業への参加状況やプチテストの成績など）を 30％ （ただし、出席が三分の二に満たない場合は平常点の評価対象外となる）。 学期末試験の評価基準に関しては、設問の意図を理解し授業で学んだことを論理的にを説明できるかという点を重視する。詳細はガイダンス時（第 1 回授業）							

にて提示する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

〔テキスト〕

特定のテキストは使用しない。授業テーマに即したレジュメを配布し、それを参照しながら授業を進める。

〔参考書〕

杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』 ミネルヴァ書房、2015 年
 小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』 ミネルヴァ書房、2011 年
 谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』 ミネルヴァ書房、2006 年
 若尾祐司・井上茂子編著『近代ドイツの歴史-18 世紀から現代まで-』 ミネルヴァ書房、2005 年
 村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで-（改訂版）』 ミネルヴァ書房、2003 年
 大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史 近現』

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後やポータルサイトに質問や相談を受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		近現代の欧米B<1>					
教員名		佐伯 哲朗					
科目No.	120820510	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的知識を身につけ、専門科目学習の基礎を作ることを目指す。後期の授業では、20 世紀初頭の時期から 20 世紀中葉の第2次世界大戦の時代までの国際関係、ドイツを中心にして欧州諸国の歴史をたどる。この中で、現代世界の諸問題を歴史的背景を含めて理解できるようにする。							
〔到達目標〕 欧米の近現代史についての基礎的な知識を習得する。 ある出来事について歴史的な展開と世界史的な関連の両面について知ることによって、歴史的なものの見方を養う。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	第1次大戦の原因とバルカン問題			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、43-46 頁、柴宜弘編『バルカン史』（山川出版社）、196ー217 頁、225-241 を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第2回	世界戦争への道、ドイツの国内事情			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、46-54 頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史 26 巻 世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社）、30-39 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第3回	開戦時の国内体制			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、54-75 頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、167-169 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第4回	戦争への動員			若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、170-175 頁、木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店）、67-89 頁、および配布プリントを熟読する。		90	
第5回	大戦期ドイツの日常生活			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、86-89 頁、若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、175-177 頁、藤原辰史『カブラの冬』（人文書院）を熟読する。		90	
第6回	戦争の終結			若尾祐司・井上茂子編『近代ドイツの歴史』（ミネルヴァ書房）、177-187、193-195 頁、西崎文子『アメリカ外交とは何か』（岩波書店）、90-95 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第7回	戦争の帰結			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、170-205 頁、木村靖二『二つの世界大戦』（山川出版社）、28-41 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第8回	ロシア革命			和田春樹編『ロシア史』（山川出版社）、278-310 頁、和田春樹『レーニン』（山川出版社）を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第9回	ヴェルサイユ体制			木村靖二『第一次世界大戦』（筑摩書房）、205-217 頁、牧野雅彦『ヴェルサイユ条約』（中央公論新社）、3-258 頁、西崎文子『アメリカ外交とは何か』（岩波書店）、95-97 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第10回	1920 年代アメリカの明暗、世界恐慌			野村達朗編『アメリカ合衆国の歴史』（ミネルヴァ書房）、171-193 頁、木村靖二・柴宜弘・長沼秀世『世界の歴史 26 巻 世界大戦と現代文化の開幕』（中央公論社）、89-211、289-308 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第11回	ナチズムの思想と運動			石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、20-112 頁、山本秀行『ナチズムの時代』（山川出版社）、1-22 頁を熟読する。配布プリントを読む。		90	
第12回	ナチズム、一党独裁体制の成立			石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、114-181 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第13回	「民族共同体」の建設			山本秀行『ナチズムの時代』（山川出版社）、36-42 頁、石田勇治『ヒトラーとナチ・ドイツ』（講談社）、254-309 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
第14回	第2次世界大戦			久保文明『フランクリン・ローズヴェルト』（山川出版社）57-117 頁を熟読する。配布プリントを読む。		60	
〔授業の方法〕 上記の内容について講義する。プリントを配布するか、黒板に板書するか、いずれかの方式をとるが、最初の授業の時に受講者に希望を聞いて決定する。これまでの受講者の希望を聞く限りでは、プリント配布の希望が多い。授業の最初と最後に若干の時間をとって質問や要望を受け付ける。授業終了時に当日の授業内容について、考えたこと、感じたことなどを紙に書いて提出してもらう。							
〔成績評価の方法〕							

※最終版ではないため内容は変更となる場合があります。

各回の授業終了時に授業内容について考えたこと、感じたことを紙に書いて提出してもらう。各回を10点満点とし、14回で140点満点とする。これを平常点とする。また学期末に授業全体についてのレポートを提出してもらい、このレポートを60点満点とする。その2つの内容によって成績を評価する。評価の割合としては、学期末課題レポートが60点満点で30%、各回のリアクションペーパーの合計が140点満点で70%とする。ただし、受講者が100人を超えるような多数の場合、学期末のレポートに代えて筆記試験を行う。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点を踏まえて評価する。課題レポート、リアクションペーパーの記述内容から授業内容を理解したかどうかを判断する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

前期に「近現代の欧米A」を履修していることが望ましい。

〔テキスト〕

使用しない。

〔参考書〕

近現代の欧米A（前期の授業）の参考書の項目を参照のこと。そのほかには、木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波書店、2014年。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

授業終了後に教室で受け付ける。リアクション・ペーパーで提出された質問については、次回の授業の最初に回答する。

〔特記事項〕

科目名		近現代の欧米B＜2＞					
教員名		中島 幹人					
科目No.	120820520	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 経済的格差・宗教的対立などの問題を抱える現代世界を理解する上で重要な近現代のヨーロッパとアメリカの歴史に関する基本的素養を身につけ、専門科目学習の基礎をつくってもらいたいことをめざす。本講義ではとくに、フランス革命以降の 19 世紀ヨーロッパの歴史（前半のウィーン体制、後半における国民国家の形成）、独立戦争以降のアメリカの社会的変化、および 19 世紀末の帝国主義時代とそれに起因する世界大戦までのヨーロッパとアメリカの歴史をたどるなかで、現代世界の諸問題を歴史的に理解することを学ぶ。							
〔到達目標〕 本講義では、DP2-1（教養の習得）を実現するために、①現代に直接連なる 19 世紀から 20 世紀の歴史を確認することで、現代社会における諸問題を考察するための知識を獲得し、②その知識から自ら現代社会を相対化しうる視点を身につけることを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス：授業の目的・内容・進め方、および成績評価についての説明			あらかじめ、シラバスで授業内容を確認し、「参考書」欄で示した書籍に目を通しておくこと		60 分	
第 2 回	19 世紀前半のヨーロッパ社会(1)：ウィーン体制の成立			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 3 回	19 世紀前半のヨーロッパ社会(2)：ウィーン体制の動揺と崩壊			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 4 回	19 世紀前半のアメリカ社会(1)：「市場革命」の時代			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 5 回	19 世紀前半のアメリカ社会(2)：南部奴隷制度と南北戦争			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 6 回	19 世紀後半のヨーロッパ社会(1)：国民国家の建設（①イタリア）			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 7 回	19 世紀後半のヨーロッパ社会(2)：国民国家の建設（②ドイツ）			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 8 回	19 世紀後半のヨーロッパ社会(3)：「国民」創造の努力			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 9 回	19 世紀後半のアメリカ社会(1)：北部工業社会の進展と南部再建・西部開拓			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 0 回	19 世紀後半のアメリカ社会(2)：「金びか時代」			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 1 回	帝国主義と第一次世界大戦(1)：帝国主義①（ヨーロッパの拡大と国際経済）			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 2 回	帝国主義と第一次世界大戦(1)：帝国主義②（拡大の論理：「他者」認識と国民）			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 3 回	帝国主義と第一次世界大戦(3)：大戦の経過とその帰結			「参考書」欄で示した書籍における該当箇所（章・節）を確認しておくこと		60 分	
第 1 4 回	授業の総括			授業において使用したレジュメを確認・復習しておくこと		60 分	
〔授業の方法〕 「授業の計画」において掲げた各テーマごとにレジュメを予め配布し、それらを参照しながら講義を進める。また、授業に関連する画像（絵画・写真）・データ（グラフ・表）などを提示しながら、授業のまとめを行い、理解の深化をはかる。そして、授業の最後に選択式のブチテストを行う。							
〔成績評価の方法〕 成績評価については、以下の通りである ①学期末の試験期間中に実施する「学期末試験」（到達度確認テスト）を 70％ ②平常点（授業への参加状況やブチテストの成績など）を 30％ （ただし、出席が三分の二に満たない場合は平常点の評価対象外となる）。							

学期末試験（到達度確認テスト）の評価基準に関しては、設問の意図を理解し授業で学んだことを論理的に説明できるかという点を重視する。詳細はガイダンス時（第1回授業）にて提示する。

〔成績評価の基準〕
成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
欧米研究・西洋政治史・国際関係論など

〔テキスト〕
特定のテキストは使用しない。授業においてテーマに沿ったレジュメを配布する。

〔参考書〕
以下に挙げる文献は授業の理解を深めてもらうための参考書であり、購入の必要はない。
杉本淑彦・竹中幸史『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015年
大下尚一・服部春彦他編『西洋の歴史 近現代編（増補版）』ミネルヴァ書房、1998年
小山哲・上垣豊他編著『大学で学ぶ西洋史（近現代）』ミネルヴァ書房、2011年
村岡健次・川北稔編著『イギリス近代史-宗教改革から現代まで-（改訂版）』ミネルヴァ書房、2003年
谷川稔・渡辺和行編著『近代フランスの歴史-国民国家形成の彼方に-』

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後やポータルサイトに質問や相談を受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		中東地域史					
教員名		永島 育					
科目No.	120820610	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本講義では、中東を中心にひろがるイスラーム世界について、軍事史の視点を軸にしつつ、通史的な知識を得ることを目指す。現在、世界有数の紛争地帯を抱えるイスラーム世界であるが、そのために「イスラームは好戦的な宗教である」という偏見が存在している。こうしたイメージに晒されるイスラーム世界と共生するためには、イスラーム世界と軍事とのかかわりの実態を歴史的に把握し、偏見を払拭することが求められている。そこで、軍事、戦争がイスラーム世界の政治・社会・文化的展開に与えた変化について見ていくことで、今日のイスラーム世界が抱える紛争という課題の考察に機会を与えるような講義を行う。							
〔到達目標〕 DP2-1（教養の修得）を実現するため、以下のことを目標とします。 ・イスラーム成立から現代まで、イスラーム世界がたどった歴史をおおまかに把握する。 ・各時代・地域における軍事や戦争の特色、イスラーム世界の歴史に与えた影響を理解する。 ・歴史に根差した長期的視野を持つことで「好戦的なイスラーム」像を考え直す。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イスラームは「テロリストたちの宗教」か？			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 2 回	イスラームのはじまり			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 3 回	イスラームのひろがり			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 4 回	マムルークの騎兵たち			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 5 回	イスラームから見た十字軍			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 6 回	イスラームから見たモンゴル帝国			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 7 回	火薬帝国			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 8 回	軍事革命			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 9 回	国民の歩兵と砲兵たち			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 1 0 回	難民の時代			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 1 1 回	総力戦の時代			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 1 2 回	テロリズム			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 1 3 回	映像資料視聴			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
第 1 4 回	イスラームの軍事と将来、並びに到達度確認テスト			準備学修には、60 分程度を目安として、図書館で該当箇所の文献を読んだり、レジュメの内容をまとめたりすることが望ましい。		60 分	
〔授業の方法〕 ・配布するレジュメ、並びにパワーポイントをもとに講義を行います。 ・到達度確認テストは、講義の進度によってテスト期間中に行われる可能性があります。							
〔成績評価の方法〕 ・授業期間中の受講態度（3 0 %） ・到達度確認テスト（7 0 %）							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

- ・イスラーム世界の歴史について把握したか。
- ・軍事や戦争がイスラーム世界の歴史に与えた影響を理解したか。
- ・イスラームに対する中立的な見方を獲得したか。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
特になし。

〔テキスト〕
特になし。

〔参考書〕
講義中に参考文献を示します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
ポータルサイトで周知します。
また、授業終了後に教室で受け付けます。

〔特記事項〕

科目名		現代の国際政治					
教員名		昇 亜美子					
科目No.	120820710	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 本講義は、現代の国際政治を理解するための視角と基本的知識を養うことを目的とする。 前半は、「どうして戦争は起こるのだろうか」という問いについて、理論と歴史の両面から考えていく。特に、今日大きな問題となっているロシアのウクライナ侵攻や米中対立を重点的に取り上げながら議論を進める。国連があるのになぜ世界は平和にならないのだろうかといったことについても考える。 後半は、「グローバリゼーションの深化は国際関係をどのように変容させたのだろうか」という問いについて議論する。特に、2015 年に国連で採択された「持続可能な開発目標（SDG s）」について取り上げ、各目標について考えていく。							
〔到達目標〕 現代の国際政治について、「何故そのような事象が起きるのか」を分析する社会科学的な視角を養うこと（DP1-1, 1-2）。また、国際関係理論と歴史を学ぶことを通じて、今日の国際政治に関心を持ち、日々のニュースに敏感になり、国際社会とのかかわりの重要性を意識できるようになること（DP3-1, 3-2）。日本がどのような外交を展開すべきかについて主体的に考えることが出来るようになること（DP 6 -1, 6-2）。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第 1 回	イントロダクションー国際政治とはなにか 近代国際政治のコンセプトや国内政治との違いなどを学ぶ。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 2 回	戦争の原因ー国際システムレベル：リアリズムの概念			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 3 回	戦争の原因ー国際システムレベル：パワー概念、勢力均衡と同盟			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 4 回	戦争の原因ー二国間関係：経済的相互依存、交渉モデル			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 5 回	戦争の原因ー国家・社会レベル：民主的平和、国内紛争の転嫁			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 6 回	戦争の原因ー個人レベル：心理的モデル			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 7 回	第一次世界大戦とヴェルサイユ体制			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 8 回	集団安全保障の挫折と第二次世界大戦			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 9 回	冷戦 戦後から 1990 年代まで継続した冷戦構造について概観する。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 1 0 回	持続可能な開発目標（SDG s） 17 の目標を概観しながら、貧困の撲滅に対するアプローチの変遷や国連、日本政府の取り組みについて学ぶ。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 1 1 回	環境問題、食料安全保障、エネルギー安全保障			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 1 2 回	国境を越える人々 複雑になりつつある移民、難民の問題について取り上げる。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 1 3 回	ジェンダーをめぐる問題 テロや紛争による不安定な国家情勢は、女性や女兒に特に大きな影響を及ぼすことが多いといった問題について学ぶ。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
第 1 4 回	米中対立と国際秩序 米国の孤立主義的傾向、中国の台頭により起きている米中間の覇権争いが、国際秩序に与える影響について学ぶ。中国の人権問題に対する日本を含む先進国の対応についても考える。			国際政治に関するニュースに関心を持ち、授業での学習内容に照らして考える。		60	
〔授業の方法〕 講義方式で行なう。リアクションレポートを実施することがある。							
〔成績評価の方法〕							

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況） 10% レポート 90%
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 講義時に伝える。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 メールで受け付ける。詳細は講義時に伝える。
〔特記事項〕

科目名		グローバル経済論					
教員名		清水 政行					
科目No.	120820810	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 経済のグローバル化が進展する中で、経済的に発展している国とそうでない国が併存し、経済格差の拡大が大きな問題の一つとなっている。本講義では、「持続的な発展のためには何が必要か」をテーマに、“開発経済学 “的な考え方を紹介しながら、途上国の経済発展に関わる課題について学習する。また、経済学の基礎的なモデルや国別のデータを利用しながら、先進国との比較を通じて理解を深めていく。なお、授業の進捗によって内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）および DP3（課題の発見と解決）を実現するため、以下を到達目標とする。 1. 経済学的な視点から、持続的な発展のために重要なメカニズムを理解することができる。 2. 経済学的な観点から、持続的な発展のために必要なアプローチを考察することができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	開発途上国の経済発展 ：開発経済学的な考え方 〔テキスト：戸堂（2021）1 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 2 回	新古典派経済成長論 ：経済成長の仕組み① 〔テキスト：戸堂（2021）2 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 3 回	内生的経済成長論 ：経済成長の仕組み② 〔テキスト：戸堂（2021）3 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 4 回	貧困の罠 ：経済停滞の原因① 〔テキスト：戸堂（2021）4 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 5 回	中所得国の罠 ：経済停滞の原因② 〔テキスト：戸堂（2021）5 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 6 回	国際貿易・海外直接投資 ：経済成長の要因① 〔テキスト：戸堂（2021）6 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 7 回	産業集積 ：経済成長の要因② 〔テキスト：戸堂（2021）7 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 8 回	社会関係資本・社会ネットワーク ：経済成長の要因③ 〔テキスト：戸堂（2021）8 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 9 回	社会・経済制度 ：経済制度の役割① 〔テキスト：戸堂（2021）9 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 0 回	経済発展の政治経済学 ：経済制度の役割② 〔テキスト：戸堂（2021）10 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 1 回	農村開発 ：経済開発のあり方① 〔テキスト：戸堂（2021）11 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 2 回	農村金融 ：経済開発のあり方② 〔テキスト：戸堂（2021）12 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 3 回	経済協力 ：経済開発のあり方③ 〔テキスト：戸堂（2021）13 章〕			テキストおよび配付資料を読み、授業の内容を理解する。		60	
第 1 4 回	到達度確認テスト ：試験のフィードバック			テキストおよび配付資料に基づいて、授業の内容を確認する。		60	
〔授業の方法〕 対面（講義）形式で授業を実施し、授業資料は CoursePower を通じて配付する。毎回、授業の最後に CoursePower 上から授業のコメントを入力してもらう。また、授業内容の理解度を確認するために、小テスト（2～3 回程度）と学期末試験を行う。ただし、授業の進捗に応じて授業計画を変更する場合がある。							
〔成績評価の方法〕 小テスト（30%）、学期末試験（70%）。							
〔成績評価の基準〕							

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。なお、成績評価は、次の到達目標の達成度合いに応じて行うこととする。

1. 経済学的な視点から、持続的な発展のために重要なメカニズムを理解することができる。
2. 経済学的な観点から、持続的な発展のために必要なアプローチを考察することができる。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕
基礎的なマクロ経済学関連の科目を履修中もしくは履修済みである方が望ましい。

〔テキスト〕
戸堂康之『開発経済学入門 第 2 版』新世社 2021 年（2,600 円＋税）

〔参考書〕
特になし。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕
授業終了後に教室で受け付ける。

〔特記事項〕

科目名		国際文化交流論					
教員名		高島 まな					
科目No.	120820910	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 本科目では、近現代の日本の国際文化交流に焦点を当て、世界情勢と日本社会の動向の中で、国際文化交流というものがいかに認識され、実行されてきたかを探り、今後どうあるべきかを考える。 講義では、担当教員が、日本の代表的な国際文化交流機関である国際交流基金での実務経験に基づき、国際文化交流に関わる各種概念、歴史的展開などを紹介し、具体的事例を取り上げつつ、国際文化交流の目的、政策や外交・社会状況との関わり、実施形態などについて検証する。							
〔到達目標〕 DP1【専門分野の知能・技能】 国際文化交流に関する基礎的な知識を得ることができる。 DP2【教養の習得】 国際文化交流に関する歴史的背景、最新の動向などを把握することができる。 DP3【課題の発見と解決】 国際文化交流の特質を把握するとともに研究や議論の広がりを概観し、自らの議論を発展させることができる。 DP4【表現力、発信力】 国際文化交流に関する自らの考えを発信し、また行動するために必要な知見を得ることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	・オリエンテーション：授業の概要・目標・構成・参考書・評価方法等 ・「文化」とは何か、「国際文化交流」とは何か：国際、文化、交流、国際文化交流、国民国家、文化外交、文化協力、文化支援、国際協力、国際貢献、異文化理解、多文化社会、多文化共生、広報、宣伝、文化工作、プロパガンダ等			左記列記の項目や、その他該当する/関係すると思われる項目について考察しておく。（授業時に、具体的な復習項目や、次回に向けての予習内容を指示する場合もある。）		90-120	
第2回	・異文化との接触・受容（意図しない文化交流） 近代までの世界および日本のさまざまな事例：ヘレニズム文化、大航海時代、仏教伝来、遣隋使・遣唐使、キリシタン、漂流民 等			同上		90-120	
第3回	・日本の国際文化交流（1）幕末：ペリー来航、攘夷、安政の五カ国条約、パリ万博参加 等			同上		90-120	
第4回	・日本の国際文化交流（2）明治開国：欧化政策、「和魂洋才」、「富国強兵」、お雇い外国人、ウィーン万博参加、鹿鳴館、岩倉使節団 等			同上		90-120	
第5回	・日本の国際文化交流（3）大陸進出：義和団事件、義和団事件賠償金、外務省「対支文化事業局」設置、「対支文化事業」開始			同上		90-120	
第6回	・日本国際文化交流（4）戦間期の国際知的協力、日本の孤立化：国際連盟、知的協力国際委員会、満州事変、国際連盟脱退、「国際文化振興会」設立 等			同上		90-120	
第7回	・日本の国際文化交流会（5）戦争と文化工作：外務省「文化事業部」廃止、内閣情報局、大東亜省、南洋進出、日本語教育、南方特別留学生制度、一高特設高等科 等			同上		90-120	
第8回	・日本の国際文化交流（6）戦後の「文化立国」：ユネスコ設立、ガリオア・プログラム、ユネスコ加盟、国際連合加盟、フルブライト交流事業、国費外国人留学生制度等			同上		90-120	
第9回	・日本の国際文化交流（7）高度経済成長と対日批判：ODA 開始、東京オリンピック、GNP 世界第2位、大阪万博 等 ・ニクソン・ショック、「国際交流基金」設立、外交青書「情報文化活動の大綱」 等 ・ODA 文化無償事業開始、福田ドクトリン、ASEAN 文化基金 等 ・大平総理所信表明演説「文化の時代、国際化の時代」、「地球の歩き方」創刊、ブラザ合意、バブル経済 等			同上		90-120	
第10回	・日本の国際文化交流（8）国際貢献、国際協力：竹下総理ロンドン・スピーチ「世界に貢献する日本」、外交青書「国際協力構想」 等 ・国際交流基金「文化協力プログラム」・「日本語国際センター」・「アセアン文化センター」・「日米センター」、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金 等 ・湾岸戦争、国連「平和維持活動」参加、国連開発計画「人間の安全保障」、ODA 最高額、橋本ドクトリン「多角的な文化協力」 等			同上		90-120	
第11回	・日本の国際文化交流（9）ソフト・パワーとパブリック・ディプロマシー：ジョセフ・ナイ「ソフト・パワー」、ダグラス・マグレイ「クール・ジャパン」、外務省「広報文化交流部」、ドラえもん「外務省アニメ大使」、「カワイイ大使」、国土交通省ほか「ビジット・ジャパン・キャンペーン」、経産省「クール・ジャパン室」、内閣府「日本ブランド戦略」・「日本文化産業戦略」等			同上		90-120	

第12回	・日本の国際文化交流（10）「戦略的対外発信」： K-POP 流行、孔子学院、世宗学堂、外務省「戦略的対外発信室」、内閣官房「国家安全保障戦略」、特定技能制度、特別高度人材制度、定住外国人 等 地球規模課題、普遍的価値の共有 等	同上	90-120
第13回	・日本の国際文化交流（11-1）事例研究1： 文学の翻訳：海外での村上春樹ブーム、村田沙耶香「コンビニ人間」、「源氏物語A・ウェイリー版」 等	同上	90-120
第14回	・日本の国際文化交流（11-2）事例研究2： 海外における日本研究 ・日本の国際文化交流（12）将来の展望： 日本文化の同時代性、海外における日本文化の日常化、日本の経験・失敗の共有、国際協働・共創 等	同上	90-120
〔授業の方法〕 (1) 授業は、講義、学生による発表、グループ・ディスカッションを組み合わせで行う。 (2) 授業ごとに、その授業で得た知見等に関するレスポンス・ペーパーの提出（ポータルサイトで提出、期限は授業翌日中）を課す。次回の授業の冒頭で、適宜フィード・バックや補足・解説等を行う。			
〔成績評価の方法〕 期末レポート：40% 平常点（レスポンス・ペーパーの提出）：40% 授業時の発表：20%			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。 上記「到達目標」の達成度により評価する。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 (1) 世界史および日本史を概観し、異文化接触・異文化交流という観点に立って、主な出来事やその時代背景を押さえておく。 (2) 現在の世界情勢、日本の社会情勢を押さえておく。 (3) 本シラバス下記「参考書」欄記載の書籍や、授業中に適宜提示するその他の書籍、ウェブサイト等を参考にする。 (4) 各学生にあらかじめ発表項目を割り振り、後日の授業中に発表することを課すので、担当項目を調べ、パワポやワード等の発表資料をまとめておく。			
〔テキスト〕 特になし			
〔参考書〕 『万国博覧会と人間の歴史』、佐野真由子編、思文閣出版、978-4784218196 『近代日本と国際文化交流』、柴崎厚士、有信堂、4-8420-5533-2 『ソフト・パワー 21世紀国際政治を制する見えざる力』、ジョゼフ・S・ナイ（山岡洋一訳）、日本経済新聞出版、9784532164751 『〈文化〉を捉え直す カルチュラル・セキュリティの発想』、渡辺靖、岩波書店、978-4-00-431573-5 『国際文化交流を实践する』、国際交流基金編、白水			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付ける。また、随時、メールでも受け付ける。			
〔特記事項〕 特になし			

科目名		異文化理解トピックス（イスラーム世界）					
教員名		堀内 正樹					
科目No.	120821060	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 イスラームは「宗教」であると理解されがちだが、すでに千数百年間、アフリカからユーラシアにわたって、人々が移動し混交することによって生まれた多民族・多文化が入り交じる広大な社会空間の「秩序維持ルール」として機能してきた。いわば旅に生きる人たちから成る世界である。本授業では、「旅人たちの社会システム」としてのイスラームのあり方を理解してもらう。そのためには近代になってから作られた西欧中心主義的な狭小な世界史像を放棄し、本来の世界史の流れとその特徴を理解する必要がある。そのうえで、歴史の主潮流を形作ってきたイスラーム世界の特徴と、そこから奇形的に派生した西欧近代世界の特徴を対比的に捉える。その認識を足場にして、私たちがすでに限界と凋落を目撃している西欧近代に代わり得る非境界的・脱国家的な本来の人間社会のあり方を、イスラームをモデルに探ってゆく。キーワードは「旅」と「想定外」ということになるだろう。							
〔到達目標〕 DP2-1【教養の修得】（広い視野での思考・判断）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 1. イスラームを過大評価も過小評価もしないバランスのとれた理解に到達する。 2. 欧米中心の報道や教育等によって形作られるイスラーム世界への偏見を自覚できるようになる。 3. 非境界的なイスラーム世界のあり方を理解し、説明できる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	（概要説明）：授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 （導入）イスラーム世界への私の旅(その1)			[予習]イスラーム世界の地理情報を地図上で確認しておく。		60	
第2回	（導入）イスラーム世界への私の旅(その2)			[予習・復習]授業に登場する地域の具体的なイメージを把握する。		90	
第3回	（導入）イスラーム世界への私の旅(その3)			[予習・復習]授業に登場する地域の具体的なイメージを把握する。		90	
第4回	旅人の世界としてのイスラーム世界 ・中東のさまざまな人々。 ・モノ、ヒト、情報が行き交うこと。 ・「旅する人々」がもたらす現象。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第5回	イスラームの基礎知識(1) ・五柱について学修する。 ・特に「喜捨」の重要性を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第6回	イスラームの基礎知識(2) ・六信について学修する。 ・特に「運命」とはなにかを理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第7回	イスラームの基礎知識(3) ・コーランとハディースの成り立ちと性格について学修する。 ・学問としてのイスラームの枠組みを理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第8回	世界史認識の組み替え ・欧米中心主義史観の偏りと限界を理解する。 ・世界史の主潮流を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第9回	西欧近代とは何だったのか ・ザクセン発の近代科学の核心として、数学基礎論を批判的に検討する。 ・境界的思考の特徴を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第10回	オリエンタリズム ・「オリエンタリズム」批判を理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第11回	パズール型社会システム ・多様な人々のつながり方のしくみを学修する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第12回	非境界型コミュニケーション ・境界に拘泥しないコミュニケーションのあり方を具体例に沿って理解する。			[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。		90	
第13回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテスト			[予習]到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。		120	
第14回	到達度確認テストに関する質疑応答 現代の課題 ・20世紀後半以降にイスラーム世界に生じた政治・社会体制のジレンマを理解する。			[予習・復習]この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、疑問点などを整理しておく		120	
〔授業の方法〕 本授業は講義科目である。必要な PDF ファイルなどを CoursePower の「授業資料」に順次アップするので、毎回事前にダウンロードして、目を通しておくこと。受講生数が多い場合、本授業は一方的な講義になるかもしれないので、CoursePower の掲示板などのフィードバック手段を活用して、積極的に質問・反論・感想・要望・コメントなどを寄せてほしい。受講生とのインタラクションを通じて、講義内容を柔軟に変更してゆくことも考えている。 なお到達度確認テストでは、授業全体の学修内容についての理解度を確認する。							

〔成績評価の方法〕 平常点で成績評価をおこなう。発言や質問・コメントなど授業への参加状況（５０％）、到達度確認テスト（５０％）などによる総合評価。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・イスラームの基礎知識を明確に説明できる。 ・「世界史」という考え方を理解し、説明できる。 ・境界型社会システムと非境界型社会システムの違いを明確に把握し、説明できる。
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特になし
〔参考書〕 （１）三木亘『悪としての世界史』（文春学藝ライブラリー）2016 年、文藝春秋。 （２）板垣雄三「〈超近代性(Super-modernity) 研究の歩みとその課題追求の現局面』『土着的近代研究』創刊号、2023 年、文理閣。 （３）ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体-ナショナリズムの起源と流行』（白石隆・白石さや訳）1987 年、リブレポート。 （４）エドワード・W・サイード『オリエンタリズム』（今沢紀子訳）1986 年、平凡社。 （５）堀内正樹「境界的思考から脱却するために-中東研
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトの『オフィスアワー』で周知します。また、授業終了後に教室で受け付けます。
〔特記事項〕

科目名		裁判と社会					
教員名		小棚木 公貴					
科目No.	120830110	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 日本の裁判制度や紛争解決方法に関する基礎知識を修得し、社会における裁判の役割を学ぶ。裁判制度の基礎・基本を学ぶことが主目的であるが、司法制度改革やコロナ禍以降の施策により、現在の裁判制度は日々変化を遂げていることから、その変化についてもできる限り取り上げる。							
〔到達目標〕 DP1（専門分野の知識・技能）、DP2（教養の修得）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・各回のテーマについて、裁判制度全体の中でどのような位置づけにあるのかその全体像を意識しつつ、裁判制度の基本的知識を修得し、広い視野で思考・判断を行い、それを説明できるようになる。 ・各回のテーマに、どのような論点があるかを理解した上で、その論点に関する諸見解を理解し、それを説明できるようになる。 ・本講義で得た知識に基づいて、社会の様々な問題を法的に分析し、その解決に向けて法を活用する力を身に付ける。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	ガイダンス・裁判制度の概要			【予習】 シラバスを読む。 【復習】 民事訴訟・刑事訴訟・行政訴訟の違いを理解する。		60	
第2回	裁判所制度			【予習】 教科書 61 頁～97 頁を読む。 【復習】 各裁判所の機能・役割を理解する。		60	
第3回	法律家の役割(1)			【予習】 教科書 101 頁～116 頁を読む。 【復習】 裁判官の役割について理解する。		60	
第4回	法律家の役割(2)			【予習】 教科書 117 頁～154 頁を読む。 【復習】 裁判官以外の法律家の役割について理解する。		60	
第5回	民事裁判（1）			【予習】 教科書 2 頁から 22 頁、155 頁～170 頁を読む。 【復習】 民事手続の概要、および紛争発生から訴えの提起までの流れについて理解する。		60	
第6回	民事裁判（2）			【予習】 教科書 170 頁～190 頁を読む。 【復習】 口頭弁論・証拠調べ・判決・上訴までの流れについて理解する。		60	
第7回	刑事裁判（1）			【予習】 教科書 22～45 頁、215 頁～243 頁を読む。 【復習】 刑事手続の概要、および捜査から公訴提起までの流れについて理解する。		60	
第8回	刑事裁判（2）			【予習】 教科書 244 頁～253 頁、278 頁～294 頁を読む。 【復習】 公判・判決・上訴までの流れと裁判員制度について理解する。		60	
第9回	憲法裁判			【予習】 教科書 45 頁～59 頁、253 頁～265 頁を読む。 【復習】 司法権の限界や違憲審査制について理解する。		60	
第10回	行政裁判			【予習】 教科書 195 頁～215 頁を読む。 【復習】 行政事件の種類や訴訟要件について理解する。		60	
第11回	人事訴訟・家事審判・民事執行・倒産処理			教科書外の内容になるため、別途資料を用意する。 【復習】 人事訴訟・家事審判・民事執行・倒産処理の概要について理解する。		60	
第12回	著作権紛争・労働紛争			教科書外の内容になるため、別途資料を用意する。 【復習】 著作権紛争・労働紛争の概要について理解する。		60	
第13回	司法制度改革の概要			【予習】 教科書 268 頁～278 頁、303 頁から 318 頁を読む。 【復習】 司法制度改革や ADR 制度について理解する。		60	

第 1 4 回	国際化と裁判	【予習】 教科書 294 頁～302 頁を読む。 【復習】 国際的な訴訟の取り扱いについて理解する。	60
〔授業の方法〕 【授業方法】 講義形式で行う。法学部ではない学生を受講者として想定しているため、受講者の進路・理解度に合わせて授業を行う予定である。そのため、進路状況によっては第 12 回・第 13 回の授業内容を省略する可能性がある。 【予習】 予習として各回で指定した範囲の教科書を読むこと。 【復習】 CoursePower のアンケート機能を用いて確認問題を出題するので、各講義受講後、解答すること（この解答状況を平常点として評価する）。			
〔成績評価の方法〕 平常点（各回の確認問題に対する回答状況）：20％ 期末テスト：80％			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。 なお、関連科目としては法学部で開講されている各科目のほか、成蹊教養カリキュラム中の「日本国憲法」「市民生活と法 A・B」などがある。			
〔テキスト〕 基本的には、市川正人＝酒巻匡＝山本和彦『現代の裁判〔第 8 版〕』（有斐閣、2022 年）に沿って授業を行う。			
〔参考書〕 部分的に、小島武司編『ブリッジブック裁判法〔第 2 版〕』（信山社、2010 年）に沿って授業を行うが、購入の必要はない。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。授業終了後に教室で受け付ける。			
〔特記事項〕			

科目名		地域福祉論					
教員名		姫野 宏輔					
科目No.	120830310	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 日常生活の中で生きづらさを感じたとき、「自分で何とかする（自助）」か「政府や地方自治体などに助けてもらう（公助）」の二択で対応しようとする人は多いと思います。しかし、自助による福祉は明確に限界があり、公助による福祉は私たちのニーズ（必要）と乖離していることが少なくありません。そこで本科目では、福祉学において主流化しつつある、私たちの生活に密着している地域社会を基盤として共助を進める、「地域福祉」の概念について基礎的な知識を学ぶとともに、皆さん一人ひとりの考える地域福祉のあり方を具体的に言語化することを練習していきます。 授業前半部は地域福祉の理論についての座学、後半部は実際に地域福祉に取り組んでいる事例の紹介を経て、最終的に受講生の皆さんには「自分が現在住んでいる地域における地域福祉のあり方」を独自に構想してもらい、レポートとして提出してもらう予定です。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 （１）現代社会において地域福祉が主流化している現象の思想的な背景と経緯について、基本的な知識を身に付けて理解することができる。 （２）自分の身近な例から地域福祉の実践手法を考え、他者に説明して理解を求めることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション——「福祉」と「地域」			授業中の配布資料を読み返し理解を深める。		30	
第2回	地域福祉の思想的背景			授業中の配布資料を読み返し、共同体主義について理解を深める。		60	
第3回	地域福祉の歴史			授業中の配布資料を読み返し、世界と日本の地域福祉の歴史について理解を深める。		60	
第4回	地域福祉の法制度			授業中の配布資料を読み返し、地域包括ケアについて理解を深める。		60	
第5回	地域福祉の対象			授業中の配布資料を読み返し、地域福祉の視点から取り組むことが有効な社会問題について理解を深める。		60	
第6回	地域福祉の推進主体			授業中の配布資料を読み返し、社会福祉協議会などのフォーマルな団体について理解を深める。		60	
第7回	地域福祉の方法			授業中の配布資料を読み返し、コミュニティオーガニゼーションについて理解を深める。		60	
第8回	具体例から学ぶ（１）——高齢者福祉			授業中の配布資料を読み返し、愛知県大府市の例について理解を深める。		60	
第9回	具体例から学ぶ（２）——社会的孤立			授業中の配布資料を読み返し、東京都三鷹市の例について理解を深める。		60	
第10回	具体例から学ぶ（３）——マイノリティ			授業中の配布資料を読み返し、群馬県大泉町の例について理解を深める。		60	
第11回	具体例から学ぶ（４）——空き家の増加			授業中の配布資料を読み返し、岡山県岡山市の例について理解を深める。		60	
第12回	具体例から学ぶ（５）——買い物弱者			授業中の配布資料を読み返し、徳島県の例について理解を深める。		60	
第13回	地域福祉の未来——住民主体のまちづくり			授業中の配布資料を読み返し、地域住民参加型の活動の重要性について理解を深める。		60	
第14回	授業の総括 ・授業の内容にもとづいて課題レポートを作成する。			これまでの授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕 本授業は講義形式で実施します。ガイダンスを除く講義回では毎回の授業終了時に、CoursePower からその授業に関するコメントを提出してもらいます。授業中に扱ったテーマを自分の身近な例に引き寄せて、自分なりに要点を説明できているかという点を重視します。							
〔成績評価の方法〕							

毎回の授業時に課されるコメント提出を平常点として 50%、最終回の第 14 回での課題レポートの評価の合計を課題得点 50%の配分で、総合的に評価する。これらの課題はすべて CoursePower から提出する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 地域福祉の理論とその実践手法について、自分自身の言葉で要点を説明することができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

『ストーリーで学ぶ地域福祉』、加山 弾・熊田博喜・中島 修・山本美香、2020、有斐閣ストゥディア（ISBN-10：4641150753） ※購入の必要なし

〔参考書〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

この授業は対面授業で実施しますので、授業終了後に教室で受け付けます。また、教員への問い合わせ連絡先は初回授業資料に掲載します。

〔特記事項〕

科目名	人権とジェンダー						
教員名	嶺崎 寛子						
科目No.	120830410	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 ジェンダー学に関する基礎的な知識から学び、社会をより良くするため広い視野から思考し、判断する力の修得を目指します。「ジェンダー」を正しく理解し、日本の状況を知り、社会で働くうえで必要な実践的なコミュニケーション・スキルを学びます。さらに、世界のジェンダー問題から複眼的な視点で社会を見る力を養い、実学として「使える」ジェンダー論を身につけます。							
〔到達目標〕 ジェンダーは学際的かつ実用的な学問であり、個の視座を身につけることで人生を豊かにすることを目指す。 具体的には、ディプロマポリシーの DP2-1（人文科学、社会科学、自然科学及びこれらにまたがる学際的な分野に関する基礎的な知識を修得し、広い視野で思考・判断を行うことができる。）を身につけることを目標とする。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクションとガイダンス、アンケート			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第2回	特権と学び落とし			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第3回	ジェンダーの定義1：歴史的展開と第三世界へのまなざし			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第4回	ジェンダーの定義2：性別二元論の再考			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第5回	広告に見る男性ジェンダー ＊ゲスト回			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第6回	デートDVを考える 1			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第7回	デートDVを考える 2 ＊ゲスト回			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第8回	性の多様性			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第9回	感情労働とケア・キティの議論から考える			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第10回	アサーティブ・コミュニケーション			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第11回	日本の司法とジェンダー：刑法から考える			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第12回	第三世界へのまなざしとジェンダー			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第13回	授業内確認テスト			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	
第14回	全体のまとめ			レジュメや資料を読み直し、講義ノートを整理して試験に備えること。 参考文献のうち、興味を持ったものを図書館等で探し、各自で読む習慣をつけることを推奨します。		40分	

〔授業の方法〕 コメントペーパーの内容は匿名処理ののち授業で紹介し、論点を共有します。共有拒否もできます。 質問や疑問は何らかの形で講義の中でフィードバックします。 授業はいわば「ライブ」なので、学生の要望に応じて臨機応変に進めます。シラバスは絶対ではありません（評価方法については厳密に運用します）。このテーマを上げてほしい、などの要望があればぜひ教えてください。 2回予定している外部講師をお迎えする回は、ゲスト講師の都合により、他の回と前後することがあります。 昨年度は LGBTQ+ に
〔成績評価の方法〕 授業内確認テスト（70％）、平常点（授業への参加状況・リアクションペーパーの内容と提出状況、30％）。 毎回リアクションペーパーを書いていただきます。 授業内確認テストは紙媒体であれば、授業資料やノート持ち込み可です。
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし。ジェンダーに関心のある学生を歓迎します。学修時間は目安です。関心がある方はぜひ、図書館を積極的に使い、関連文献に目を通すなど、積極的に学修を行ってください。そういう学生は必然的に、学修時間を超えて学ぶことになるでしょう。
〔テキスト〕 特になし。
〔参考書〕 理論書としては ・ 加藤秀一、1998年『性現象論』、勁草書房 ・ 加藤秀一、2006年『ジェンダー入門』、朝日新聞社 ・ ジュディス・バトラー1999年『ジェンダー・トラブル』青土社 ・ ミシェル・フーコー『性の歴史』1～4巻 ・ エヴァ・フェダー・キティ 2010年『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』、白澤社など。 授業内で適宜参考文献を提示します。自発的に参考文献を紐解き、知の森に冒険に出かける気概を持ってください。
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 授業終了後に教室で受け付けます。 メールアドレスは講義時にお知らせします。メールでの相談も受け付けます。
〔特記事項〕

科目名	こころの健康と臨床<1>						
教員名	石川 千春						
科目No.	120830510	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 近年、こころの健康問題はわが国においても社会的な課題となっている。多様性を増し、予測が難しい社会において、人々はどうにこころの健康を維持したり守ったり改善させたりするのだろうか。このような観点から人間を理解することは、自分自身のこころの健康を支え、周囲の人とよりよく関わり、学生生活や社会活動を行う上でも重要であろう。本講義では、こころの健康問題を理解するため、臨床心理学や精神医学で扱われる諸問題を取り上げ、代表的な理論や予防策・対応策を紹介する。また、担当教員の医学領域・教育領域での臨床心理士・公認心理師としての実務経験を踏まえ、認知行動療法を中心としたアプローチやライフサイクルに応じた課題等について講義を行う予定である。 ※授業の進捗および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 DP2（教養の修得）、DP3（課題の発見と解決）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、以下を到達目標とする。 （１）こころの健康問題に関する正しい知識を学ぶことを通じて自己の誤解や偏見に気づき、問題の本質を理解すること （２）こころの健康問題に関する多様な状態や対処法について説明できること （３）自他のこころの健康問題で困った際に、それを軽減するための実践について考察すること							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション ・授業の内容、進め方等について説明を受け、本講義の趣旨を理解する。 ・近年のこころの健康問題について概観を知る。			【予習】シラバスに目を通しておく。 【復習】授業で紹介した内容を振り返り、理解する。		【復習】60	
第2回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（１） ・こころの健康―不調の連続性、定義、諸基準等を知る。 ・こころの問題を理解するための代表的枠組みについて理解する。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第3回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（２） ・こころの問題を理解するための代表的枠組みについて理解する（続き）。 ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第4回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（３） ・認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ（続き）。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第5回	気分障害（１） ・うつ病について理解する。 ・日常的に体験する「気分の落ち込み」と「うつ病」の異同を知る。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第6回	気分障害（２） ・双極性障害について理解する。 ・気分障害における予防法・対処法を知る。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第7回	不安障害（１） ・社交不安症について理解する。 ・不安のメカニズムについて学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第8回	不安障害（２） ・パニック症について理解する。 ・不安に対するアプローチについて知る。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第9回	不安障害（３） ・強迫性障害について理解する。 ・強迫性障害に対するアプローチの実践例を知る。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第10回	心的外傷後ストレス障害（PTSD） ・PTSDについて理解する。 ・トラウマの体験に対する対処や支援について学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第11回	ストレスと心身症 ・ストレスが心身に及ぼす影響について理解する。 ・ストレスマネジメントのための実践的な方法を学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第12回	パーソナリティとパーソナリティ障害 ・パーソナリティとは何かについて理解する。 ・パーソナリティ障害とそのアセスメントや対処法について学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第13回	発達に関する障害の理解と支援 ・発達障害の概要について理解する。 ・支援の実践について事例から学ぶ。			【予習】参考資料・スライド等があれば、目を通しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返って理解を深め、説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	

第14回	ライフサイクルにおけるこころの健康問題 ・ライフサイクルの各段階におけるこころの健康と課題について理解する。 ・本講義のまとめ：自己と他者のこころの健康について考察する。	【予習】授業内容全体を復習し、質問があれば用意しておく。 【復習】本講義で学んだことを振り返り、こころの健康についての考えを深める。	【予習】30 【復習】30
〔授業の方法〕 ※受講人数によっては、以下の方法を多少変更する場合がある。 講義を中心に進めるが、小規模なワーク・ディスカッションを行う予定である。受講者は毎授業後にコメントシートを提出し、これが平常点に含まれる。加えて、小テストと期末レポートを課す。復習に力を入れ、学んだ内容の整理を行うこと。上で示した準備学修の時間は目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。また、出欠確認のために学生証を利用するので、必ず持参して授業に臨むこと。 各課題の目的は以下の通りである： (1) コメントシー			
〔成績評価の方法〕 ・参加状況・コメントシートの提出による平常点 (40%) ・小テスト (20%) ・期末レポート (40%)			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準 (学則第 38 条、39 条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.38, 39. 次の点に着目し、到達度によって評価する。 (1) こころの健康問題に関する正しい知識を得て、理解したことを伝達できること (2) こころの健康問題とその予防法や対応方法を関連づけて説明できること (3) 自分や他者のこころの健康を保つための姿勢			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目：心理学の基礎／自己理解の心理学／脳科学と心			
〔テキスト〕 ※ 講義のスライドや資料の配布は CoursePower を通して行う。 ※ 購入の必要なし ・『臨床心理学 (New Liberal Arts Selection)』(丹野義彦他, 2015) 有斐閣			
〔参考書〕 ※ 購入の必要なし ・『公認心理師をめざす人のための臨床心理学入門』(末木新, 2021) 大修館書店 ・『臨床心理学概論 (公認心理師スタンダードテキストシリーズ③)』(下山晴彦・佐藤隆夫・本郷一夫 (監修), 2020) ミネルヴァ書房			
〔質問・相談方法等 (オフィス・アワー)〕 ポータルサイトで周知します。 また、授業終了後に教室で受け付けます。			
〔特記事項〕 アクティブ・ラーニング			

科目名	こころの健康と臨床＜2＞						
教員名	林 潤一郎						
科目No.	120830610	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 近年、こころの健康問題は社会的に大きな話題となっている。ストレスをかかえやすい現代社会においては、こころの健康とその問題についての正しい知識と対策を知っておくことは、今後の学生生活や社会生活における自分自身を支える上で、また周囲の人と接する際に、有用なものとなるであろう。 本講義では、臨床心理学や精神医学で扱われる代表的なこころの健康問題を取り上げ、多様な理解の枠組みとその予防策・対応策を紹介する。特に、臨床心理学において発展を遂げている認知行動理論および認知行動療法を中心に、心の健康問題（主に精神障害）の予防や軽減および心の健康維持増進に有益だと思われる様々な研究成果や臨床的な知見を、担当教員のカウンセラーとしての実務経験も踏まえて紹介する予定である。 なお、授業の進捗および学生の関心や担当教員の判断によって、内容を一部変更する場合がある。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP3（課題の発見と解決）、DP5（多様な人々との協働）を実現するために、以下を達成目標とする。 （１）（自他の）こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。 （２）こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。 （３）こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパートリーを学ぶこと。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション - 授業の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 - こころの健康問題の概観を知る。			【復習】授業で紹介した内容を理解する。また、主要トピックやキーワードを振り返り、説明できるようにする。		【復習】60	
第2回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（１） - こころの健康―不調の連続性、定義、諸基準等を知る。 - こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第3回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（２） - こころの問題を理解するための代表的枠組みを知る（続き）。 - 認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第4回	こころの健康とその問題を理解するための様々な枠組み（３） 認知行動療法の概要を知り、体験を通して学ぶ（続き）。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第5回	気分障害（１） - 気分障害を理解する。 「日常的に経験する（抑うつ気分）」と「うつ病」の異同を知る。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第6回	気分障害（２） 気分障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第7回	気分障害（３） 気分障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ（続き）。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第8回	睡眠障害 - 睡眠の基本性質を知る。 - 睡眠障害を理解する。 - 睡眠障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第9回	不安障害（１） - パニック障害を理解する。 - パニック障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第10回	不安障害（２） - 社会不安障害（社交不安障害）を理解する。 - 社会不安障害（社交不安障害）で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第11回	不安障害（３） - 強迫性障害を理解する。 - 強迫性障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第12回	パーソナリティ障害 - パーソナリティ障害を理解する。 - パーソナリティ障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	
第13回	摂食障害 - 摂食障害を理解する。 - 摂食障害で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。			【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。		【予習】10 【復習】50	

第14回	統合失調症 ・統合失調症を理解する。 ・統合失調症で困った際に役立つ対処（改善）法および予防法を学ぶ。	【予習】該当資料をダウンロードし、プリントアウトした上で、一通り、目を通しておく。 【復習】授業で紹介した主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに説明できるようにする。	【予習】10 【復習】50
〔授業の方法〕 本講義は対面形式で実施し、授業は講義中心に進める。授業において毎回、レスポンスシートの提出を求める。期末テストを実施する。普段からプリントを使った復習に力を入れ、学んだ内容の整理に努めること。また、上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。また、出欠確認のために学生証を利用するので、必ず持参して授業に臨むこと。 なお、レスポンスシート、確認ミニテスト、期末レポートの狙いは以下のとおりである。 ・レスポンスシート：各授業に参加して、学			
〔成績評価の方法〕 授業への参加状況・確認ミニテスト・レスポンスシートの提出状況などの平常点（60％：内訳は出席およびレスポンスシート約30％、確認ミニテスト約30％）、期末テスト（40％）、により総合的に評価する。			
〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。 次の点に着目し、その到達度により評価する。 （1）（他の）こころの健康問題に対する正しい知識を得ること（で、誤解や誤った偏見を減らすこと）。 （2）こころの健康問題で困ることを減らすために必要な予防的知識を学ぶこと。 （3）こころの健康問題で困った際に、その症状を和らげたり、その問題から抜け出るために役立つような対処のレパトリーを学ぶこと。			
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 関連科目：心理学の基礎／自己理解の心理学／脳科学と心			
〔テキスト〕 特になし。なお、各回のレジュメは Course Power にアップロードされるので、各自でダウンロードをした上で、それを持参して授業に臨むこと。			
〔参考書〕 特になし。ただし、必要に応じて、授業の中で紹介する。			
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。また、授業終了後に教室で受け付ける。			
〔特記事項〕			

科目名		高齢者福祉論					
教員名		姫野 宏輔					
科目No.	120830710	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 本科目は、現代社会における「老い」と「福祉」について、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、それはなぜなのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるように試行錯誤を繰り返す他はありません。人類史を通じて見ても稀な超高齢化社会に突入している日本社会は、どのような社会デザインを描くべきでしょうか。 この授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて 2 回を 1 セットにして、（前半）重要なキーワードを学ぶ→（後半）実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。 後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。 今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、「老い」のもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の 2 点を到達目標とする。 （１）老いをもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身に付けて理解することができる。 （２）自分の身の回りで起こっている老いと社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分で考えることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	イントロダクション——「老い」とは何か			復習・授業中の配布資料を読み返し理解を深める。		30	
第 2 回	老いとディスアビリティ（１）			復習・授業中の配布資料を読み返し、ディスアビリティ概念について理解を深める。		60	
第 3 回	老いとディスアビリティ（２）			自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。		60	
第 4 回	老いと家族・血縁（１）			復習・授業中の配布資料を読み返し、家族・親族によって支えられてきた高齢者福祉の歴史について理解を深める。		60	
第 5 回	老いと家族・血縁（２）			自分の家族・親族が老いのもたらす社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。		60	
第 6 回	老いと人間関係（１）			復習・授業中の配布資料を読み返し、老いと社会的孤立の相関関係について理解を深める。		60	
第 7 回	老いと人間関係（２）			自分ならば、老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。		60	
第 8 回	老いと経済・年金（１）			復習・授業中の配布資料を読み返し、老いと経済活動の関係性について理解を深める。		60	
第 9 回	老いと経済・年金（２）			老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、自分ならばどのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。		60	
第 1 0 回	老いと世代間格差（１）			復習・授業中の配布資料を読み返し、少子化と労働力人口の減少について理解を深める。		60	
第 1 1 回	老いと世代間格差（２）			若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。		60	
第 1 2 回	老いと自己決定（１）			復習・授業中の配布資料を読み返し、ケイパビリティ・アプローチから自己決定の問題の要点を理解する。		60	
第 1 3 回	老いと自己決定（２）			「自己決定」を支援する福祉制度のありかたについて、自分なりに考えてみる。		60	
第 1 4 回	授業の総括			少子高齢化が進展する社会において、望ましい社会デザインを自分なりに考えてみる。		30	
〔授業の方法〕 授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は 2 回を 1 セットにして、（前半）重要なキーワードを学ぶ→（後半）実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1 セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントを提出してもらいます。絶対的に「正しい」解決策はありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認							

認します。

〔成績評価の方法〕

2 回の授業ごとに課される毎回のコメント（CoursePower から提出）を平常点として 50%、第 14 回授業時に課す課題レポート（これも CoursePower から提出）を到達度の確認として 50%の配分で総合的に評価する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔参考書〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

本講義は対面授業で実施するので、授業終了後に教室で受け付けます。また、講師への問い合わせ先は第 1 回授業の資料に記載します。

〔特記事項〕

科目名		福祉社会に生きる					
教員名		姫野 宏輔					
科目No.	120830810	単位数	2	配当年次	2 年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 本科目は、現代社会におけるさまざまな社会福祉政策について、武川正吾『福祉社会——包摂の社会政策』（有斐閣）をテキストに用いて学んでいきます。少子高齢化の進展は、社会のメンバーの中に、ケアや支援を必要とする人の増加をもたらしますが、社会福祉政策の対象は高齢者に限りません。どのような人たちに支援が必要なのか、なぜ必要なのか、「そもそも」論に立ち戻って考えることをこの授業では重視します。そこで各回の授業計画に掲載しているような「問い」を設定し、これらの問いに対して、社会学（特に福祉社会学）的な観点から考える視点・思考方法を紹介します。受講者には福祉社会を「自分とは縁遠いもの」として考えるのではなく、網の目のように設計された現在の福祉社会の中に自分を位置づけ、今後どのような社会像を描けばよいか、自分自身で考えてもらうことを重視します。							
〔到達目標〕 DP2（教養の習得）、DP4（表現力、発信力）、DP5（多様な人々との協働）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 （1）現代の福祉社会の設計とその思想的な背景について、基本的な知識を身に付けて理解することができる。 （2）現代の福祉社会の抱える問題について理解し、自分の言葉でそれを説明し、将来の方向性について考えることができる。							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	イントロダクション——「福祉」とは何か			授業中の配布資料を読み返し理解を深める。		30	
第2回	排除と包摂（1）——社会の中のマイノリティは誰か			授業中の配布資料を読み返し、排除と包摂の概念について理解を深める。		60	
第3回	排除と包摂（2）——ディスアビリティを作り出しているのは何か			授業中の配布資料を読み返し、ディスアビリティの概念について理解を深める。		60	
第4回	「ニーズ（必要）」と「ディマンド（需要）」——支援を必要とする人は誰か			授業中の配布資料を読み返し、福祉制度における必要と需要を把握することについて理解を深める。		60	
第5回	資源の再分配——どうやって「公平な社会」を作るのか			授業中の配布資料を読み返し、福祉社会における資源の再分配と公共哲学の理論について理解を深める。		60	
第6回	専門主義と官僚制——福祉制度の設計は専門家に任せるべきなのか			授業中の配布資料を読み返し、福祉制度の設計とその思想的な背景について理解を深める。		60	
第7回	到達度の確認 ・第2回～第5回の授業の内容にもとづいて中間レポートを作成する。			第2回～第5回の授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。		60	
第8回	福祉国家の分類——どのような福祉社会がありうるか			授業中の配布資料を読み返し、福祉国家の類型とその代表的な例について理解を深める。		60	
第9回	福祉国家の国家間比較（1）——アメリカの福祉社会のデザインとは			授業中の配布資料を読み返し、アメリカ合衆国のウェルフェア・キャピタリズムについて理解を深める。		60	
第10回	福祉国家の国家間比較（2）——ドイツの福祉社会のデザインとは			授業中の配布資料を読み返し、ドイツの社会保険政策と相互扶助について理解を深める。		60	
第11回	福祉国家の国家間比較（3）——スウェーデンの福祉社会のデザインとは			授業中の配布資料を読み返し、スウェーデンの社会政策と現代の問題点について理解を深める。		60	
第12回	多様化する福祉の担い手（1）——グローバル化は社会をどう変えるか			授業中の配布資料を読み返し、グローバル化が社会にもたらす変化について理解を深める。		60	
第13回	多様化する福祉の担い手（2）——ジェンダー主流化は社会をどう変えるか			授業中の配布資料を読み返し、ジェンダー主流化が社会にもたらす変化について理解を深める。		60	
第14回	授業の総括 ・授業の内容にもとづいて最終課題レポートを作成する。			これまでの授業を復習しておき、自分の言葉で要点を説明できるようにする。		60	
〔授業の方法〕 本授業は講義形式で実施します。ガイダンスを除く講義回（第2回～第6回、第8回～第13回）では毎回の授業終了時に、CoursePowerを用いてその授業に関するコメントを提出してもらいます。また、第7回・第14回では、それまでの授業の内容についての理解度を確認する中間レポート・課題レポートをこれもCoursePowerから提出してもらいます。授業内容を丸暗記するのではなく、授業中に扱ったテーマを自分の身近な例に引き寄せて、自分なりに要点を説明できているかという点を重視します。							
〔成績評価の方法〕							

毎回の授業時に課されるコメント提出を平常点として 50%、授業第 7 回の中間レポートと授業第 14 回の課題レポートの評価の合計を課題得点 50%の配分で、総合的に評価する。これらの課題はすべて CoursePower から提出する。

〔成績評価の基準〕

成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 福祉社会の設計とその思想的な背景について、自分自身の言葉で要点を説明することができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。

〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕

特になし。

〔テキスト〕

『福祉社会——包摂の社会政策（新版）』武川正吾、2011、有斐閣アルマ（ISBN・10: 464112406X） ※購入の必要なし

〔参考書〕

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕

本講義は対面授業で実施するので、授業終了後に教室で受け付けます。また、講師への問い合わせ先は第 1 回授業の資料に記載します。

〔特記事項〕

科目名		共生社会トピックス（日本女性史）					
教員名		酒井 晃					
科目No.	120831110	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 後期
〔テーマ・概要〕 【テーマ】日本近現代史における「女らしさ」のつくられかた、性差のあり様 【概要】20 世紀日本を対象とし、女性史・ジェンダー史の観点から、「女らしさ」のつくられかた、性差のあり様について考える。。本講義では、時代の要請によっていかに性差が形作られるかを理解する。その際、政治・経済・社会・文化・思想を横断的に論じ、現在を生きる私たちとの共通点と相違点を考察することを目的とする。							
〔到達目標〕 ・20 世紀日本における歴史のなかから、「男らしさ」「女らしさ」のつくられかた、性差のあり様を時代状況を踏まえて理解することができる（DP 2） ・歴史を踏まえて、現在との共通点と相違点を理解し、現在のジェンダーをめぐる問題について、論理的に考察することができる（DP 3）							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修 の目安（分）	
第 1 回	ガイダンス			【予習】シラバスを熟読する。 【復習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する。		60	
第 2 回	「国民化」とジェンダー			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 3 回	デモクラシーと「新しい女」			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 4 回	近代家族の形成			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 5 回	戦争と「男らしさ」			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 6 回	戦争と「女らしさ」			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 7 回	敗戦とジェンダー			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 8 回	特論（1）植民地とジェンダー			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 9 回	特論（2）記憶をめぐる抗争——日本軍「慰安婦」論争			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 1 0 回	冷戦体制の構築とジェンダー			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 1 1 回	高度経済成長と性別役割分業の広がり			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 1 2 回	ウーマン・リヴの胎動			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 1 3 回	男女共同参加社会とは何か			【予習】高校教科書等を用いて、近現代史の部分を復習する 【復習】配布されたプリントを熟読する。		60	
第 1 4 回	まとめ			【予習】これまでの授業を振り返る。 【復習】授業全体を復習する		60	
〔授業の方法〕 スライドおよび配布資料をもとに、講義形式で実施する。 講義は通史的な回と高校までの歴史教科書ではあまり取り上げられていないテーマを用いる回（特論）に分かれている。 なお、通史部分の対象時期はおおむね第 2 回～第 4 回が明治期（19 世紀中盤から 20 世紀前半）、戦前期（1910 年～1930 年代初期）、第 5 回～第 7 回が戦時・占領期（1930 年代～1950 年代初期）、第 10 回～第 13 回が戦後（1950 年代以降）である。また、受講生の関心によって、多少の変更をおこなう場合もある。							
〔成績評価の方法〕 ①リアクションペーパーの内容（40 点） ②期末試験（60 点） 計：100 点満点							

〔成績評価の基準〕 成蹊大学の成績評価基準（学則第 38 条、39 条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
〔必要な予備知識／先修科目／関連科目〕 特になし
〔テキスト〕 特に指定しない
〔参考書〕 久留島典子ほか編『歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史』（大月書店、2015 年） 山口みどりほか編『論点 ジェンダー史学』（ミネルヴァ書房、2023 年） ※購入の必要なし
〔質問・相談方法等（オフィス・アワー）〕 ポータルサイトで周知する。 また、授業終了後に教室で受け付ける。
〔特記事項〕

科目名	共生社会トピックス（アートと社会）						
教員名	横原 彩						
科目No.	120831120	単位数	2	配当年次	2年生	開講時期	2025 前期
〔テーマ・概要〕 「アートプロジェクト」という言葉を耳にしたことはありますか？ 「アートプロジェクト」とは、おもに 1990 年代以降、日本各地で展開されている共創的芸術活動のことです。「アートプロジェクト」は現代美術にダンス、音楽、演劇など、さまざまな芸術ジャンルで織りなされています。大きな特徴としては、アーティストたちが、美術館や公共ホールなどの施設から飛び出して、野外やまちなか、廃校、廃屋、古民家などで展覧会や演奏会をおこなっていること、さまざまな属性の人びとが関わるコラボレーションと、それを誘発するコミュニケーションが生じていること、作品を展示や上演だけでなく、多彩な社会的事象と関わりながら展開されていることです。特に近年では、拠点づくりやコミュニティの課題を解決するための社会実験的な活動、芸術以外の社会的包摂や教育、医療などの分野まで、その影響が波及しています。 本授業では、実際におこなわれている多様な「アートプロジェクト」の実践を紹介し、「芸術と社会の関係性」について思いを巡らせながら、考察を重ねていきます。							
〔到達目標〕 アートプロジェクトの実践事例を学び、以下の視座を獲得することを目指します。 ①「芸術」との関わり方は、「制作する」「鑑賞する」だけではないことを知る。 ②「芸術」と「社会」の間にある関係性をふりかえり、「芸術」は芸術家やアーティスト、愛好家など限られた人々だけのものではなく、自分自身もその主体であるという意識を持つ。 ③「芸術」を通して社会の課題を解決するという観点について、自分自身の視座を見出す。 これらの目標を達成することによって、DP1、DP2、DP3 および DP4 を実現し							
〔授業の計画と準備学修〕							
回数	授業の計画・内容			準備学修（予習・復習等）		準備学修の目安（分）	
第1回	オリエンテーション 【内容】 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。			【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。		60	
第2回	アートプロジェクトとは 【内容】 アートプロジェクト概説 アートプロジェクトの現在			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第3回	地域とアートプロジェクト：事例紹介編 【内容】 地域の課題に向き合うアートプロジェクトの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第4回	地域とアートプロジェクト：理論編 【内容】 地域の課題に向き合うアートプロジェクトについて理論面からアプローチする。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第5回	まちづくりとアートプロジェクト：事例紹介編 【内容】 まちづくりと連携するアートプロジェクトの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第6回	まちづくりとアートプロジェクト：理論編 【内容】 まちづくりと連携するアートプロジェクトについて理論面からアプローチする。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第7回	教育とアートプロジェクト：事例紹介編 【内容】 教育現場と連携するアートプロジェクトの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第8回	教育とアートプロジェクト：理論編 【内容】 教育現場と連携するアートプロジェクトについて理論面からアプローチする。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第9回	社会包摂とアートプロジェクト：事例紹介編 【内容】 社会包摂的取り組みを実践するアートプロジェクトの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第10回	社会包摂とアートプロジェクト：理論編 【内容】 社会包摂的取り組みを実践するアートプロジェクトについて理論面からアプローチする。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。		60	
第11回	多文化共生とアートプロジェクト：事例紹介編 【内容】 多文化共生的取り組みを実践するアートプロジェクトの事例を紹介する。			【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めて		60	

		おく。	
第12回	多文化共生とアートプロジェクト：理論編 【内容】 多文化共生的取り組みを実践するアートプロジェクトについて理論面からアプローチする。	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第13回	震災とアートプロジェクト：事例紹介編 【内容】 震災復興や防災領域と連携するアートプロジェクトの事例を紹介する。	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
第14回	震災とアートプロジェクト：理論編 【内容】 震災復興や防災領域と連携するアートプロジェクトについて理論面からアプローチする。	【予習】参考図書や資料などを概観し、自身の興味関心がある視座を明確にしておくこと。 【復習】講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、文献等の資料を探し、知見を深めておく。	60
[授業の方法] 授業は主に講義形式でおこなうが、トピックに応じてグループワークやディスカッションを行う双方向授業を取り入れることから、十分な予習と復習が求められる。 また、課題レポートの執筆を通して調査研究の実践を経験し、期末レポートの執筆によって、知識の定着と自身の興味関心の拠り所を言語化する技術を習得する。 ※準備学習の時間はあくまで目安であり、各自の理解度に応じて取り組むこと。 ※社会情勢や授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある。 ※学生証の不正利用（複数所持、貸し借り）、			
[成績評価の方法] 平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50% 課題レポート：20% 期末レポート：30% ※レポートの執筆にあたっては、履修要項の「学期末試験・レポート」項目にある、レポートの「注意事項」を要参照のこと。 ※ChatGPT等の生成AIの出力をそのまま、あるいは多少表現を変えた程度で提出することは原則認めない。成蹊大学におけるChatGPT等の生成AI利用に関する指針（ https://www.seikei.ac.jp/university/news_top ）			
[成績評価の基準] 成蹊大学の成績評価基準（学則第38条、39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ①「芸術」と「社会」の関係性について、自分自身で課題を見出すことができるか。 ②自らが見出した課題と視座について、考察し、言語化することができるか。			
[必要な予備知識／先修科目／関連科目] 特になし			
[テキスト] 特になし			
[参考書] 『アートプロジェクト 芸術と共創する社会』熊倉純子監修、水曜社、本体3,200円＋税、9784880653334 ※購入の必要なし 『アートプロジェクトのピアレビュー 対話と支え合いの評価手法』熊倉純子・槇原彩編、水曜社、本体1,600円＋税、9784880654812 ※購入の必要なし 「日本型アートプロジェクトの歴史と現在 1990年→2012年」補遺 URL： https://tarl.jp/archive/art_projects_history_japan_1			
[質問・相談方法等（オフィス・アワー）] ポータルサイトで周知する。			
[特記事項] アクティブ・ラーニング			